高校アーチェリー会報

第8号



全国高体連アーチェリー専門部

1994年4月

株式会社 ハスコ・エンタープライズ
〒543 大阪市天王寺区堂ヶ芝2－5－4
☎ 06-774-0130 FAX 06-774-0081

いよいよ、登場！

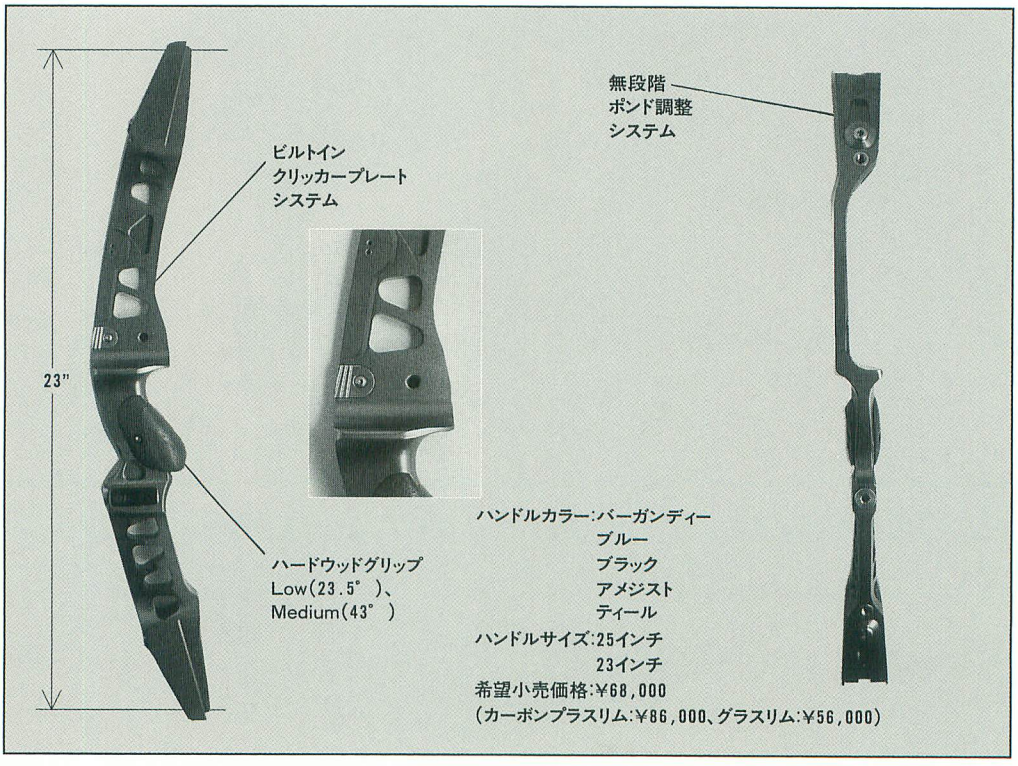
Winner, Radian

HOYT Radian(レイディアン)。最新テクノロジーと世界のトップ・アーチャーの豊かな経験とが息づく、先進のボウ・ハンドル。2年の歳月をかけて生み出された「レイディアン」は、まさに、究極のハンドルライザーといえるでしょう。しかも、25インチと23インチの2タイプ。これこそ、私たちが待ち望んでいたボウ・ハンドルです。卓越した精度と正確性は、「Winner」(勝利者)という名を与えるに最もふさわしいものといえます。いまここに「レイディアン」をお届けできることは、ハスコアーチェリーの限りない喜びです。

ハンドル・リム組み合わせ仕様

弓の長さ	ハンドル	リムサイズ	ドローウエイト
64"	23"	ショート	28#～50#
66"	23"	ミディアム	28#～50#
	25"	ショート	26#～48#
68"	23"	ロング	28#～50#
	25"	ミディアム	26#～48#
70"	25"	ロング	26#～48#

＊ドローウエイトは、AMOレングス28"で、2ポンド刻みの表示です。



目　　次

巻頭言　　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　部　長　松崎　洋右 …… 1
委員長挨拶　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　委員長　薮内　　徹 …… 2
沿　革 …… 3
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　顧問・監事一覧 …… 5
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　役員名簿一覧 …… 5
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　委員名簿一覧 …… 6
学校登録一覧 …… 7
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録状況一覧 …… 17
1993ジュニアチーム海外派遣　　關　　正俊 ・ 立入　彰修 ・ 五百蔵政雄 …… 18
1993全国選手権大会優勝校紹介　　横浜学園・大分東明高校 …… 46
学校紹介　大阪高校・滝川高校・横須賀高校 …… 52
特別寄稿「基本射形の考え方と注意点」全日本アーチェリ連盟強化部　広瀬　明 …… 59
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届の流れについて …… 64
登録届記入法 …… 65
指定都道府県番号表 …… 66
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届用紙 …… 67
全国選手権大会　栄光のあゆみ　同大会記録 …… 68
全国選抜大会栄光のあゆみ　同大会記録 …… 70
日本高校記録　参考記録（室内） …… 71
日本高校記録 …… 72
ＦＩＴＡ世界記録・日本記録 …… 73
記録収集について …… 74
高校公認記録規程 …… 77
記録承認申請書様式 …… 79
大会開催地・開催順 …… 81
平成７年度以降の全国高等学校アーチェリー選手権大会について …… 82
服装規定 …… 84
大会実施要項に記載すべき内容 …… 85
大会プログラム作成の基準について …… 87
全国高体連アーチェリー専門部規約 …… 93
総務委員会規程 …… 96
競技委員会規程 …… 97
審判委員会規程 …… 98
強化委員会規程 …… 99
事務局規程 …… 100
アーチェリー専門部表彰規程 …… 101
アーチェリー専門部慶弔規程 …… 102
口座番号・斡旋物資についての問い合わせ先 …… 103
あとがき …… 104

巻　頭　言

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
部長　松崎洋右



５年度の行事も諸先生方の御協力により、素晴らしい実績を残し無事終わろうとしています。

本年度専門部として最大の行事であった、全国高校総合体育大会も関係者の絶大なる御協力と御援助を戴き無事に大会を終了することができました。

新しい競技ルールでの初めての大会であったが、参加チームの生徒が運営に満足して帰省したことは、大会役員および専門部の先生方の御努力があったからこそと思いお礼を申し上げる次第です。またこの大会を特集していただいた「雑誌」でも、『めまぐるしく変わる順位とスピード感、１射のミスも許されないという緊迫感。そして、それゆえに試合後の選手のさまざまな表情が見る者の胸を打った。歓喜、無念、うれし涙、悔し涙、これほどの選手の豊かな表情が大会を飾った試合は私の記憶にない』と論評しております。

貴重な体験をさせていただきました、御世話をかけた行政機関、地元馬頭町、競技団体、多くの方々に心から御礼を申し上げます。

再び競技方法も変わりつつあります。今後とも素晴らしい成績を残すためにも、決意を新たにし、徹底的に体力・気力を充実させて、集中力を高めると共に、コンデションの調整にも万全を期し奮闘していただきたいと思います。

スポーツで全国にその名声をはせるためには、人に倍した忍耐と努力が必要なことは申すまでもありません。あらゆる苦難に打ち克っての練習、精進を続けた者のみに、心も体もたくましい、たわむとも折れることのない強靭な精神と肉体が育つものです。

先生方の日頃の御苦労、御協力に対し敬意を表すとともに、今後とも専門部発展のためご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

委員長あいさつ



全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
委員長　薮内　徹
（滋賀県立伊吹高等学校）

高等学校におけるアーチェリー競技もインターハイに参加するようになって、組織的、技術的にも向上してまいりました。これもひとえに全国各地において各校のクラブ顧問の先生がたが努力されたたまものと考えています。

高校生の無限の可能性と将来性を考えるとき、先生がたのお力がいかに偉大であるかが想像されます。近年特に、高校生アーチャーの活躍は国内のみならず、海外でも世界の強豪を相手に堂々と競技をしています。アーチェリーを通して、同じ競技をする仲間とふれあい、技術の向上を図り、国際人として将来の日本の先駆者たる下地を養っていることは、実に頼もしいことです。ただし、点数的にはお隣の国の韓国や中国といった世界のトップ水準を走っている国に、大きく水を開けられているのが現状です。これを打破し、世界ジュニア大会やオリンピックでメダルをとるためには、選手の気力・体力・技術の養成鍛練は言うまでもなく、指導者や組織の強化策の充実が、今後の課題であると思います。

しかし、高校時代の活動は、アーチェリーの技を競い合い勝負を決するだけではありません。お互いに交流を深め、友情の輪を広げ、青春の貴重な体験をこれからの生活に生かしていくことも活動の大事な目標です。アーチェリーを通して培った強い精神力とフエアープレーの精神で、今後の社会人として活躍できる人間を形成することも大切なことです。

各高等学校におかれましても、これらを念頭におき、監督と選手が一体となって、より一層の精進を重ね、益々前進していかれますことを期待しておりますとともに、我々専門部の組織も努力し斬新な考えで運営していかなければ、今後の発展は有り得ないと思います。

沿　革

昭和13年	・アメリカから帰国した、菅　重義氏により日本にアーチェリーが紹介される。
昭和22年	・日本洋弓会が設立される。（愛好者が増加傾向）
昭和34年	・日本アーチェリー協会設立 （学校への活動用具貸与による援助始まる）
昭和37年	・高校生を対象とした近畿総合体育大会が、全国で初めて開催される。
昭和43年	・第１回全国高校アーチェリー競技会開催（東大阪市・旧布施市）
昭和44年	・第２回全国高校アーチェリー競技会開催（静岡県）
昭和45年	・競技会の名称変更「全国高等学校アーチェリー選手権大会」以後より今日に至る。
昭和46年	・選手権参加規定変更・任意参加を各都道府県で２校以内と前年度優勝校に参加を制限。 ・組織を「全国アーチェリー連盟高校部」に改称
昭和49年	・選手権参加規定変更・各都道府県の代表校制に変更、男女１校と前年度優勝校に改正。 ・優勝碑「ダイアナ」（狩猟の女神：ギリシャ神話）が新たに新調される。 （川上源一氏と滋賀県協会の格別の好意により、ブロンズ像制定。） 【制作者：小谷　謙氏・日展会員・京都府在住】
昭和51年	・運営組織のより一層の明確化が図られる。 ・木村好治氏（青森県アーチェリー協会・元名久井農業高校校長）を初代高校部長に選出。 ・改定組織関係役員決定。
昭和52年	・選手権参加規定変更・団体出場校以外の学校より、個人選手の参加を認める。
昭和53年	・大会開催基準・運営細則に関する全面的な見直し、改正に着手。 （協会主導の運営から、高校サイドへの移行に伴い）
昭和54年	・部長、理事長制及び各都道府県ブロックの実情に即した常任理事や代表理事制を取り入れる。初代理事長に中田　昇氏を選出。 ・全国大会記録集創刊 ・全国高体連加盟に向け、高体連旗・表彰等の使用申請の働き掛けが始まる。
昭和55年	・全国高体連へ加盟申請する。 ・中田　昇氏　二代目高校部長に選出。 ・総務・競技・強化・事務局の４部門を設定し、積極的な組織運営策の取組が始まる。
昭和56年	・全国選手権大会開催方針変更・大会経費内部負担の軽減・大会運営への地元高校への協力要請 ・専門部設置県の増加を目指し、各地で運動広がる。

昭和57年	・小笠原朋憲氏三代目高校部長に選出。高体連加盟申請継続
昭和58年	・全国高体連正式加盟への手順決定される。 ・第１回全国高校選抜大会開催（愛知・森林公園） ◎準加盟として競技種目を扱う。 ◎名義共催と全国総体開催期間中の同時開催禁止。 ◎加盟については、おおむね30都道府県で高体連加盟が審議条件または、40都道府県に於いて　実質的な活動の場合。
昭和59年	・組織拡充と事業実施内容等の統一化に向けて運動強化。 ・ジュニア選手の強化並びに全米選手権大会への派遣事業始まる。
昭和61年	・清本　修氏理事長に選出。 ・学校登録指定番号・ランキング制度開始。 ・会報の発刊始まる。
昭和62年	・アーチェリー専門部設置に向けて、各都道府県高体連事務局への意向調査、協力要請を行う。
昭和63年	・全国高体連への加盟承認される。（５月） ・新組織による常任委員会開催。（伊豆下田市） ・審判委員会を設置する。 ・全国高体連専門部規約審議、原案決定。 ・里見勝人氏（淑徳高校校長）四代目高校部長に選出。副部長に松崎洋右氏（大宮開成高）猪飼　彰氏（愛工大名電高）の２名を選出。 ・清本　修氏（可部高校）初代専門委員長に選出。 ・中込恵子（山梨・甲府第一高）オリンピック代表へ。
平成元年	・五代目高校部長　松崎洋右氏（大宮開成高）を選出
平成２年	・副部長に越田　稜氏（学習院高）を選出。清本　修氏退職にともない、４月より藪内徹氏（伊吹高校）が専門委員長を代行する。
平成３年	・４月　藪内徹氏（伊吹高校）２代目専門委員長に選出。 ・７月　第１回ジュニア世界選手権大会（ノルウェー）へ選手派遣。
平成５年	・４月　猪飼彰氏顧問に。鵜飼泰勇氏（愛知高校）を副部長に選出。 ・８月　全国高校総合体育大会参加（栃木県）

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部顧問・監事

平成５年・６年

役職名		氏名	勤務先		学校名	電話	FAX
顧問		木村　好治	〒039-15青森県三戸郡五戸町字天満後46		元全国高校部長		
		小笠原朋憲	〒153	東京都目黒区駒場1-35-32	元全国高校部長	03-3467-2130	
		里見　達人	〒174	東京都板橋区前野町5-14-1	元全国高校部長	03-3969-7411	
		清本　修	〒731-03広島県高田郡八千代町上根827-2		前専門委員長	0826-52-3606	
監事	監査	若林　武正	関東	〒235　横浜市磯子区岡村2-4-1	横浜学園高	045-751-6941	045-761-7965
	監査	神谷　育孝	近畿	〒602　京都市上京区今出川通寺町西入	同志社女子高	075-251-4305	075-251-4308

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部役員名簿

平成５年・６年

役職名		氏名	勤務先		学校名	電話	FAX
部長		松崎　洋右	〒330　埼玉県大宮市堀之内1-615		大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
副部長		越田　稜	〒171	東京都豊島区目白1-5-1	学習院高等科	03-3986-0221	03-5992-1016
		鵜飼　泰勇	〒464	名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高校	052-721-1521	052-723-2254
委員長		薮内　徹	近畿	〒521-02滋賀県坂田郡山東町朝日302	伊吹高	0749-55-2350	0749-55-2778
副委員長	総務 強化	田中　康彦	東海	〒465　名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高	052-721-1521	052-723-2254
	競技 審判	雨宮建次郎	関東	〒153　東京都目黒区駒場1-35-32	東京工業高	03-3467-2130	03-3467-2138
常任委員	総務 委員長	吉田　五衛	北信越	〒910　福井市御幸2-25-8	高志高	0776-24-5175	0776-24-5177
	競技 委員長	水野慎一郎	東海	〒464　名古屋市千種区若水3-2-12	愛知工大名電高	052-721-0311	052-722-8302
	審判 委員長	嶋守　英敏	東北	〒034　青森県十和田市相坂字高清水78	三本木農業高	0176-25-2215	0176-23-5341
	強化 委員長	水上　英彦	東海	〒416　静岡県富士市平垣町1-1	富士見高	0545-61-0250	0724-63-5040
	総務 委員	佐幸　修	近畿	〒543　大阪市阿倍野区天王寺町南2-8-19	大阪女子商高	06-719-2801	06-714-0045
	競技 委員	横山　幹夫	北信越	〒916　鯖江市熊田町10-7	丹南高	0778-62-2112	0778-62-2102
	競技 委員	金川　真二	中国	〒731-02広島市安佐北区可部3-15-25	可部高	082-814-2032	082-814-2140
	競技 委員	住友　和雄	四国	〒770　徳島市北矢三町2-1-1	徳島工業高	0886-31-4185	0886-31-1110
	審判 委員	勢司　凱雄	北海道	〒062　札幌市豊平区月寒東1-3	札幌月寒高	011-851-3111	011-351-3112
	審判 委員	日野　正晴	東北	〒997　山形県鶴岡市若葉町26-31	鶴岡南高	0235-22-0061	0235-24-5941
	強化 委員	堤　幸祐	九州	〒874-01別府市大字野田78	別府女子短大付属	0977-67-6908	0977-67-8255
事務局	局長	宮崎　利幌	関東	〒330　埼玉県大宮市堀ノ内1-615	大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
	局員	小坂　純彰	関東	〒171　東京都豊島区目白1-5-1	学習院高	03-3986-0221	03-5992-1016
	局員	松宮　博	関東	〒344　埼玉県春日部市上大増新田213	春日部共栄高	048-737-7611	048-737-8093

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部委員名簿

平成５年・６年

	都道府県名	氏　名	学　校　名	〒	所　在　地	電　話	ＦＡＸ
1	北海道	勢司凱雄	道立　札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東1-3	011-851-3111	011-851-3112
2	青　森	嶋守英敏	県立　三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3	岩　手	佐藤邦明	県立　盛岡工業高	020	紫波郡都南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134
4	宮　城	遠藤誠一	市立　仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
5	秋　田	秋田県アーチェリー協	佐藤　徹　方	013-01	平鹿郡平鹿町清水の上95-3	0182-24-2464	
6	山　形	日野正晴	県立　鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
7	福　島	渡辺正仁	県立　田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
8	茨　城	奥倉　裕	私立　水城	310	水戸市白梅２丁目１番地45号	0292-47-6509	0292-48-3841
9	栃　木	後藤明男	県立　馬頭高	329-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
10	群　馬	佐藤　功	県立　前橋高	371	前橋市下沖町321-1	0272-32-1155	0272-33-1046
11	埼　玉	宮崎利幌	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
12	千　葉	西尾　顕	県立　京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
13	東　京	上原喜八	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
14	神奈川	若林武正	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村２丁目４番１号	045-751-6941	045-761-7956
15	山　梨	吉成　謙	県立　甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16	新　潟	坂西精一	県立　長岡工業高	940	長岡市幸町２丁目７番70号	0258-36-4510	0258-39-2054
17	長　野	山上達夫	県立　長野南	381-22	長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	0262-83-3143
18	富　山	浦田照行	県立　魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
19	石　川	中村　司	県立　金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
20	福　井	横山幹夫	県立　丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21	静　岡	水上英彦	富士見高	416	富士市平垣町１番１号	0545-61-0250	0545-63-5040
22	愛　知	荻原茂樹	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉２丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
23	三　重	加藤　多	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村１番地	0598-29-4151	0598-29-6944
24	岐　阜	津田博司	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
25	滋　賀	富永雅博	県立　虎姫高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
26	京　都	神谷育孝	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入	075-251-4305	075-251-4308
27	大　阪	佐幸　修	大阪女子商業高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南２丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28	兵　庫	荒木亨典	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町６丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070
29	奈　良	高見喬宏	県立　奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30	和歌山	辻内正昭	県立　貴志川高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
31	鳥　取	山根俊一	県立　倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1341
32	島　根	島根県アーチェリー協	松田電気店気付	690	松江市天神町35	0852-24-9562	
33	岡　山	後藤　浩	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
34	広　島	金川真二	県立　可部高	731-02	広島市安佐北区可部３丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
35	山　口	坂本憲昭	県立　下松高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	0833-41-3147
36	香　川	吉良洋平	県立　高松西高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
37	徳　島	住友和雄	県立　徳島工業高	770	徳島市北矢三町２丁目１番１号	0886-31-4185	0886-31-1110
38	愛　媛	愛媛県アーチェリー協	岡田　光彦　方	791	松山市高浜町1-1432-24	0899-52-3200	
39	高　知	高知県アーチェリー協	山崎　和朗　方	780	高知市西久万351-1	0888-24-0562	
40	福　岡	藤川　毅	県立　柏陵高	815	福岡市南区柏原４丁目47番１号	092-566-3232	092-565-2109
41	佐　賀	長谷川紘之	県立　佐賀農芸高	849-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2005
42	長　崎	大塚敬輔	県立　大村工業高	856	大村市森園1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
43	熊　本	長野　浩	熊本フェリス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44	大　分	堤　幸祐	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
45	宮　崎	宮崎県アーチェリー協	日本体育学校健康センター内	880	宮崎市宮田町1-11　宮崎自治会館内	0985-28-5155	
46	鹿児島	東　哲男	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	0992-52-7688
47	沖　縄	島袋盛範	県立　中部商業高	901-22	宜野湾市字我如古171番地	098-898-4888	098-888-4808

学校登録一覧表

（太字都道県名は、高体連加盟）

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
北海道	01H01	道立 札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東１条３丁目	011-851-3111	011-851-3112
21校	01H02	市立 札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
	01H03	道立 小樽潮陵高	047	小樽市潮見台2丁目1番1号	0134-22-0754	0134-22-5954
	01H04	函館ラサール高	041	函館市日吉町1丁目12番1号	0138-52-0365	0138-54-0365
	01H05	道立 室蘭清水丘高	051	室蘭市増市町２丁目	0143-23-1221	0143-23-1221
	01H06	道立 登別南高	059	登別市青葉町42番地1	0143-85-8586	0143-85-8586
	01H07	道立 旭川南高	071-01	旭川市西神楽４線６号	0166-65-8770	0166-65-8772
	01H08	道立 清水高	089-01	上川郡清水町北２条西2丁目2番地	01566-2-2156	01566-2-2156
	01H09	道立 帯広三条高	080-24	帯広市西23条2丁目12番地	0155-37-5501	0155-37-5503
	01H10	道立 帯広工業高	080	帯広市南町南８線西24-1	0155-48-5650	0155-48-2680
	01H11	道立 幕別高	089-06	中川郡幕別町南町81番地	0155-54-2977	0155-54-2159
	01H12	道立 札幌西高	064	札幌市中央区宮ノ森4条8丁目1番地	011-611-4401	011-611-4403
	01H13	道立 札幌啓成高	004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目6-1	011-898-2311	011-898-2313
	01H14	道立 札幌開成高	065	札幌市東区北22条東21丁目	011-781-8171	011-781-5629
	01H15	道立 旭川北高	070	旭川市花咲町３丁目	0166-51-4620	0166-51-2818
	01H16	道立 旭川工業高	078	旭川市西神楽３線５号	0166-65-4115	0166-65-4127
	01H17	帯広緑陽高	080	帯広市空港南町南９線34-1	0155-48-6605	0155-48-6603
	01H18	紋別北高	094	紋別市落石町１丁目３番18号	01582-4-5285	01582-4-5285
	01H19	県立 紋別南高	094	紋別市南が丘町６丁目３番47号	0152-3-3068	01582-3-3974
	01H20	道立 鹿追高	081-02	河東郡鹿追町西町１丁目８番	01566-6-3011	01566-6-3012
	01H21	道立 札幌白石高	003	札幌市白石区川北2261番地	011-872-2071	011-872-2072
	01H22					
青森県	02H01	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
13校	02H02	県立 藤崎園芸高	038-38	南津軽郡藤崎町大字藤崎字下袋7の10	0172-75-3302	0172-75-6470
	02H03	八戸工業大学第二高	031	八戸市大字妙字中居林	0178-25-4311	0178-25-0568
	02H04	県立 むつ工業高	039-51	むつ市文京町22の7	0175-24-2164	0175-29-2893
	02H05	八戸工業大学第一高	031	八戸市白銀町右岩渕通7の10	0178-33-5121	0178-34-3942
	02H06	県立 名久井農業高	039-05	三戸郡名川町下名久井字下諏訪平1番地	0178-76-2215	0178-76-2260
	02H07	県立 青森西高	038	青森市新城字平岡226の20	0177-88-0372	0177-88-8038
	02H08	県立 青森東高	039-35	青森市大字原別字遠山13番地	0177-36-2444	0177-36-5866
	02H09	青森山田高	030	青森市浜田字板橋23	0177-39-2001	0177-39-1597
	02H10	県立 青森中央高	030	青森市大字浦町字奥野428番地	0177-39-5135	
	02H11	県立 五所川原農林高	037	五所川原市大字一野坪字朝日田2-37	0173-37-2121	
	02H12	県立 八戸南高	031	八戸市大字鮫町小舟渡平2-291	0178-34-6001	
	02H13	県立 五戸高	039-15	三戸郡五戸町字根岸6番地	0178-62-2828	0178-62-4435
	02H14					
	02H15					
	02H16	県立 柏木農業	036		0172-44-3015	
岩手県	03H01	県立 盛岡工業高	020	紫波郡都南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134
３校	03H02	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸４丁目29番16号	0196-61-6330	
	03H03	県立 住田高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	03H04					
	03H05					
宮城県	04H01	市立 仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	
2校	04H02	東陵高	988	気仙沼市字大峠山1番1号	0226-23-3100	0226-23-3107
	04H03					
	04H04					
秋田県	05H01	県立 大館東高	017	大館市釈迦内字獅子ケ森１番地	0186-48-6607	
1校	05H02					
山形県	06H01					
6校	06H02	天真学園高	998	酒田市浜田1丁目3-47	0234-22-4733	
	06H03	県立 鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
	06H04	県立 鶴岡北高	997	鶴岡市若葉町16-５	0235-22-2262	0235-24-6101
	06H05	県立 鶴岡家政高	997	鶴岡市新形町16-20	0235-22-1200	0235-22-1200
	06H06	県立 鶴岡工業高	997	鶴岡市家中新町８－１	0235-22-5505	0235-25-1877
	06H07	県立 山添高	997-03	東田川郡櫛引町大字上山添字文栄38番地	0235-57-2100	0235-57-2101
	06H08					
	06H09					
福島県	07H01	県立 田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-3385
5校	07H02	県立 福島高	960	福島市森合町５番72号	0245-35-2391	
	07H03	県立 福島南	960	福島市渡利字七社宮17	0245-23-4740	0245-21-6400
	07H04	県立 須賀河女子高	962	須賀川市陣場町128	0248-75-2151	0248-72-7979
	07H05	県立 岩瀬農業高	969-04	岩瀬郡鏡石町大字鏡田字桜町207	0248-62-3145	
茨木県	08H01	私立 水城	310	水戸市白梅２丁目１番地45号	0292-47-6509	0292-48-3841
1校	08H02					
栃木県	09H01	県立 馬頭高	324-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
3校	09H02	県立 黒羽高	324	那須郡黒羽町前田780	0287-54-0179	0287-54-4179
	09H03	県立 鳥山高	321	那須郡烏山町中央３丁目９番８号	0287-83-2075	0287-83-0145
群馬県	10H01	県立 沼田女子高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	
11校	11H02	県立 藤岡北高	375	藤岡市篠塚90	0274-22-2308	
	10H03	県立 沼田高	378	沼田市西原新町1510番地	0278-23-1313	
	10H04	県立 太田高	373	太田市西本町12の1	0276-31-7181	
	10H05	県立 安中実業高	379-01	安中市安中1-2-8	0273-81-0227	0273-82-7207
	10H06	県立 館林女子高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0186	
	10H07	県立 桐生西高	376	桐生市相生町3丁目551-1	0277-52-2455	
	10H08	高崎商科短期大学附属高	370	高崎市大橋町237番地の1	0273-22-2827	0273-22-2827
	10H09	私立 新島高	379	安中市安中3702	0273-81-0240	0273-81-0630
	10H10	県立 高崎東高	370	高崎市元島名町1510	0273-52-1251	0273-53-0994
	10H11	私立 前橋育英高	371	前橋市朝日が丘町13	0272-51-7087	0272-52-9419
埼玉県	11H01	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
10校	11H02	県立 豊岡高	358	入間市豊岡1丁目15番1号	0429-62-5216	0429-65-6635
	11H03	県立 行田高	361	行田市大字長野1320番地	0485-56-6291	0485-56-1215

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	11H04	県立 所沢中央高	359	所沢市並木8丁目2番	0429-95-6088	0429-94-6557
	11H05	春日部共栄高	344	春日部市上大増新田213	048-737-7611	048-737-8093
	11H06	花咲徳栄高	347	加須市花崎江橋519	0480-65-7181	0480-65-4893
	11H07	県立 上尾橘高	362	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-726-5397
	11H08	県立 新座高	352	新座市池田1-1-2	0484-79-5110	
	11H09	県立 日高高	350-12	入間郡日高町旭ヶ丘806	0429-89-7920	0429-85-4412
	11H10	県立 北本高	364	北本市古市場１丁目152番	0485-92-2200	0485-90-1009
	11H11					
千葉県 13校	12H01	県立 京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
	12H02	千葉英和高	276	八千代市村上709-1	0474-84-5141	
	12H03	県立 津田沼高	275	習志野市秋津5-9-1	0474-51-1177	
	12H04	県立 磯辺高	260	千葉市磯辺2丁目7番1号	0472-77-2211	
	12H05	県立 松戸矢切高	271	松戸市中矢切54番地	0473-68-4741	
	12H06	県立 姉崎高	299-01	市原市姉崎2632番地	0436-62-0601	
	12H07	県立 流山中央高	270-01	流山市大畔275-5	0471-54-3551	
	12H08	県立 生浜高	260	千葉市塩田町372	0472-66-4591	0472-68-2680
	12H09	県立 船橋高	273	船橋市東船橋6丁目1番1号	0474-22-2188	
	12H10	八街学園高	289-11	印旛郡八街町八街ほ625	0434-43-3221	0434-43-3443
	12H11	拓殖大学紅陵高	292	木更津市桜井1403番地	0438-37-2511	
	12H12	県立 泉高	280-01	千葉市高根町875-1	0472-28-2551	
	12H13	志学館高	292	木更津市真舟3丁目29番1号	0438-37-3131	
	12H14					
東京都 30校	13H01	東京学園高	153	目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641	
	13H02	都立 四谷商業高	165	中野区上鷺宮5-11-1	03-3990-4226	03-3926-7523
	13H03	明治大学付属中野高	164	中野区東中野3丁目3番4号	03-3362-8704	03-3368-3113
	13H04	駒場東邦高	154	世田谷区池尻4-5-1	03-3466-8221	
	13H05	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2138
	13H06	玉川学園高	194	町田市玉川学園6丁目1番1号	0427-28-3503	0427-28-3588
	13H07	都立 山崎高	194-01	町田市山崎町字９号1453-1	0427-92-2891	0427-94-0440
	13H08	学習院高	171	豊島区目白1丁目5番1号	03-3986-0221	03-5992-1016
	13H09	麻布高	106	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	
	13H10	獨協高	112	文京区関口3-8-1	03-3943-3651	03-3943-9119
	13H11	慶応義塾女子高	108	港区三田2丁目17番23号	03-3451-3618	03-3451-3642
	13H12	武蔵野高	114	北区西ケ原4-56-20	03-3910-0151	
	13H13	東海大学付属高輪台高	108	港区高輪2-2-16	03-3441-8234	03-3441-8238
	13H14	早稲田大学高	177	練馬区上石神井3丁目31番1号	03-5991-4151	03-3928-4110
	13H15	城北高	174	豊島区目白5-23-5	03-3956-3157	03-3956-9779
	13H16	足立高	120	足立区千住旭町40-24	03-3888-5331	03-3888-6720
	13H17	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
	13H18	都立 大山高	173	板橋区小茂根5-18-1	03-3958-2121	03-3959-8591
	13H19	昭和第一学園高	190	立川市栄町2-45-8	0425-36-1611	0425-37-6880

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	13H20	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3405	0422-33-3376
	13H21	都立第四商業高	176	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040
	13H22	日体桜華女子高	189	東村山市富士見町2-5-1	0423-91-4133	0423-92-6424
	13H23	明治学院東村山高	189	東村山市富士見町1丁目12番3号	0423-91-2142	0423-91-5926
	13H24	都立館高	193	八王子市館町1097番136	0426-63-3315	0426-62-9831
	13H25	大東文化学園高				
	13H26	藤村女子高				
	13H27	都立野津田高	194-01	町田市野津田町2000番	0427-34-2311	0427-34-9388
	13H28	都立小平西高	187	小平市小川町1-502-95	0423-45-1411	
	13H29	文京女子高	113	文京区本駒込6-18-3	03-3964-5301	03-3964-7294
	13H30	私立国土館	154	世田谷区世田谷4-28-1	03-3421-7042	03-5481-3149
	13H31					
神奈川県	14H01	横浜高	236	横浜市金沢区能見台通46-1	045-781-3396	045-785-1541
18校	14H02	相模女子大学高	228	相模原市文京2-1-1	0427-42-1442	
	14H03	県立横浜緑ヶ丘高	231	横浜市中区本牧緑ヶ丘37番地	045-621-8641	
	14H04	浅野高	221	横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-3281	045-421-4080
	14H05	三浦高	238	横須賀市衣笠栄町3丁目80番地	0468-52-0284	
	14H06	市立横須賀高	238	横須賀市森崎5丁目1番1号	0468-36-0413	0468-36-1361
	14H07	県立東金沢高	236	横浜市金沢区富岡東2丁目6番1号	045-774-1188	045-776-2357
	14H08	県立小田原城内高	250	小田原市南町1-6-34	0465-23-3251	0465-23-6142
	14H09	県立 湘南高通信制少年工科学校	238-03	横須賀市幸浜2-1	0468-56-1291	
	14H10	平和学園高	253	茅ヶ崎市富士見町5番2号	0467-87-0132	0467-87-2088
	14H11	東海大学附属相模高	228	相模原市相南3-33-1	0427-42-1251	0427-42-1159
	14H12	慶応義塾高	223	横浜市港北区日吉4丁目1番2号	044-563-1111	
	14H13	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
	14H14	県立永谷高	233	横浜市港南区下永谷町1-28-1	045-824-2126	045-825-3605
	14H15	市立南高	233	横浜市港南区東永谷町2丁目1番1号	045-822-1910	
	14H16	県立上矢部高	245	横浜市戸塚区上矢部町3230	045-861-3500	045-862-6347
	14H17	鎌倉女学院高	248	鎌倉市由比ヶ浜2-10-4	0467-25-2100	0467-25-1358
	14H18	県立三崎水産高	240	横須賀市長坂1-2-1	0468-56-3128	0468-57-6457
	14H19					
山梨県	15H01	県立甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
6校	15H02	山梨英和高	400	甲府市愛宮町112	0552-52-6184	0522-51-7468
	15H03	甲府湯田高	400	甲府市青沼3丁目10-1	0552-33-0127	0552-33-0129
	15H04	県立農林高	400-01	中巨摩郡竜王町西八幡4533	0552-76-2611	
	15H05	県立機山工業高	400	甲府市下飯田1丁目9番1号	0552-28-7281	
	15H06	私立山梨学院付属高	400	甲府市酒折３丁目3-1	0552-37-1047	0552-35-7091
	15H07					
新潟県	16H01	県立長岡工業高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	0258-39-2054
5校	16H02	敬和学園高	950-31	新潟市太夫浜325	025-259-2391	025-259-7281
	16H03	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
	16H04	県立 新潟中央高	951	新潟市学校町通り2番地5317-1	025-229-2191	
	16H05	新潟県個人登録協会				
長野県	17H01	県立 篠ノ井校	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	
2校	17H02	県立 長野南		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	0262-83-3143
	17H03					
富山県	18H01	高岡竜谷高	933	高岡市古定塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149
5校	18H02	県立 魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
	18H03	新川高	937	魚津市吉島1350	0765-24-2015	0765-24-2015
	18H04	県立 富山中部高	930	富山市芝園町３丁目1-26	0764-41-3541	0764-41-3543
	18H05	県立 大門高	939-02	射水郡大門町二口１番地２	0766-52-5571	0766-52-5571
石川県	19H01	県立 柳田農業高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ倍3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
4校	19H02	県立 金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
	19H03	県立 工業高	920	金沢市本多町2丁目3番6号	0762-61-7156	0762-65-5346
	19H04	県立 金沢桜丘高	920	金沢市大樋町16番1号	0762-52-1225	0762-52-1643
	19H05					
福井県	20H01	県立 丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
4校	20H02	県立 金津高	919-06	坂井郡金津町南金津33-1	0776-73-1255	0776-73-4904
	20H03	敦賀気比高	914	敦賀市沓見164-1	0770-24-2150	0770-24-2620
	20H04	県立 高志高	910	福井市御幸２丁目25-8	0776-24-5175	0776-24-5177
	20H05					
	20H06					
静岡県	21H01	県立 修善寺工業高	410-24	田方郡修善寺町牧之郷892番地	0558-72-3322	0558-72-1955
14校	21H02	富士見高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
	21H03	県立 静岡商業高	420	静岡市田町７丁目90番地	054-255-6241	054-255-9241
	21H04	県立 袋井高	437	袋井市愛野2446-1	0538-42-0191	0538-43-0710
	21H05	県立 浜松工業高	433	浜松市初生町1150	053-436-1101	053-437-9988
	21H06	県立 浜松商業高	432	浜松市文丘町4番11号	053-471-3351	053-475-2109
	21H07	信愛学園高	430	浜松市下池川町34番3号	053-471-5336	053-475-2395
	21H08	興誠高	430	浜松市高林1丁目17番2号	053-471-4136	053-471-4137
	21H09	県立 浜松北高	432	浜松市広沢1丁目30番1号	053-454-5548	053-456-3316
	21H10	県立 浜松湖東高	431-11	浜松市大人見町3600	053-485-0215	053-485-3947
	21H11	県立 三ヶ日高	431-14	引佐郡三ケ日町釣78-1	0535-25-0103	0535-25-0426
	21H12	県立 天竜林業高	431-33	天竜市二俣町二俣601番地	0539-25-3139	0539-25-7422
	22H13	静岡北高	420	静岡市瀬名3240	0542-61-5801	0542-62-5573
	22H14	県立 静岡東高	420	静岡市川合757番地	0542-61-6636	0542-63-5970
	22H15					
	22H16					
愛知県	22H01	愛知高	464	名古屋市千種区光ケ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
19校	22H02	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水3丁目2番12号	052-721-0311	052-722-8302
	22H03	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉２丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
	22H04	愛知女子高	451	名古屋市西区新道1丁目23番15号	052-571-8422	052-561-0713

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
	22H05	東海女子高	468	名古屋市天白区中平２丁目901番地	052-801-6222	052-804-0647
	22H06	東海高	461	名古屋市東区筒井1-2-35	052-936-5112	052-936-9744
	22H07	東邦高	465	名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地	052-782-1171	052-782-7151
	22H08	金城学院高	461	名古屋市東区白壁4-64	052-931-6236	
	22H09	県立 安城東高	446	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231	
	22H10	三河高	444	岡崎市岡町字原山12-10	0564-48-5211	0564-48-5300
	22H11	桜丘高	440	豊橋市南牛川2丁目1番の11	0532-61-6421	0532-63-9278
	22H12	県立 衣台高	471	豊田市太平町平山５番地	0565-33-1080	
	22H13	県立 西尾東高	445	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911	
	22H14	県立 岡崎東高	444-35	岡崎市竜泉寺町字後山27番地	0564-52-8911	
	22H15	名古屋工業高	466	名古屋市昭和区円上町22-38	052-871-2681	052-881-0761
	22H16	中京女子大学附属高	461	名古屋市東区大幸南２丁目1番10号	052-723-0851	052-723-1744
	22H17	市立 向陽高	466	名古屋市昭和区広池町47番地	052-841-7138	052-853-2453
	22H18	県立 豊橋南高	441	豊橋市南清水町元町450番地	0532-25-1476	0532-25-4887
	22H19	県立 岡崎西高	444	岡崎市日名南町７番	0564-25-0751	0564-25-9201
三重県	23H01	三重高	515	松阪市久保町梅村3番地	0598-29-2959	0598-29-6807
３校	23H02	県立 四日市高	510	四日市市大字永字岡山4917	0593-45-3177	0593-45-9549
	23H03	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村１番地	0598-29-4151	0598-29-6944
	23H04					
	23H05					
岐阜県	24H01	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
３校	24H02	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
	24H03	県立 大垣西高	503	大垣市中曽根町字大畔147番地１	0584-91-5611	0584-91-9967
滋賀県	25H01	県立 大津商業高	520	大津市御陵町2-1	0775-24-4284	0775-26-1802
11校	25H02	県立 大津高	520	大津市馬場1丁目1番1号	0775-23-0386	0775-26-1772
	25H03	県立 栗東高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
	25H04	市立 守山女子高	524	守山市勝部町962番地	0775-82-2019	0775-83-2829
	25H05	県立 甲南高	520-33	甲賀郡甲南町寺庄427	0748-86-4145	0748-86-4983
	25H06	県立 八幡商業高	523	近江八幡市宇津呂町10	0748-32-2072	0748-32-4052
	25H07	県立 愛知高	529-13	愛知郡愛知川町102	0749-42-2150	0749-42-6172
	25H08	県立 伊吹高	521-02	坂田郡山東町朝日302番地	0749-55-2350	0749-55-2778
	25H09	県立 長浜商工高	526	長浜市地福寺町3-72	0749-62-3370	0749-65-1344
	25H10	県立 虎姫高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
	25H11	県立 北大津高	520-02	大津市仰木の里１丁目23-1	0755-73-5881	0775-73-7076
	25H12					
	25H13					
京都府	26H01	同志社高	606	京都市左京区岩倉大鷺町89	075-781-7121	075-781-7124
８校	26H02	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4308
	26H03	福知山商業高	620	福知山市字堀水内	0773-22-6224	
	26H04	市立 洛陽工業高	601	京都市南区唐橋大宮尻町22	075-691-3161	
	26H05	市立 紫野高	603	京都市北区紫野大徳寺町22	075-491-0221	

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
	26H06	府立木津高	619-02	相楽郡木津町字木津内田山34	07747-2-0031	07747-2-0031
	26H07	府立兎道高	611	宇治市五ケ庄雲峰4-1	0774-33-1691	0749-33-1696
	26H08	府立府立工業高	620	福知山市大字石原小字上野45	0773-27-5161	0773-27-5162
	26H09					
大阪府	27H01	府立和泉工業高	594	和泉市富秋町33	0725-41-1250	0725-45-8985
15校	27H02	大阪高	533	大阪市東淀川区相川2-18-51	06-340-3031	06-349-3719
	27H03	大阪工業大学高	535	大阪市旭区大宮5丁目16番1号	06-952-3131	06-953-9497
	27H04	大阪女子商業高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
	27H05	関西大倉高	567	茨木市室山2丁目14番1号	0726-43-6321	0726-43-8375
	27H06	市立岸和田産業高	596	岸和田市別所町541	0724-22-4861	0724-22-4862
	27H07	府立久米田高	596	岸和田市額原町	0724-43-6651	0724-43-0307
	27H08	此花学院高	544	大阪市生野区勝山南2丁目6番38号	06-716-0003	
	27H09	帝塚山学院高	558	大阪市住吉区帝塚山中3丁目10番51号	06-672-1151	06-678-8797
	27H10	浪速工業高	566	摂津市三島3丁目5番36号	06-381-0220	06-383-4822
	27H11	府立西野田工業高	553	大阪市福島区大開2丁目17番62号	06-461-0023	06-461-3483
	27H12	初芝高	591	堺市日置荘西町51	0722-85-0128	0722-86-8405
	27H13	桃山学院高	545	大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号	06-621-1181	06-621-1111
	27H14	府立山本高	581	八尾市山本町北1-1-44	0729-99-0552	0729-99-4374
	27H15	府立工業高等専門学校	572	寝屋川市幸町26番12号	0720-21-6401	0720-21-0134
	27H16					
	27H17					
兵庫県	28H01	滝川高	654	神戸市須磨区宝田町2丁目1-1	078-732-1625	078-732-7391
16校	28H02	須磨ノ浦女子高	654	神戸市須磨区行幸町2丁目7-3	078-731-6637	078-731-6149
	28H03	甲南高	659	芦屋市山手町31-3	0797-31-0551	0797-31-7458
	28H04	市立琴丘高	670	姫路市今宿668	0792-92-4925	
	28H05	県立星陵高	655	神戸市垂水区星陵台4丁目3-2	078-707-6565	078-707-6589
	28H06	夙川学院高	662	西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596
	28H07	松蔭高	657	神戸市灘区青谷3丁目4番47号	078-861-1105	078-861-1887
	28H08	甲南女子高	658	神戸市東灘区森北5丁目6-1	078-411-2531	078-411-2535
	28H09	神戸山手女子高	650	神戸市中央区諏訪山町6番1号	078-341-6050	078-341-1882
	28H10	県立舞子高	655	神戸市垂水区学が丘3丁目2番	078-783-5151	078-783-5152
	28H11	県立姫路東高	670	姫路市本町68	0792-85-1166	0792-85-1167
	28H12	県立夢野台高	653	神戸市長田区房王寺町2丁目1	078-691-1546	078-691-1548
	28H13	須磨女子高	654	神戸市須磨区板宿町3-15-14	078-732-1968	
	28H14	滝川第二高	651-22	神戸市西区平野町下村字平瀬436-1	078-961-2381	078-961-4591
	28H15	県立西宮甲山高	662	西宮鷲林寺字剣谷10番地	0798-74-2460	0798-74-2461
	28H16	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070
	28H17					
	28H18					
奈良県	29H01	県立奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
3校	29H02	天理高	632	天理市杣之内町1260	07436-3-1511	07436-3-1368

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
	29H03	奈良学園高	639	大和郡山市山田町430	07435-4-0351	07435-4-0335
	29H04					
和歌山県	30H01	県立貴志川高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
1校	30H02					
	30H03					
鳥取県	31H01	米子北高	683	米子市米原523番地	0859-22-9371	0859-32-6838
5校	31H02	県立倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
	31H03	県立倉吉東高	682	倉吉市下田中町801番地	0858-22-5205	0858-22-5206
	31H04	県立鳥取商業高	680	鳥取市湖山町北2丁目401番地	0857-28-0156	0857-28-0157
	31H05	県立鳥取東高	680	鳥取市立川町5丁目210	0857-22-8495	0857-22-8497
	31H06					
	31H07					
島根県	32H01	県立松江東高	690	松江市西川津町字宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
1校	32H02					
	32H03					
岡山県	33H01	岡山理大学附属高	700	岡山市理大町1-1	0862-52-3161	0862-55-6312
3校	33H02	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
	33H03	高梁日新高	716	高梁市内山下150番地	0866-22-3466	
	33H04					
	33H05					
広島県	34H01	尾道高	722	尾道市栗原町1268-1	0848-23-2312	0848-23-3664
23校	34H02	国立 広島大学附属福山高	721	福山市春日町吉田	0849-41-8350	0849-41-8356
	34H03	市立呉豊栄高	737	呉市阿賀中央5丁目13番56号	0823-72-5577	0823-74-3501
	34H04	県立呉宮原高	737	呉市宮原3丁目1番1号	0823-21-9306	0823-21-9308
	34H05	県立海田高	736	安芸郡海田町つくも町1番60号	082-822-3030	082-822-3803
	34H06	県立加計高	731-35	山県郡加計町加計3780-1	08262-2-0488	08262-2-1691
	34H07	広島山陽学園山陽高	733	広島市西区観音新町4丁目12-5	082-232-9156	082-232-2497
	34H08	修道高	730	広島市中区南千田西町8-1	082-241-8291	082-249-0870
	34H09	広島女子商業高	732	広島市南区南段原町11-5	082-261-8161	
	34H10	県立広島工業高	734	広島市南区出汐2丁目4-75	082-254-1421	082-253-3407
	34H11	国立 広島大学付属高	734	広島市南区翠1丁目1-1	082-251-0191	082-252-0725
	34H12	県立広島皆実高	734	広島市南区出汐2丁目4-76	082-251-6441	082-251-6441
	34H13	県立可部高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
	34H14	山陽女子高	738	広島市廿日市市佐方本町1-1	0829-32-2221	0829-32-7681
	34H15	県立因島北高	722-21	因島市重井町長浜5574	08452-4-1281	08452-4-3585
	34H16	英数学館高	721	福山市引野町980-1	0849-41-4115	0849-41-4118
	34H17	福山暁の女子高	721	福山市西深津町３丁目４番１号	0849-22-1682	0849-25-1533
	34H18	近畿大学附属福山高	720	福山市佐波町389	0849-51-2695	0849-51-3581
	34H19	広島第一女子商業高	732	広島市東区山根町天神谷108-8	082-262-0128	082-263-9228
	34H20	県立廿日市西高	738	廿日市市阿品台西6-1	0829-39-1571	0829-39-0576
	34H21					

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
	34H22	県立賀茂高	724	東広島市西条町西条東770	0824-23-2559	0824-22-2792
	34H23	県立福山葦陽高	720	福山市久松台３丁目1-1	0849-23-0400	0849-23-0200
	34H24	私立広島工業大学付属高	731-51	広島市佐伯区三宅１丁目6-25	0829-21-2137	0829-24-3020
山口県	35H01	県立久賀高	742-23	大島郡久賀町第4851番地の2	08207-2-0024	08207-2-0096
８校	35H02	県立下関西高	751	下関市後田町4丁目10番1号	0832-22-0892	0832-22-0892
	35H03	聖光高	743	光市光井9丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1189
	35H04	県立田布施工業高	742-15	熊毛郡田布施町麻郷奥	0820-48-2306	0820-52-2269
	35H05	県立田布施農業高	742-15	熊毛郡田布施町大字波野195番地	0820-52-2157	0820-53-6036
	35H06	県立西京高	753	山口市大字黒川2580番地の1	0839-23-8508	0839-32-0721
	35H07	県立華陵高	744	下松市朱武上屋称下217-2	0833-44-1285	
	35H08	県立下松高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	0833-41-3147
	35H09					
	35H10					
香川県	36H01	県立高松西高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
４校	36H02	県立観音寺第一高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	0875-25-4145
	36H03	尽誠学園高	765	善通寺市生野町855番地	0877-62-1515	0877-63-3860
	36H04	県立高松南高	761	高松市一宮町531	0878-85-1131	0878-85-1133
徳島県	37H01	県立徳島工業高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
４校	37H02	県立鳴門高	772	鳴門市撫養町斉田字岩崎135-1	0886-85-3217	
	37H03	県立阿波高	771-15	板野郡吉野町柿原字ヒロナカ180	0886-96-3131	0886-96-5130
	37H04	私立生光学園	771	徳島市応神町中原38	0886-41-1032	0886-41-4075
愛媛県	38H01					
	38H02					
高知県	39H01	県立高知小津高	780	高知市城北町1-14	0888-22-5270	
２校	39H02	私立高知高	780	高知市北端町100	0888-40-1111	0888-44-7578
福岡県	40H01	県立柏陵高	815	福岡市南区大字柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
４校	40H02	県立折尾高	807	北九州市西区大膳2丁目23番1号	093-691-3561	093-691-9529
	40H03	県立門司北高	800-01	北九州市門司区猿喰1462-2	093-481-4673	093-481-5768
	40H04	小倉女子商業高	803	北九州市小倉北区皿山町15番1	093-561-1334	093-561-4844
	40H05					
	40H06					
	40H07					
佐賀県	41H01	県立佐賀農芸高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2005
１校	41H02					
	41H03					
長崎県	42H01	県立大村工業高	856	大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
４校	42H02	県立諫早東高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	
	42H03	県立長崎南商業高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	
	42H04	私立鎮西学院	854	諫早市栄田町1057	0957-25-1234	0957-25-1237
	42H05					
熊本県	43H01	県立第二高	862	熊本市東町3-8	096-368-4125	

都道府県名	指定学校番号	学　校　名	〒	所　在　地	電話番号	備　考
5校	43H02	有　明　高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
	43H03	東海大学第二高	862	熊本市大江町渡鹿223	096-382-1146	096-385-2161
	43H04	私立 熊本フェリス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
	43H05	県立 氷　川　高	869-42	八代郡鏡町大字鏡村937	0965-52-3611	0965-52-3611
大分県	44H01	別府女短大付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
11校	44H02	明　星　高	874	別府市野口原3088番地	0977-21-2090	0977-24-3142
	44H03	大分櫻丘高				
	44H04	県立 鶴　見　丘　高	874	別府市鶴見字横打4433-2	0977-21-0118	
	44H05	大分電波高	870	大分市新貝11-40	0975-58-3734	
	44H06	県立 別府羽室台高				
	44H07	県立 佐伯豊南高				
	44H08	大分東明高	870	大分市千代町2丁目4-4	0975-35-0201	0975-35-0966
	44H09	県立 大分豊府高	870	大分市大字羽屋600番1	0975-46-2222	
	44H10	大　分　高	870-01	大分市横尾字大丸尾	0975-51-1101	
	44H11	県立 大分上野台高	870	大分市上野丘２丁目10番１号	0975-43-6249	
	44H12					
	44H13					
宮崎県	45H01	県立 都城泉ヶ丘高				
2校	45H02	県立 都　城　西　高				
	45H03					
	45H04					
鹿児島県	46H01	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	
2校	46H02	県立 鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	0922-22-9205	0992-22-9206
	47H03					
	47H04					
沖縄県	47H01	県立 豊見城南高	901-02	豊見城村字翁長520	0988-50-1951	
5校	47H02	県立 宜　野　湾　高	901-22	宜野湾市字真志喜2丁目25番1号	09889-7-1020	
	47H03	県立 中部商業高	901-22	宜野湾市字我如古171番地	098-898-4888	098-898-4808
	47H04	県立 前　原　高	904-22	具志川市字田湯1827番地	098-973-3249	
	47H05	県立 大　平　高	901-21	浦添市字大平488番地	098-879-3062	

○　都道府県数　　44県（内35都道府県 高体連に加盟 平成５年12月現在）
○　学　校　数　　340校
○　新規加盟校の指定学校番号は、各都道府県で指定学校番号を付記し本専門部へ通知すること。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟 登録状況一覧表

平成５年12月10日現在

番号	都道府県名	単独校		複数校	女子			女子合計	男子			男子合計	合計			総合計
		女子	男子		１年	２年	３年		１年	２年	３年		１年	２年	３年	
1	○北海道	2	4	15	35	42	43	120	75	64	47	186	110	106	90	306
2	○青森	3	2	6	22	21	23	66	9	39	35	83	31	60	58	149
3	○岩手	1		2	19	18	14	51	24	10	6	40	43	28	20	91
4	宮城	1	1			2	3	5	4	2		6	4	4	3	11
5	秋田															
6	○山形	2	1	2	14	9	22	45	20	12	7	39	34	21	29	84
7	○福島	2	1	2	12	5	10	27	10	18	8	36	22	23	18	63
8	茨城			1	3	1		4		6		6	3	7		10
9	○栃木		1	2	10	4	6	20	11	5	5	21	21	9	11	41
10	○群馬	5	3	2	22	39	15	76	19	22	15	56	41	61	30	132
11	○埼玉	2		7	40	72	28	140	57	41	34	132	97	113	62	272
12	○千葉		1	12	35	32	17	84	65	46	42	153	100	78	59	237
13	○東京	6	11	8	82	76	36	194	91	84	91	266	173	160	127	460
14	○神奈川	3	3	8	69	45	49	163	59	56	63	178	128	101	112	341
15	○山梨	2	1	1	10	17	3	30	4	5	3	12	14	22	6	42
16	新潟		2	2		8	2	10		15	17	32		23	19	42
17	○長野			1		14	2	16		5	1	6		19	3	22
18	○富山		2	3	17	9	4	30	30	17	23	70	47	26	27	100
19	○石川		1	2	2	11	5	18	10	13	7	30	12	24	12	48
20	○福井	1		3		19	14	33	4	12	10	26	4	31	24	59
21	○静岡	2	2	8	43	37	18	98	84	60	29	173	127	97	47	271
22	○愛知	4	4	6	40	33	40	113	75	57	58	190	115	90	98	303
23	三重	2	1			8	1	9	2	5	5	12	2	13	6	21
24	岐阜	1		2	2	13	5	20		11	7	18	2	24	12	38
25	○滋賀	2		9	25	28	24	77	39	19	35	93	64	47	59	170
26	○京都	1	1	6	33	31	26	90	43	45	37	125	76	76	63	215
27	○大阪	2	7	6	38	38	36	112	89	79	59	227	127	117	95	339
28	○兵庫	7	2	7	63	71	47	181	49	44	42	135	112	115	89	316
29	○奈良		1	2	9	7	2	18	5	24	8	37	14	31	10	55
30	○和歌山		1							1		1		1		1
31	○鳥取			5	24	12	14	50	22	18	14	54	46	30	28	104
32	島根															
33	岡山	1	1		8	4	4	16	4	7	1	12	12	11	5	28
34	○広島	3	5	10	55	60	26	141	64	47	18	129	119	107	44	270
35	○山口	1	1	6	17	20	7	44	36	38	15	89	53	58	22	133
36	○香川			2	21	6	12	39	10	14	15	39	31	20	27	78
37	徳島	1	1	2	2	10	7	19	12	5	12	29	14	15	19	48
38	愛媛															
39	高知															
40	○福岡	1		3	35	15	13	63	25	13	6	44	60	28	19	107
41	○佐賀			1	4	3	2	9		7	3	10	4	10	5	19
42	○長崎	2		2	12	19	12	43	16	15	5	36	28	34	17	79
43	○熊本	1	1	3	7	8	10	25	27	16	13	56	34	24	23	81
44	○大分	2		1	5	13	5	23	4	2	3	9	9	15	8	32
45	宮崎															
46	○鹿児島	1		1	3	2	4	9	5	7	5	17	8	9	9	26
47	○沖縄			4	16	8	5	29	19	4	6	29	35	12	11	58
合計		64	62	165	854	890	616	2360	1122	1010	810	2942	1976	1900	1426	5302

○高体連加盟 35都道府県　340校＋α

1993年ジュニア海外派遣

第２回 ジュニア世界選手権大会

フランス・モリエッツ

日本チーム総務

關　　正　敏

〈はじめに〉

現地到着から試合までの選手の調整、つまり、練習内容、心理・体調の維持管理等に関しては、すべて立入・五百蔵両コーチに委ねていたので、その点についての詳細は、成績を含めて、二人の報告を見ていただきたい。私は総務としての立場から、大会全般に関して気付いたところを述べることとする。

大会運営上、大問題が起こったわけではないが、我々日本人から見て、おやっと思わせられる小問題は少なくなかった。他の国のチーム役員にも同様に首をかしげる人がいたのを見ると、問題はフランス特有のものかもしれない。しかし、外国で行われる大会では同じような問題の発生は充分に考えられる。これから外国に選手を派遣する上で、また大会を運営する時の参考にしていただければ幸いである。

〈モリエッツ〉

開催地となったモリエッツを簡単に紹介しよう。スペイン国境から約60キロ北の大西洋（ビスケー湾）に面した小さな村である。ゴルフ場を主体としたリゾート施設のほかには何もなく、普通の地図では名前を捜すのが困難である。その一角に全面芝生のアーチェリー専用のレンジが常設されており、そこが会場となった。

宿舎は、バンガロー（シャレー）村で、管理棟を中心に100戸ほどのシャレーが点在し、各国チームに割り当てられた。各シャレーに通じているのは水と電気だけで、電話もテレビもなかった。外部への連絡は、管理棟前の一台の公衆電話だけ。周囲には店舗が一軒もなく、食料品の買い出しは、２キロほど離れた海岸のスーパーマーケットまで行かねばならなかった。食事は、試合中の昼食をのぞき、すべて管理棟内のレストラン。このように外界から遮断されたような環境の中で大会が行われた。

〈運営上の問題点〉

まず、第一の問題は、練習場がこの施設内にないこと。車で15分ほどの隣町のサッカー場が会場となった。試合が始まってからは使用できず、開始直前のウォーミング・アップはできなかった。数日にわたり、しかも男女が別々に射つことになるこれからの試合形式では、本会場に近い場所に練習場を設置することが必須になる。

１日目の昼休み時間、的が移動されたあとのスペース（90、70メートルの的が設置されていた場所）に練習場が出現した。午前終了後に案内があったのだが、フランス語なまりの英語が聞き取りにくく、そのようなことは予想もしていなかったため、他チームの選手が実際に射ちはじめるまで気が付かなかった。人数に対して的数が少なすぎたので、日本選手は射てなかった。これはあくまでもこの大会だけの特殊な方式とは思ったが、全員が公平に射てないこのやり方はフェアーではないと申し入れを行った。

次は輸送である。宿舎から会場まで直線では600メートルほどだが、あいだにゴルフコースがあるため、迂回すると１キロ以上になる。ボウケースに着替えなどのバッグを持って歩くには遠すぎる。当然、専用バスを使用せざるを得ず、これが必ずしも円滑に動いてくれなかった。待ち切れずに歩いて帰る選手役員もしばしば見かけた。

開会式と大会終了後のバンケットは、他の町で行われたのでバスで移動した。この時は台数が充分で混乱はなかった。しかし、帰りの空港行きのバスは積み残しが出るのではないかと思わせるような超満員だった。ここはもう１台用意して欲しかったところである。この点、日本のチームワークは抜群で、常にバスは一番乗り、無用の混乱を避けることができたのはありがたかった。

会場、宿舎そして練習場が離れた場所に点在したこの大会は、輸送の面で不満を抱くと共に、翻って立場を変えた場合、考えさせられる問題だった。

三番目は時間の変更である。特に問題だったのは、最終日団体戦の午後の開始時間。１時開始が２時に繰り下げになった。その理由は、日本では考えられないことだが、競技役員の昼食時間を取るためである。昼食は近くのインドアテニス場内に特設された食堂。各自がトレーを持って並び、盛り付けしてもらう方式だが、盛り付け場所が１ヶ所しかなく、いつも長蛇の列ができる状態だった。

当然役員は到着が遅くなるから、食べ終わるのは最後になる。ランチボックスで手軽にすませようとしないところが、いかにもお国柄で、必ずしも悪くはないのだが、もう少し迅速な処理ができないものかと感じさせられた。会場では練習もできないまま、選手が暇を持て余して待っていたのである。

最後は案内の少なさである。例えば時間の変更後、それ以降の変更の連絡がなかなか発表されない。前記の１時間の遅れは、必然的に夜のバンケットへのバスの出発時刻に影響してきた。結果として、30分の繰り下げになったのだが、出発直前まで案内がなく、ぎりぎりまで気を揉ませられた。

また、試合中の案内も、英語のアナウンスはフランス語の３分の１程度だった。これもまた、お国柄と言ってしまえばそれまでだが、いつも情報不足の状態でいるのは精神衛生上まことによろしくなかったことは事実である。

同じルールで行われるアーチェリーの試合でも、国が違うと運営が微妙に異なる。面白くもあり、同時に厄介な問題でもある。臨機応変な心構えが求められるところである。

悪い面だけを強調し過ぎたようだが、決してそればかりだったわけでは勿論ない。以下は大会運営とは直接関係のないことだが、一言触れておきたい。フロントやレストランで働く地元の人達は皆親切で気持ち良く過ごすことができたし、組織委員会の役員も全員我々に好意的に接してくれた。実にありがたいことだった。これは日本チームが最初に現地入りして、彼らと接触する時間が他チームより長かったことと無縁ではなさそうである。

到着１日目は日本チームが彼らを独占する形になり、我々にかかりっ切りになってくれた。お返しとして、夜にはこちらも用意のスコッチ・ウィスキーを持ち出してささやかな懇親会を催した。友好関係を築くための下準備は成功だった。全チームが集まった後ではこんな具合にはいかなかっただろう。早目に到着しておくことは、選手のコンディション作りの他にも、このようなメリットがあるようだ。

〈年齢の問題〉

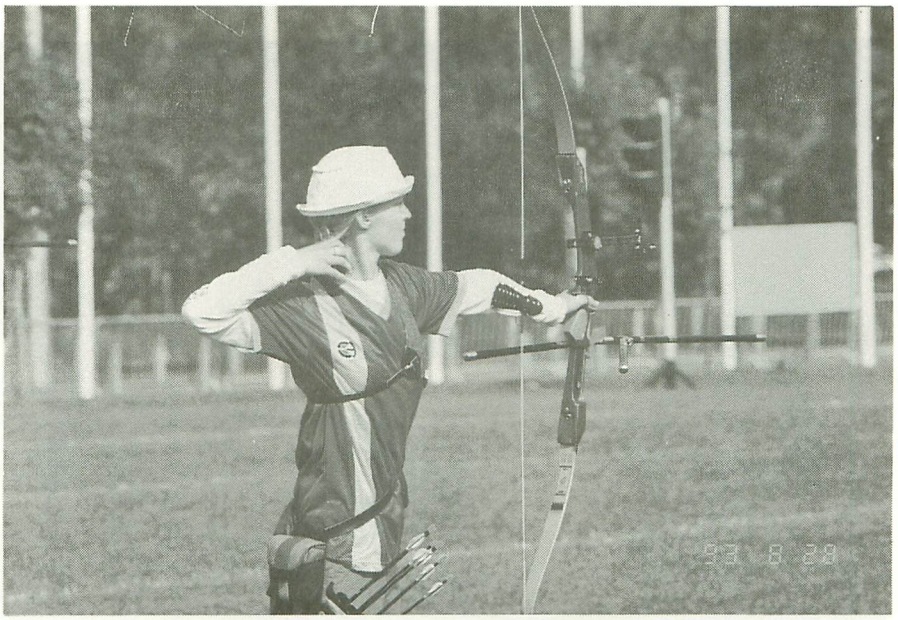
ＦＩＴＡ規約に明記されているにもかかわらず、年齢の問題で出場できなかった選手が

今回発生してしまった。大会前、すでに18歳になっていたのである。現地まで来て射てなかった選手はまことに気の毒である。

年齢制限に関しては、すでにご承知のとおり、今年の第３回イタリア大会から変更になるので、ここでもう一度確認しておきたい。従来の出場資格は、開催時期に18歳未満の選手だけに与えられた。これが、選手の生まれた年が基準となるように変更された。つまり、大会開催年の18年前の年以降生まれの選手は皆出場が可能となったのである。だから今年の場合、1976年１月１日以降に誕生日を持つ選手が参加できることになる。

これにより、同じ高校３年生でありながら、大会前に18歳の誕生日を迎えた選手は出場できなかったこれまでの矛盾は解消された。他国に比べキャリアの短めな日本選手にとっては、ありがたい規約改正である。

ただ、ここで気を付けていただきたい問題がひとつある。新たに早生まれの大学生と社会人にも出場枠が拡がったことである。当然、選考基準もこれまでより広い範囲で考えねばならない。現在、全ア連強化部は、前年度の全日本出場者を第１条件として国内予選出場基準を検討しているが、より合理的で見落としのないシステムを作る必要がある。高体連の理解と協力をお願いしたい。



女子優勝　カリン・ラーソン（スウェーデン）

〈今後の強化策〉

将来、上位に食い込める選手をどのように育成するかという問題だが、シューティング技術の点から言えば、基本に忠実な射型の完成を目指すことに尽きる。当然、全国レベルで統一された指導方法が確立されていない現状では、何が基本かという問題が生じる。回答のひとつが、昨年発行された会報７号掲載の「基本射型の考え方と注意点」である。これは一昨年から強化部主催で始まった研修会で発表されたものであり、全ア連の目指す基本射型のガイドラインとお考えいただきたい。

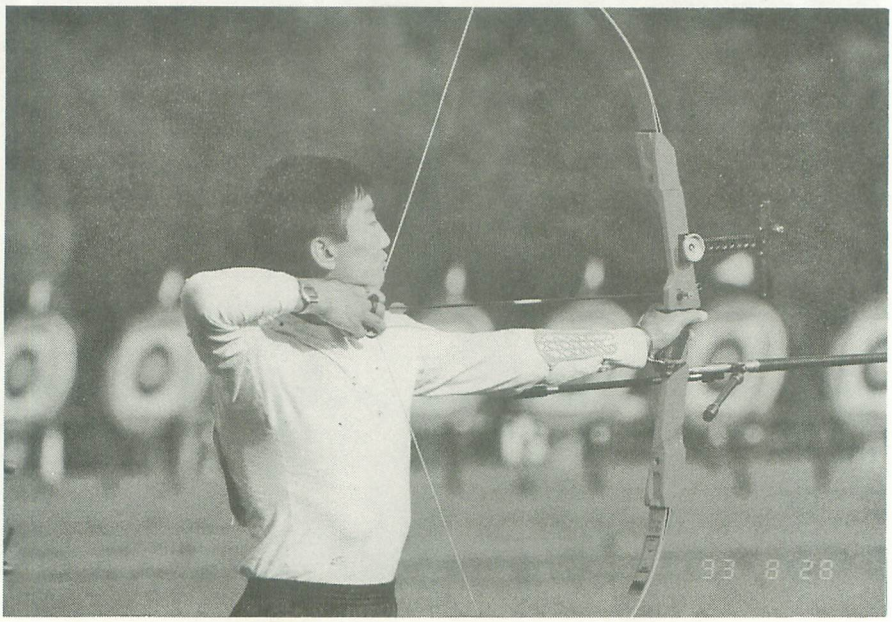
フォームの解説、指導を文字だけで表すことは事実上不可能であり、さらに個々のケー

スの細かい部分に対応することはできない。不充分な内容であることはこちらも承知している。しかし、強化部が考えている基本射型の原点がこれであり、今後も変わることはない。疑問点、不明な部分は次回の研修会で、または直接強化部あてに問い合わせ願いたい。

今年の第３回大会からオリンピック・ラウンド（ＯＲ）が採用されることになった。今後とも通常のＦＩＴＡラウンドに戻ることなく、ＯＲが行われ続けるだろう。世界の趨勢である。日本でも昨年から全日本選手権などで本格的に実施され始めているが、一般にはまだまだなじみの薄い試合形式である。新しいルールに慣れることも大切である。

特に団体戦は、単純に個人の点数が合計されるこれまでと違って、チームワークが重要な鍵になる。従来のシューティングのペースとは違うリズムなどが要求されるから、うまく射つためにはそれなりの練習が必要になる。いわば日頃の基本から応用編への発展である。その意味からも、しっかりとした基本フォームはいっそう重要になってくる。

最後にしつこく繰り返すようだが、トップレベルの選手ほど基本に忠実である。多少おかしな射ち方をしていても、とりあえず今日当たればよいという短絡的な考えでは、ジュニアと言えども世界には通用しないだろう。それだけジュニアのレベルも高くなっている。まわり道になるようでも、基本射型の習得に時間をかけることが強化策の第一歩であると確信する。



男子優勝　バイル・バデノフ（ロシア）

第２回世界Ｊｒ．世界選手権大会報告書

日本代表チーム男子コーチ
滋賀県立北大津高等学校教諭　立　入　彰　修

＊８月22日
12：45　成田発ＡＦ－２７５で元気に出発
＊８月23日
・ＡＭ１：00　モリエッツの宿舎に到着（フランス時間）
シャワーを浴びて就寝。
・８：30朝食　思ったより全員食欲はあったので一安心。
午前中は長旅の疲れを取るのと、10日間の滞在の準備の為フリーとする。
・12：00昼食
・２：00から４：30　近射を中心に約100本程度の練習。
少し長めのランニングで汗をかかせ、入念なストレッチングと柔軟体操で選手も口々に体が軽くなって気持ちが良くなったと言った。
・５：15から６：00　ランニング
・８：00　夕食それまではフリー
・９：15から約30分のミーティング
内容
私の過去２回の経験を活かして以下の事を注意する。
１）決して外国人に良い所を見せようとしないこと。
２）この大会が最終目的ではない、世界へつながる第１歩である。
３）外国人をみてその容姿に惑わされ弓がうまいと思いこむな。
４）他国の選手と国際交流を自分からすすんで持つこと。

おそらく久しぶりに弓を手にした為であろう、射型的にみて調子はまあまあだった。大会本部の地元の人達が親切にしてくれ、日本チームにも色々と気を配ってくれた。又々大陸の懐の深さを実感した。リゾートに来ている人達も見知らぬ私たちに陽気に〝ボンジュール〟と手を振ってくれて、選手達もそれに合わせ手を振り、彼らなりに国際交流を心がけているようであった。
今大会の抱負及び長旅の後の体調
丹治　抱負　気持ちを落ちつけて自分の射ちかたに集中したい。自分のウィークポイントに意識を置きながら思い切ってやれれば結果もついてくるような気がする。
体調　飛行機の中では揺れが思ったほどではなかったのでなかなか快適だった。しかしたばこの煙でけむかった。フランスについてからは特に悪い点もない。休んだおかげもあって弓を軽く感じた。まあまあ納得できる射ち方ができた。
宮子　抱負　他国の選手に自分のペースを乱されないようにしたい。自分のすべき事を忘れないようにしたい。個人・団体でできれば入賞したい。体調を崩さないようにしたい。

体調　フランスへ行く前日頭痛で少々ひどかったのですが、こちらへ来てから何ともありません。７時間の時差があるということで今朝はちょっとねむかったが、体調はまずまずです。今日練習の時、汗をかく運動ができたので体が軽くなった。

木村　抱負　最低でも10位以内になることを目標にして頑張りたい。あくまでも自分のベストショットを最後までしたい。

体調　飛行機に酔った。充分寝ていない為なのか体の不調の原因が解らない。

阿久津　抱負　自分のペースで射って行くこと。世界を見てどんどん自分のものにしたい。心を落ちつかせて〝イメージ〟を大切にしたい。

体調　大変良好で弓の引きが軽く、クリッカーが早く切れた。又リリースの抜けも良かった。

＊８月24日

・６：00起床
・６：30集合（暗闇だった）　小雨が降ってきたため10分程度の散歩で終わり各部屋でストレッチング。
・７：30朝食
・９：00から12：00まで長距離練習。今日１日でシングルの点取りをすることを指示する。
・12：00から２：00まで昼食および休憩。
・２：00から４：30まで短距離練習。
・８：00の夕食まで雨に濡れた弓具の手入れと、50本のイメージ練習。
・９：15　ミーティング

内容

夕食の時、他国の選手が続々と来て少し選手の落ち着きがなく、そわそわし食事どころではなかったので心配になった。ミーティングでもう１度外人は外人自分は自分で何をすべきか考えるように注意する。

本日の練習で長距離は全員気持ち良く射てているようでグルービングもよかった。短距離になると少し肌寒くなり、長距離のようには射てなかった。30M後半には雨足も強くなり点数的にも伸びなかった。今日は200本以上射たしたかったが、雨のため150本程度で終わったので、部屋に帰って50本程度のイメージ練習をさす。

個人反省

木村　今日はレストアップが後半でたので明日の練習は原因とその対策法を確認したい。点数を追ったらしく90Mで指のもつれで右にでた。

宮子　エイミングが強くクリッカーが遅かった。早く射つことばかりに気をとられてラインが荒れていたまま射っていた。

今日は引き手の肘が真っ直ぐに引けなかったり、引き手の肩がリラックスできていなかった。

丹治　長距離はまあまあ良かったが50Mがあたらなかった。タイミングや肩の位置によって的の左下に矢がばらけてしまう傾向があるので注意したい。

阿久津　エーミングが長くなると手に力が入り、アップする原因になった。70Mは思ったよりうまく抜けていた。フォロースルーが左に流れると矢も左に行くことが

多かった。

点数

	９０M	７０M	５０M	３０M	合　計
木　村	２８１	３１０	３０１	３０５	１１９７
宮　子	２７３	２９８	３０６	３２４	１２０１
丹　治	２７８	３１２	３０３	３３６	１２２９
阿久津	２５１	３１０	２９４	３３１	１１８６

＊８月25日

・６：00起床
・６：30から７：30まで大西洋海岸まで散歩。
・７：30朝食
・９：00から12：00まで練習。今日は点取りはよいから200本以上射つことを指示する。
・12：00から２：00まで昼食及び休憩
・２：00から５：00まで練習
・５：30から７：00まで浜辺までサイクリング（気分転換のため）
・８：00夕食。
・９：30男女別々のミーティングはせず、関氏より明日のタイムテーブルの全体説明だけで終わる。

反省

各国の選手が練習会場に現れたが、私たちの忠告を聞き入れ全員落ち着いてシューティングしていた。

宮子　引き手の肘やラインを意識して射っていたが、疲れてくるとしっかりできなかった。他国の選手と射っていて広島のインヴィテーショナルほど意識しすぎることがなかったのでよかった。明日からの４日間自分を見失うことなくしっかりとした射をしていきたい。今日は今まで（フランスへ来てから）の練習の中で時の経過が一番早かったと思う。

木村　昨日でたレストアップが今日も50Mで一本だけ出た。なんだかあまり射った気がしなかった。時間の経過が早く感じる。明日は無理せずいい感じであさってにつなげたい。

丹治　今日は射ち込むはずだったのに肩がいたくてそれほど射てなかった。他国の選手の射ちかたを見て思ったことは、それなりに点数を出すのだろうが見ていて〝うまい〟と思える選手がそれほどいなかったようだった。自分の射ちかたで堂々と明日、明後日、その次の日、そのまた次の日もやりたいと思う。

阿久津　押し手が昨日よりも〝だらん〟としていたような気がした。

＊８月26日

・６：00起床　雨の為散歩はせず各部屋でストレッチング。
・７：30朝食　毎日がパンとコーヒー、コーンフレークの朝食なので今日はゆで卵とふ

かしじゃがいもを用意する。
・８：30から１：00まで公式練習
・１：00から２：00まで昼食。その後３：45までフリー。
・３：45から８：00まで開会式およびレセプション。
・８：30　夕食
・９：30　ミーティング
内容
明日は今までの自分達がやってきたことに自信をもって、矢に気持ちをのせてシューティングするように注意して簡単に終わる。

＊８月27日
・６：00　起床
・７：00　食事
・８：00　試合会場到着　着後９：45まで体操と練習。
雨が降っていたためランニングはできず、軒下で入念に準備運動。
・10：00から12：30まで９０Ｍ競技。
風雨が強く日本で言うと１１月下旬のような気温で手もかじかんで、リリースがしずらそうだった。後半２回は風雨も止みグルービングも良く、他国と対等に試合出来たと思う。午前の競技は10位で終了。
・12：30から２：00　昼食
・２：00から４：30　70M競技
70M競技は雨も風も止み、気温も少し上昇したが、90Mでの風雨でサイトを見失い点数が伸び悩んだ。従って12位に後退した。
・４：30から７：30までフリー。その後夕食。
・８：40　ミーティング（10分間のみ）
今日は今日、あしたも頑張れ。

＊８月28日
・６：00　起床
・６：30　集合
・６：50　朝食
・８：00　試合会場到着　着後準備体操
・８：30から９：15　練習
・９：30から12：10　50M競技
矢を的面に置きにいってフォロースルーに向かって射てず、切れがなかた。したがって大きなミスは無い物の小さなグルービングがなく高得点がでなかった。
・12：10から２：15　昼食と休憩
・２：15から４：45　30M競技
風が強くなってきたので午前中の反省をふまえて、押し手をしっかり残して矢の線上でリリースすることを指示する。
・５：00から７：30までフリー。その後夕食。
・９：00　ミーティング

明日の団体戦の説明。

予選個人反省

木村　90Mの途中で何をしていいんだかわからなくなってしまい、悪いところがもろにでてしまった。70Mはまあまあだったが初回の56点が活かせなかったのが心残りだった。50Mは矢のグルービングが大きく９点と８点ぐらいにしか入らなかった。３０Ｍではこれといって大きくはずさなかったがあまり気分がよくなかった。今後の課題として90Mで毎回27０点から300点以上を射つ為の練習をしなければならない。

阿久津　90Mでは思ったよりもまっすぐに押し手が残った。だが70Mの１本目で上の黒に行ってしまい、あせって次に続かなかった。もっと大きく射てたらよかったなと思った。今日はリリースと大きくのびることを意識してやったつもりです。

宮子　今回の大会までの雨の日の練習をほとんどしていなかったし、自分の悪いところは解っていたけど完全になおしきれなかった。今回の大会では自分の悪いところが全て出てしまったような気がする。各距離とも点数ばかり気にしてしまって肝心なことを忘れていた。射つ時のライン、フォロースルー、引き手の肘など全て先生に注意されるまで解らなかった自分が情けない。今日の50Mは前半めちゃくちゃで自分を見失いそうだった。明日の70Mは少しでも自分のイメージどうり射ちたい。

丹治　１日目の長距離があまりにも悪くて情けなかった。原因はサイトのエクステンションが曲がっていたのだけれども、それはそれとして弓具のチェックを怠った自分が悪いのだからしようがない。レストの故障もさほどの問題ではなかったのにそれを大きく考えすぎていた。２日めは50Mの途中からわかってきたような気がした。射型を一定に射とうと心がけたのが良かったのだと思う。30Mに関しても風の中でそこそこにまとめられたのだけれども330点の後半は射ちたかった。

外国人の選手を見てそれほどうまいとは思わなかった。ただ射つ瞬間の思いきりの良さがとても目についた。

総括して自分を見失ってはいなかったが、長距離で試合が終わってしまったような感があり、短距離でいい緊張感が保てなかったように思う。これからは弓具についての最小限のチェックポイントは必ず確かめるようにしたい。

＊８月29日

・６：00　起床
・６：30　集合
・６：50　朝食
・８：30　試合会場到着　その後女子団体戦見学
・11：30から12：15　昼食
・２：00から２：45　練習

予定では１：00開始だったが突然２：00（役員の昼食が遅れたため）と放送があり、選手達は面食らった様子だった。

・３：00から５：00まで男子団体決勝

決勝１回戦で個人優勝者のいるロシアと対戦したが、10点差で敗れ11位となる。
・５：00から６：00まで閉会式。
・８：00　バンケット会場へ出発。
・９：00から翌日の午前１：00までバンケット
・１：30　ホテル到着　着後帰国の用意

＊８月30日
・５：45　起床
・６：15　朝食
・６：45　ホテル発
・12：00　パリ着　着後昼食と市内観光

＊８月31日
・11：30　シャルルドゴール空港ＡＦ２７６便で日本へ。

＊９月１日
・10：45　成田空港着
　着後解散

私にとって今回の第２回世界Jr選手権大会が３回目の海外遠征となりました。３回目ということで、前回の全米選手権大会よりは、かなりの余裕もでき、選手達にも落ち着いて接することが出来ました。ただ、今回私は選手に対し、チームキャプテンの関氏より直接の注意がないように、選手達の食事のマナーや公の場での行動や言動に気付く事があれば、早め早めに注意をしたつもりです。したがって選手達にしてみれば、「細かいところまでチェックをするコーチだな。」とおもわせたことだろうと思います。しかし未来のある彼らにとってこの注意は、今後の海外遠征での余裕につながると確信しております。

今回の遠征では、今までの遠征にない新しい試みを２つ実施しました。第１は、世界に出場した際、選手がよりよい成績を残し、私達だけでなく選手と彼らの指導者も、納得して技術の向上ができるように試みたものです。資料１の用紙を選手に送り、本人の意見、彼らの日頃の指導者の意見を記入してもらい、それを７月中旬に行われた広島インヴィテーショナルまでに私達の手元に送付させました。当大会で私達コーチ陣の意見を記入し、持ち帰らせ、その後の練習の参考資料とさせました。８月中旬の合宿までにもう１度１回目の資料を参考に記入し、提出させ、それで最終チェックをするという方法で実施しました。毎日細部まで見て指導されておられるコーチの意見は、それほど見る機会がない私達にとって大変参考となり、彼らの癖も把握できた上でのコーチングができました。

第２に実施したものは、滋賀大学体育心理学教授の豊田一成先生に指導をいただき、彼らの心理状態を把握する為の心理テストです。この心理テストは、まず、選手達に資料２の質問用紙で解答させます。そしてその解答を資料３の一覧表に記入し、その数値を資料４のグラフに記入します（実戦が試合前における理想線）。それをもとにして、各選手に対する接し方を変え、彼らの心理状態をよりよい方向に持って行くように努力しました。これも私なりに効果はあったと思います。

私達は今回以上のような新しい試みをしてみましたが、今後もこれらのものをより発展さ

せ、日本のアーチェリーが世界で通用するコーチング体制を作っていただきたいと思います。

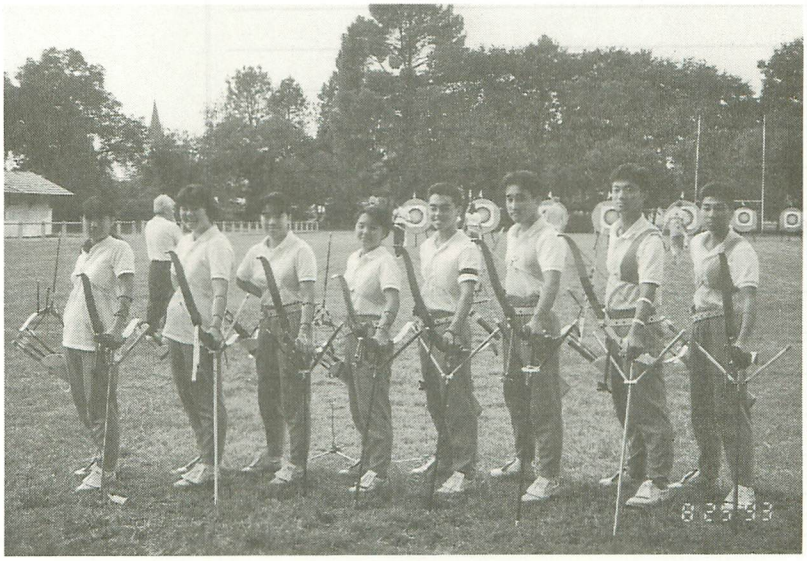
最後に今回の世界大会で、またもや体格・パワーの差を見せつけられました。射型的には日本チームは、見た目にも一番綺麗な射型をしていました。ただ日本の場合ジュニアの世界では２年で勝負しなければならない為に、日本人の器用さで弓を射っているように新たに実感しました。

他国の選手は矢を的の中心へ向かって、気迫とともに射っているように思いました。その気迫が日本には一番足りないのではないのでしょうか。又、環境の変化（風・雨）に対応する力が２年間ではまだまだついておらず、その分、立ち直りが遅れ、試合において遅れをとってしまうと思います。やはり世界と対等に戦うには、せめて中学校からの指導体制を確立しなければならないと思われます。

記録

	９０M	７０M	５０M	３０M	合　計
木　村　正　純	231(51)	313(14)	305(34)	337(13)	1186(33)
阿久津　義　和	265(12)	276(64)	290(60)	329(37)	1160(45)
宮　子　祐　輔	241(40)	289(50)	295(55)	317(59)	1142(53)
丹　治　慶　和	149(69)	238(70)	294(58)	332(24)	1012(69)

決勝トーナメント　　２２５　対　ロシア２３５　　１回戦敗退で11位



練習会場にて

９３’世界Ｊｒ．個人表

月　日現在

ふりがな
氏　名　　年　月　日生　男・女　所属

試合自己ベスト		0		50			練習自己ベスト		0		50	
計		0		30			計		0		30	

選抜	一次予選	２次予選				

＊選手意見

図説

＊監督意見

図説

＊Ｊｒ．強化スタッフ意見

図説

到着後一週間以内に下記へご返送ください。

〒５５８　大阪市住吉区長居３－１３－１７
（社）全日本アーチェリー連盟・強化部

POMS

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿男女　所属＿＿＿＿＿　実施日 平成＿年＿月＿日　生年月日 昭＿年＿月＿日（満＿＿歳）

私は、（ここ一週間）＿＿＿＿＿＿＿＿。

＿＿＿＿＿線の中に、1-65までの文章をあてはめてください。今日を含めてここ一週間のあなたの心の状態を最もよく表していると思われる番号に○印をしてください。

番号は各々次のような意味を表しています。

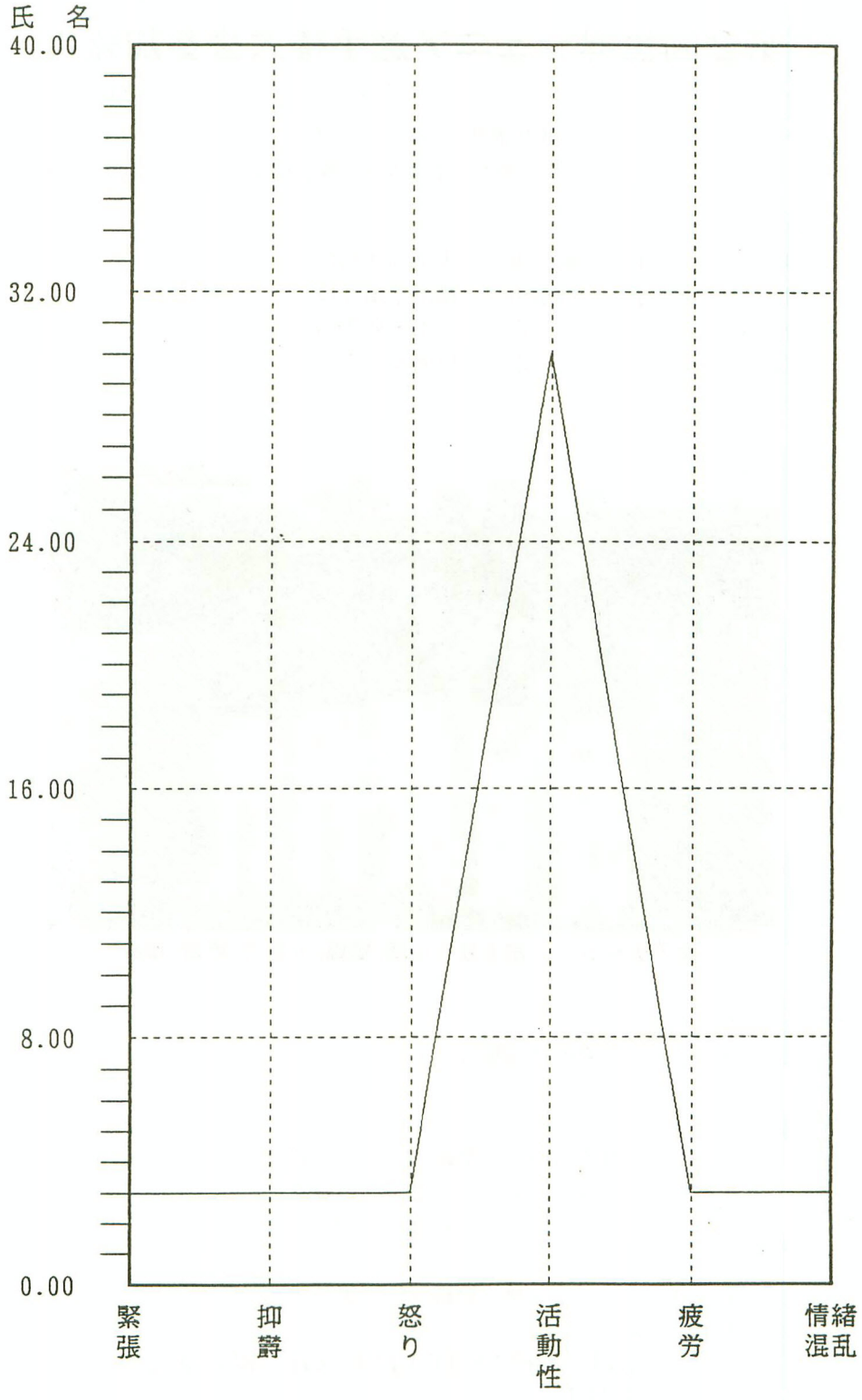
0・・・・・全くそんなことはない　1・・・・・全くないとはいえない　2・・・・・なんともいえない　3・・・・・その傾向が強い　4・・・・・全くそのとおりだ

1.他人に対して友好的だ。	0	1	2	3	4	34.興奮しやすい。	0	1	2	3	4
2.精神的に緊張している。	0	1	2	3	4	35.孤独だ。	0	1	2	3	4
3.怒っている。	0	1	2	3	4	36.みじめだ。	0	1	2	3	4
4.疲れきっている。	0	1	2	3	4	37.頭が混乱している。	0	1	2	3	4
5.不幸せな気分だ。	0	1	2	3	4	38.陽気だ。	0	1	2	3	4
6.頭がさえている。	0	1	2	3	4	39.苦い体験をした。	0	1	2	3	4
7.生き生きしている。	0	1	2	3	4	40.力がつきてしまった。	0	1	2	3	4
8.気持ちが混乱している。	0	1	2	3	4	41.心配ごとがある。	0	1	2	3	4
9.ヘマをやったと後悔している。	0	1	2	3	4	42.（人に対して）攻撃的である。	0	1	2	3	4
10.心が揺れ動いている。	0	1	2	3	4	43.心穏やかだ	0	1	2	3	4
11.物事に気乗りがしない。	0	1	2	3	4	44.ふさぎこんでいる。	0	1	2	3	4
12.人のことでイライラしている。	0	1	2	3	4	45.絶望的な気分だ。	0	1	2	3	4
13.人に親切だ。	0	1	2	3	4	46.無気力で怠けている。	0	1	2	3	4
14.悲しい気分だ。	0	1	2	3	4	47.反抗的だ。	0	1	2	3	4
15.活動的だ。	0	1	2	3	4	48.自分ではどうしようもない。	0	1	2	3	4
16.神経質だ。	0	1	2	3	4	49.疲労こんぱいしている。	0	1	2	3	4
17.人にむっつりしている。	0	1	2	3	4	50.うろたえている。	0	1	2	3	4
18.気がめいっている。	0	1	2	3	4	51.気が充実している。	0	1	2	3	4
19.精力的である。	0	1	2	3	4	52.（誰かに）だまされている気がする。	0	1	2	3	4
20.あわてふためいている。	0	1	2	3	4	53.怒り狂っている。	0	1	2	3	4
21.失望している。	0	1	2	3	4	54.自分を有能だと思う。	0	1	2	3	4
22.ゆったりした気分だ。	0	1	2	3	4	55.物事を信じやすい。	0	1	2	3	4
23.自分をとりえのない人間だと思う。	0	1	2	3	4	56.活気にあふれている。	0	1	2	3	4
24.意地が悪い。	0	1	2	3	4	57.（人に）気むずかしい。	0	1	2	3	4
25.思いやりがある。	0	1	2	3	4	58.自分を役立たずだと思う。	0	1	2	3	4
26.不安だ。	0	1	2	3	4	59.忘れっぽい。	0	1	2	3	4
27.落ちつきがない。	0	1	2	3	4	60.心配ごとがない。	0	1	2	3	4
28.物事に集中できない。	0	1	2	3	4	61.大変おびえている。	0	1	2	3	4
29.疲れている。	0	1	2	3	4	62.罪悪感がある。	0	1	2	3	4
30.（誰かの）役に立っている。	0	1	2	3	4	63.元気おうせいだ。	0	1	2	3	4
31.（他人に）悩まされている。	0	1	2	3	4	64.万事に確信がもてない。	0	1	2	3	4
32.やる気をなくしている。	0	1	2	3	4	65.ヘトヘトにくたびれている。	0	1	2	3	4
33.憤慨している。	0	1	2	3	4						

ＰＯＭＳ個人別・尺度別データチェック

氏　名

問	問	問	問	問	問	問	問	問	問	問	問	問	計	
2	10	16	20	22	26	27	34	41						緊　張
5	9	14	18	21	23	32	35	36	44	45	48	58	61	62		抑　鬱
3	12	17	24	31	33	39	42	47	52	53	57					怒　り
7	15	19	38	51	56	60	63									活動性
4	11	29	40	46	49	65										疲　労
8	28	37	50	54	59	64										情緒混乱


氏　名
40.00
32.00
24.00
16.00
8.00
0.00
緊張
抑鬱
怒り
活動性
疲労
情緒混乱

第２回世界ジュニア選手権大会参加報告

フランス　モリエッツ　1993.８.22～９.１

日本代表チーム女子コーチ
兵庫県　甲南女子高等学校教諭　五百蔵　正　雄

《日本代表女子チーム》

後藤和美	埼玉	大宮開成高校
山岡麗子	神奈川	横浜学園高校
橋場美由紀	青森	三本木農業高校
岩崎友加	兵庫	甲南女子高校



女子チーム　　左より　山岡、橋場、五百蔵、岩崎、後藤

＜日程及び記録＞

８月22日　10：30　成田国際空港集合　全員元気。

23日　１：00　フランス，モリエッツ
約24時間かけて現地のホテルに到着。全員疲れているようだ。周囲はまっ暗で何も分からない。直ちにベッドにもぐり込む。部屋はロッジ形式で２ＤＫ。この部屋で４人は少々狭いが仕方がない。とにかく寝よう。

８：30　時差ぼけもなく全員元気に集合し、散歩にでかける。

９：00　朝食。
MILK.COFFEE.TEA.FRENCH　BREAD.CROISSANT.CORN FLAKE

これが一般的なフランスの朝食のようだ。10日間同じメニュー。
朝食後ロッジに戻り、12時まで休息。

12：30　昼食。
PIZZA.COLDMEAT.CREAMDESSERT
初めてのフランスの昼食。すごいボリュームだ！
昼からワイン……。フランスはいい国だ！

14：00　ホテル出発。
練習会場まで大会役員の車で移動。

14：20　長旅の疲れを取るためランニング等も取り入れ、入念に準備運動をする。久しぶりに汗をかき、全員気持ち良いと言葉に出す。一面芝生のフィールドであり、気候も良いという環境のせいでもあるだろうが、何よりも２日間じっとしていたので、体を持て余していたのであろう。
今日は近射を中心に練習をした。全員が順調な仕上がりでここへ来ることができていることには、各学校の顧問の先生に感謝すると同時に大きな責任をも感じる。

16：30　練習会場出発。

16：50　ホテル着。

17：00　約１時間ランニング。途中、競技会会場見学。

18：00　ロッジに戻りシャワー。今日の反省を書かせ、その後夕食までフリー。
いま、このフリータイムの間に、松林に囲まれたロッジのテラスの椅子に座り、コーヒーを飲みながらこのレポートを書いている。夕方の６時30分なのだが、日本の４時頃の感じがする。夕食の８時までの、唯一ゆっくりとくつろげる一時である。
モリエッツは南フランスにある素晴らしい自然に恵まれたリゾート地で、治安も良く大変過ごし易いところだ。このようなのんびりとした気分で時間を過ごすのは、随分久しぶりのような気がする。選手たちもきっとそうだろうと思う。リラックスと緊張を上手く配分できるようにもっていきたい。
今日は近射を中心に練習した。ここ２日間射てなかった彼女たちは、「射ちたくて仕方がない」「やっと弓を手にできてとても嬉しい」「射つのが楽しい」といった感じだった。そんな彼女たちを見ながら「大事な選手を預かってフランスまでやって来た（いや、来てしまったとでも言うべきか）。」「責任を感じる。」というかすかなプレッシャーが頭を持ち上げてきたが、「今日から自分の選手たちだ。」と言い聞かせる。とにもかくにも、彼女たちにはこの大会をステップに、一層大きな選手に成長して欲しい。勝っても負けても、選手一人ひとりにとってプラスとなるようなゲームにしてあげたい。
地元フランスの大会運営に携わる方々がいろいろと親切にお世話してくださり本当に助かる。私もそういう立場になったとき、尽力できる人間になりたい。

20：00　夕食。
SALTYPIE WITH EGGS and JAM.ROASTEDMEAT WITH

MUSHROOMSAUCE.MIXEDVEGETABLES.PEARPIE
結構おいしく(やや辛いが)、全員良く食べる。夕食にもワインが出る。残すと失礼なので全部飲む。

21：15　ミーティング
・今日の練習について。　・明日のスケジュールについて。
・睡眠、食事の重要性について。　・国際交流について。
・健康チェック、全員体調よし。

(※　以下、毎日の選手の反省文を一部加筆訂正し、掲載する。)

後藤：体調は、あまり寝ていない割には最後のランニングを楽に走れたのでよいと思う。今日は早く寝たい。
他国の選手をどれだけ気にしないで(うまく当てようとしない)自分の射ができるかどうか。
一度崩れてもあきらめないで、最後まで真剣に取り組む。
体調を崩さないようにしっかりとコントロールする。
他国の選手とたくさん交流する。
明日は取り掛けと伸び合いについて気をつけて練習したい。

山岡：場所が変わっても緊張せず、自分の射ち易いように自分のペースを崩さずに射つ。今までの中で一番大事な試合だが、緊張し過ぎず、リラックスして自己ベストを出せるように努力する。
日本から一日かけてフランスに来て、時差の違いについて行けず、疲れが少しある。日本より涼しく、過ごしやすい。
久しぶりに弓を引いたせいか、来る前よりクリッカーが中に入った。そのため、クリッカーを落とすタイミングがなかなかつかめなかった。
30Mを射っているとき、タブがすべるのを押さえようとして手首で引いてしまった。50Mは練習の最後のほうで射ったため、少しだけ自分の射ち方が出来たが、クリッカータイミングがばらばらだった。

橋場：一日がかりでフランスへ来て、ちょっと体がだるい。
試合では自分のペースで、射型が小さくならないように思い切り射ちたい。

岩崎：飛行機やバスにたくさん乗るので心配だったけど、結構大丈夫でした。でも最後のほうは少し気分が悪くなった。時差もあまり気にならず元気です。
試合の抱負は、思い切って元気よく射つこと。

22：30　消　灯。

24日　6：00　起　床。
6：30　散　歩。
暗闇の中の散歩。途中、雨が強く降り出したので、ロッジに戻りストレッチをする。
7：30　朝　食。

9：00　ホテル出発。本日からバス。

9：20　練習会場到着。
ランニング・準備運動・ストレッチを20分間。
以後毎回同様に入念なウォーミングアップを行う。

9：50　近射→70M→60M→近射
伸び伸びと射っている。この調子で試合まで持続させたい。岩崎がやや戸惑いながら射っているが、いつもの事なので私はあまり気にしていない。立入先生にアドバイスしてもらい、元気になる。

12：30　昼食のため帰宿
全員よく食べている。後藤は少食にも思えるが、他の選手に比べ食がやや細いため心配はしていない。

14：00　ホテル出発。

14：40　練習開始。
近射→50M→30M→近射
30Mで雨が降り出すが、元気よく積極的に射っている姿を見ていると頼もしさを感じる。

17：00　ホテル着。
雨のためすぐにロッジに戻り着替える。その後ストレッチ。
明日から他国の選手も練習に来るだろう。気後れすることなく、精神的な部分で上手く作用出来るように調整していきたい。そのことについては選手たちにそれとなく含めている。涼しく、まるで秋のようである。

20：00　夕食。
SALAD OF GRATED CARROT.CONSERVED DUCK.FRENCH FRIED POTATOES.CHEESE or YOGURT CHOCOLATE ECLAIR
本日の夕食から外国選手が大勢来たので、想像していた通り日本選手は落ち着きがなくなりそわそわし始める。

21：15　ミーティング
・明日のスケジュール。　・明日の練習内容と方法。
・食事時の日本選手の様子について話す。
・心理テストを行う。
広島合宿・つま恋直前合宿の時のデータから比べるとかなりよい傾向になってきている。データを基に各選手に合った調整法を立入先生と相談し、選手にアドバイスする。

本日の練習得点

	７０Ｍ	６０Ｍ	５０Ｍ	３０Ｍ	合計点
後藤	２８１	３０３	２９７	３２７	１２０８
山岡	２９６	３０４	２９８	３３３	１２３１
橋場	２８５	３２２	２８６	３１８	１２１１
岩崎	２５７	２７７	２９４	３２４	１１５２

後藤：納得のいく射ち方が出来ないうちにどんどん点取りが終わっ

ていってしまった。取り掛けが浅くなり過ぎて何度も引き戻しをした。考えて射っているので、引きが長くなってしまった。気をつけたい。食欲はしっかりしているし、体調もＧＯＯＤ。

山岡：近射の時びくついてしまったが、距離を射っているときはそんなにびくつかなかった。昨日よりは、自分の思うように射てた。押し手が右に入ると矢は右上に行ってしまうので、右に入らないように注意する。押し手の肩がつまると左上と左下に下がるので注意する。今日は朝寒かったくらいで、あとは別にどこも悪くないです。

橋場：矢がいいところにポンポンと入っているときはどういう射ち方をしているのか分かるけれど、入らないときはどういう射型をしているのか分からないときがあった。明日はリリースがもどらないように肩胛骨で引くようにしたいと思います。体調はいいです。

岩崎：肩がセットアップの時、出ないようにしているが、いつもと違うような気がして思い切って射てなかった。
移動バスのスピードが早く、曲がり角も多いのでいつも少し気分が悪くなる。
体調は朝はだるいけど、走ったり体操したりするうちに元気になる。

22：30　消　灯。
今日の反省や明日のことを立入先生と話をしながら寝る。

25日　6：00　起　床。
真夜中のようである。

6：30　散歩。
片道30分かけ海まで散歩。初めて見る大西洋に歓声上がる。砂浜だけでもゆうに200Mはあるだろう。とにかく雄大だ。(人は何故、海を見ると石を投げたくなるのだろう。)

7：45　朝　食。
全員おなかが空き、いっぱい食べる。大西洋までの散歩は成功だった。

9：00　ホテル出発。

9：30　練習開始。
練習会場が各国の選手でいっぱいになる。日本選手が「気後れしないように」それだけに注意しながら練習を見守った。
試合前はいつもの事だが、後藤が緊張気味である。

12：00　昼食のため帰宿。(13：30まで)

14：00　練習開始。
いつもどおりのウォーミングアップをする。全員リラックスした状態で練習に入る。大きな外人選手に挟まれながらも楽しみながら射っている。全体としてはいいムードだ。

17：15　ホテル着。

17：30　サイクリング。
気分転換を図るためのサイクリング。海岸まで行きジュースなどを飲み、約１時間半遊ぶ。立入先生と私は試合に備える意味を込めて、朝食の足しにと、じゃがいも・卵・バナナ・リンゴを購入する。

20：00　夕　食。
PIZZA.GRILLED ENTRECOTE STEAK.GREEN BEANS.CHEESE or YOGURT.STEWED APPLE DESSERT
全員食欲あり。

21：00　今日はミーティングなし。明日の予定のみ伝達。
全員の体調は良好。快食・快眠・快便の確認が出来、選手とのコミュニケーションもしっかり取れ、コーチとしては嬉しくもあり、満足でもある。

後藤：・体調　よく眠れ、食欲もあり、普通です。
・反省　自分の射を見失いかけていた。練習時間が少なかった。外した時、恥ずかしいと思った。
・抱負　思い切り、的より５M後ろに飛ばすつもりで射つ。他人を気にしない。

山岡：体調は普通です。
午前中は、自分の思うように射てたが、午後から引き手の指と押し手に力が入ってしまい、矢がダウンしてしまった。押し手が真っすぐ押せずに、右に飛び出してしまう。無理をせず、自分のペースで射つ。

橋場：体調はＧＯＯＤです。
今日練習していて、たまにダウンしたり右に行く矢があったので、そういうミスを少なくなるような射ち方をしたいと思います。

岩崎：食事の味が余り好きにはなれないが、ちゃんと食べているので元気です。
射型には自信があるが、一番大切なところでミスが出てしまうのが残念です。肩の位置を注意して思いっきり切っていく。

22：00　消　灯。

26日　６：00　起　床。
６：30　雨のため散歩を中止する。部屋でストレッチ。
７：00　朝　食。
昨夕購入したじゃがいも・卵をボイルして朝食に出す。よく食べてくれた。
８：30　競技会場到着。
いつもどおり入念な準備体操を行う。
９：00　公式練習開始
アドバイスを各選手が自分なりに的確に判断し、気負いなくいい感じで射っている。初めての海外試合にもかかわらず全員体調もよく、こ

の調整具合は今後の彼女たちの競技生活に活かしてもらいたいと思う。
各選手とも感じよく今日の公式練習を終わらせ、明日の試合につなげたい。選手と私の呼吸が合わなければならない。そのタイミングが難しいのであるが、反面、楽しいところでもある。私自身としては、うまくいったと思っているがどうだろう……。午後からの彼女たちの行動言動を見て判断しよう。

13：00　昼　食。
SALADS COLD MEAT or PIZZA.ROAST CHICKEN or BEEF BURGER. GREEN PEAS or FRIED POTATOES.CHEESE SALAD YOGURT. FRUIT CREAM DESSERT TART
全員残さず食べている。

14：30　ホテル着。

15：45　ホテル発。
レセプションが行われる町「ＤＡＸ」へ向けてバス移動。

16：30　「ＤＡＸ」着。
町の中心の公園でバスを降りると、その広場には各国のプラカード、国旗を持った子供達、市民が多数待ち受けていた。楽団を先頭に、沿道の市民が手を振って歓迎してくれる中を各国選手団がパレードしながら闘牛場へ入っていく。闘牛場で開会式が行われ、その後スタンドに上がり闘牛ショウを見学(見物？)させていただいた。日本とは全く違った形のセレモニーでとても興味深かった。

19：30　「ＤＡＸ」発。

20：30　ホテル着。

20：40　夕　食。
MIXEDSALAD.ESCALOPE OF TURKEY.SAPGHETTI.CHEESE or YOGURT.MIXED FRUIT SALAD

21：30　ミーティング。
明日の試合のスケジュールについて。
ルールの確認。
各選手にゼッケンを渡す。
とにかくガッツでいこう。

22：30　消　灯。
今日も長い一日だったが、あっという間に終わった感がある。

27日　6：00　起　床。

6：30　昨日と同様、雨のため散歩を中止する。部屋でストレッチ。

6：45　朝　食。

7：40　ホテル出発。

7：50　競技会場到着。
準備体操・ランニング・ストレッチ。
雨のため、競技運営が約30分遅れる。

9：00　アイドリング（9：45まで）

10：10　70M競技開始。雨・風があり、とても寒い。ユニホームを重ね着（長袖＋半袖＋カッパ）して、矢取りの時はその上からジャージの上衣を着用。8月だというのにまるで冬の試合のようだ。

70Mは、順位・点数を気にさせず射たせようと思い、リラックスかつ自分の射に集中させるようにした。初回2位で、いいスタートを切ることができた。橋場が途中でやや緊張してしまい、指に力が入り矢がバラけてしまったが、後半はふっきれた感じで、自分の射ができるようになった。他の3人はマイペースで射っている。

常に〝ＪＡＰＡＮ〟の文字がボードに出ていたが気にさせず、自分たちのアーチェリーをさせた。途中、風雨が強くなってきた時、日本選手全員が点数を落としてしまった。

12：30　昼　食。

全員よく食べた。

60Mの競技開始まで40分あり、会場に行っても雨が降って寒いので、近くのクラブハウスに入り、紅茶を飲んでくつろいだ。

14：00　準備体操を入念にし、午後の競技に臨む。60Mは順位・点数を意識してゲームを進めた。同的のアメリカと、常に数点差であったため、いい意味での緊張感を楽しみながら選手たちがどのようなリズムで射っていけるか楽しみでもあり、また、崩れはしないかと不安を抱きながらの競技であった。

初日の成績は下記の通りであったが、結果としてアメリカに10点差という僅差ででも勝てたことは、明日への自信となったことと思う。

		70M	60M	合計
日本選手個人成績	山　岡	283	307	590
	後　藤	273	302	575
	橋　場	245	297	542
	岩　崎	268	313	581

各国団体上位成績	1.スウェーデン	1782
	2.ドイツ	1769
	3.トルコ	1759
	4.日　本	1746
	5.イタリア	1736
	5.アメリカ	1736

17：00　ホテル着。

整理体操。その後、夕食までフリー。

19：30　夕　食。

MELON.STEAK KEBABS.CREAMED POTATO.CHEESE or YOGURT.FRUIT

20：40　ミーティング。

明日の予定のみ伝達。

「がんばれ！」の一言で終わる。

22：00　消　灯。

・今日の試合を振り返って。

雨・風・寒さに悩まされたが、選手達はよく頑張ったと思う。今日のチームの雰囲気で明日の試合に臨めば、現在の順位からまだ上位を狙えると思う。明日の試合も頑張ろう。

28日　6：00　起床。(日の出前で、まっ暗。)

6：30　散歩。(冬の朝のように、少し寒気が肌に痛く感じられる。)

6：50　朝　食。

いつも通りの朝食に、ソーセージとゆで卵をつける。

7：40　ホテル発。

8：00　体操・ストレッチ・ランニング。

8：30　アイドリング。(9：15まで)

9：30　50M競技開始。最初から少しだけ横風がある。

5回目で2位に上がる。全員おおはしゃぎをする。

結局、50Mを4位で終了。2位から4位までが常に数点差で入れ替わるという激戦で、目を離すことができなかったが、いい感じで午前中をおえることができた。

プレッシャーの中で、常にボードに〝ＪＡＰＡＮ〟の字がある中で、選手達はよく頑張っている。試合をしながら強くなってきているのが見ていて分かるような気がする。

12：15　昼　食。

SALADS.COLD MEAT.ROAST PORK.HAKE FILLET.RICE or CREAMED POTATO.CHEESE SALAD YOGURT.FRUIT. CREAMEDESSERT.CHOCOLATE ECLAIR.

いつも通り、全員よく食べている。

13：30　30M競技開始。急に風が強くなってきた。

30Mでは風に惑わされ、点数が思うように伸びなかった。

外国人選手は体格もよく、高ポンド(38～42ポンド)の弓を使用しているので、あまり風の影響はないようだ。

じわじわと点数差が開いていく。体格・パワーの違いは歴然としており、苦しい展開になってきた。

昨日の長距離でこのような風がなかったのは幸いだ。

私の目から見て、日本人選手には54点平均、324点前後が精一杯のところと思える。そういう意味では、彼女達はよく頑張ったと思う。精神的には他国の選手に少しも引けを取ってはいない。風さえなければ……。

		５０Ｍ	３０Ｍ	合計	総合計	
日本選手個人成績	山　岡	３０１	３２２	６２３	１２１３	10位
	後　藤	２９９	３２１	６２０	１１９５	13位
	橋　場	２７７	３２１	５９８	１１４０	41位
	岩　崎	２８６	３２３	６０９	１１９０	16位
各国団体上位成績	１位	スウェーデン	３６３７			
	２位	アメリカ	３６２５			

3位　イタリア　　３６１９
4位　ト　ル　コ　　３５９９
5位　日　　本　　３５９８
6位　ド　イ　ツ　　３５８５

17：00　ホテル着。
整理体操。その後、夕食までフリー。

20：00　夕　食。
FISH IN FLAKY PASTRY.GRILLED SALMON STEAK.MIXED VEGETABLES.CHEESE or YOGURT.FRENCH APPLE TART.

21：30　ミーティング。
・明日の団体戦について。
・試合のルール確認
・二日間の試合結果を冷静に分析し、「明日も頑張ろう」と励ます。
明日の１回戦の対戦相手であるポーランドは、２年前の第１回大会の時に３点差で負け、日本が４位になってしまった相手なので、「絶対に勝とう」と闘志をかきたてる。先輩が悔しい思いをしたことを話して聞かせる。

後藤：自分の中では、おもいっきり射てばあたると分かっているのに、自分を信じきれずに、30Mでは顔が迎えにいってしまったので、ダウンすることがあった。
取り掛けがゆるんできたのに指先に力が入ってしまって、アップするのもあった。それほど緊張しないで射つ事が出来た。たぶん、ボードに自分の名前が載っていなかったからだと思う。
一射目をはずした時、二射目を動揺せずに射てるようになった。

山岡：昨日はまあまあ自分のペースで射てた方だと思うが、70Mの３回目と４回目に緊張しすぎて、自分で点数を下げてしまった。
今日については、50Mはまあまあだが、30Mで思うように矢を飛ばせなかった。気を張り過ぎて、押し手に力が入ってしまった。

橋場：昨日は自分なりにおもいきり射っていたし、射型もそんなに悪いというほどでもなかったけど、指に力が入って矢飛びが悪かった。
今日は50Mで押し手が伸びた状態で射てなかった。30Mでは狙いすぎではずした。

岩崎：70Mは、サイトのミスが多かった。思い切って伸びることが出来ずホールディングが長くなり、はずすことが多かったが、思い切ったリリースを心がけた。
60Mは、70Mでつかんだリリースでの思いきりが出来てよく入ったが、クリッカーは遅かった。５本入って、最後の１本も入れたいと思ってはずすことが多かった。自己新が出たので嬉しかった。

50Mは、風に流されてはずすことが多かった。早く切った方が入るし、すごく入れたい気持ちもあるのに、思い切って切れなかった。
30Mも思い切って切れなくて、最初の方は入らなかったけれど、「いいかげんはやくきらないと」と思って切ったら入ってきた。
今日619点で1200点が出るので、1200点は軽く超せると思ったのに、609点で1190点だったから残念だった。

22：30　消　灯。

29日　6：00　起　床。
6：30　散　歩。
6：50　朝　食。
いつも通りの朝食に、じゃがいもとゆで卵をつける。
7：40　ホテル発。
8：00　体操・ストレッチ・ランニング。
8：30　アイドリング。(9：15まで)
全員伸び伸びと射っている。ほとんどの矢が8点以内に吸い込まれていく。後方スタンドで、日本男子選手が「必勝うちわ」でパフォーマンスをしながら応援してくれる。とても心強い!!　この調子で1回戦を乗り切りたい。
9：45　女子団体戦開始。
◎初戦・対ポーランド戦。
始まる直前に、立入先生から「カツ」を入れてもらう。そして私が「リラックス」を指示。予定通りいい感じでシューティングに向かう。
結果は圧勝。日本選手団大喜びである。
◎2回戦・対トルコ戦。
トルコには予選で1点差で負けているが、強敵である。そんな意識を持たさずに、1回戦の勢いで乗り切ろうと思っていた。……！……！
好事魔多しとは、よく言ったものだ。突然、場内アナウンスもなしにいきなり2回戦が始まってしまった。悪いことは重なるもので、さっきまでは何ともなかったのに、急に横風が吹き出した。
結果は最悪なものとなってしまった。
最終の3エンド目、キャプテンの後藤をはずし、(後藤は悔しかったと思うが、今後もっと大きな選手になって欲しいという願いを込めて)橋場にメンバーチェンジした。それに応えるかのように、後藤は山岡・岩崎・橋場の3選手のクィーバーに自分の矢を1本ずつ入れていった。「いいチームができた」と思った。橋場も期待に応えてよく頑張った。
2回戦敗退はすべて私の責任だと思う。スタート時間の確認・それに伴う選手の気持ちの持って行き方・急に横風が吹き出したとき、的確な指示が出来なかったこと。力を出せないまま終わってしまい、選手には悪いことをしたと思っている。

12：00　昼　食。
SALADS.COLD MEAT.RICE SALAD.ROAST BEEF or ROAST TURKEY.SPAGHETTI or GREEN BEANS.CHEESE SALAD YOGURT.FRUIT.CHOCOLATE CAKE.
14：00　男子団体アイドリング。(14：45まで)
15：00　男子団体戦。
17：00　閉会式。(疲れがいっぺんに襲って来る。)
18：45　ホテル着。
シャワーを浴び、ブレザーに着替える。
20：00　ホテル出発。
21：00　バンケット始まり。
３日間試合をして、今この最終の催しであるバンケットに来ているが、日本選手は本当に疲れきっている。ところが、視線を変えてみるとどうだろう。外国人選手は踊り、歌い、笑い、語らい、ここでの時間をたっぷり楽しんでいるようである。ここでも体力の差を痛感させられる。早く切り上げて帰ろうとバスに向かうと、運転手は「まだ帰らないヨ。みんな楽しんでるじゃないか。」と言う。
仕方がないので再び会場に戻り、半分ヤケ気味にこちらも踊ったりする。やっと一番早いバスに乗り込んだのは、それでも午前１時であった。
１：30　ホテル着。
荷物の整理。
３：00　消　灯。

30日　５：45　起床。(眠たい。)
６：15　朝　食。
６：45　ホテル出発。
12：00　パリ着。昼食。
14：00　市内観光。(専用バスにて、17：30まで。)
20：00　夕　食。
近くの中華料理店でおなかいっぱい食べる。

31日　８：00　朝　食。
11：00　チェックアウト。
12：30　ドゴール空港。(16：00発)

９月１日　11：00　成田国際空港着。全員元気に解散。

※※総括と感想※※

世界で勝つためには、体の大きい、パワーのある選手が育たなければ、まず通用しないことを２年前の第１回大会と同様に痛感した。外国人選手は顔が小さいので、体つきそのものは遠くからみると小さく見えるのだが、横に来ると立入先生よりも大きいことが多い。

70Mにおいて、日本人選手は風で矢が流され、青まで飛んでいくが、外国人選手の矢はゴールドに入る。30Mにおいても、日本人選手は風に悩まされ、どうしても８点に１本は外してしまうのだが、外国人選手は確実に９点以内に矢を納めて来る。午後からの男子団体戦での日本人選手の矢飛びと同じくらいの感である。

日本女子団体、3598点、５位。初めての海外遠征を経験するものばかりではあるが、立派に戦ったと思う。褒めてやりたい。

第１回は４位、今回が５位。もう少しのところでメダルを逃してしまう。非常に残念だ。

今回同行した選手８人は、全員よく食べた。体調を悪くしたものも出ず、ほっとしている。日頃の顧問の先生のご指導に、深く感謝しています。しかし、日本選手団の中で一番よく食べたのは、立入先生と私。連れて行った８人の食べ盛りの選手には、何となく頼りなさを覚えた。こちらが見ていて感心するくらい、ガツガツと食べる選手が欲しい。

各自適当に日本食を持ってきており、何か作ると必ず持ってきてくれた。やさしい子供たちである。

昼・夜必ずワインが出る。水代わりと聞いていたが、本当である。(水は有料、ワインは無料。)昼間から警察官でさえワインを飲んでいるのには驚いた。私はもう当分ワインはいらない。

最終日、朝から試合、１時間半の閉会式、そしてすぐにバスに乗りバンケットへ。先にも述べたが、基本的に外国人はタフだ。全然疲れを見せない。こんなヤツ(失礼！)と試合をしなくてはならないのだから、他の競技で日の丸を揚げる日本人選手には脱帽、尊敬する以外にない。最初は遠慮気味だった日本人選手もバンケットでは盛んにバッチ交換をしたり、ダンスパーティーにも参加するなどして楽しんだようである。試合だけでなく、色々な想い出を胸に刻み込んでくれたことだと思う。これからのアーチェリーや、それに限らず人生においても役立ててもらいたいものだ。

私は今回、大いなる力不足を認識した。日本選手団のコーチとしては非力であったと思う。上位に入った国のコーチ陣は、見ていて非常に魅力のある人たちだ。欧米風なものの考え方と、浪花節的感覚との違いは別にしたとせよ、彼らは見ていてとてもカッコいいのである。イタリアやトルコのコーチなどは、選手の扱い方がすばらしく、彼らに勉強するべき点が大変多かった。しばらくは頭を冷やしてみる必要があるかも知れない。そして来年のイタリア大会に向けて、私にできる最大の努力と支援をまだ見ぬ日本選手団に提供したいと思っている。

最後に、この大会にご尽力下さいました関係各位に深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

1993全国選手権大会優勝校(男子)

楽しみながら射てるアーチェリー部

横浜学園高等学校アーチェリー部
顧問　若林武正

東京インドア92・93・94と３年連続優勝、第11回全国高校選抜大会、第14回関東大会、第26回全国高校選手権大会個人優勝、第２回世界ジュニア大会10位(フランス)、第35回全日本選手権大会出場と平成五年度は横浜学園アーチェリー部にとって大変実りの大きい１年でありました。本校アーチェリー部は練習量に於いて拮抗伯仲し、一人一人が県(市)内外大会の合い間に選手自身で考え行動し自己として今、何を成すべきか(シューティングライン上に立ったら自分で考え射てる選手になる)を考え日夜試行錯誤の中で励んでいます。そこで今回は、本年度最も充実した成果を出した山岡麗子選手の感想文をのせてみたい。

『アーチェリーをやってみて』

山岡麗子

幼い頃からの憧れだけでアーチェリー部に入部しましたが、実際に部活動をしてみると自分が考えていたような楽なものではありませんでした。１年の一番最初の練習内容はマラソンが校庭五周、柔軟が腹筋や背筋・腕立てふせなどを二セット、そして基礎的なストレッチを終えた後で弓を射つという感じです。この時私は『自分の弓もまだ来ていないから少ししか射てなくてもしかたがない。』と考えていましたが、自分の弓が来てからもしばらくはマラソンや柔軟が続いた為『こんな事をするよりも弓を射たせて欲しい。』と思うことも少なくありませんでした。その時何故そう思ったのかというと、先輩達が弓を射っているのを見て『弓を引くのに体力はあまり使わなそう』と考えたからです。ですが実際に射ってみると自分が思っていたよりも体力が必要だったので驚き、それと同時にマラソンや柔軟は弓を射つための土台だったのだと思いました。次に、自分の弓も完全な形になると、射つ練習がほとんどでそれが毎日のように続きました。射ち始めた頃はただ弓を射つというのが楽しかった為毎日射っていても何も感じませんでしたが、休みがほとんどなく毎日のように射つ練習が数カ月続くと、それが義務のように思えてきて射ちたくなくなり、部活を休むことも少なくありませんでした。

１年生の時は、このような感じで過ごしましたが、２年になると県外での試合も多くなった為『しっかり練習した』とは言えませんがそれなりに自分にあった練習が出来るようになりました。２年はこの調子が続いたので安定していましたが、３年になると６月ぐらいに引退してしまう為、あまり練習をしなくなってしまいました。引退した後の練習量というと週に１・２度射つぐらいで、その他は家でたまに素引きをするぐらいなので不安になる時もありますが、自分が心の底から射ちたいと思わないかぎり射ちません。何故かと言うと、嫌々射っても良い点が出るとは思わないし、いくら点が出たとしても自分が気持ち良く射てないなら射ってもしようがないと思うからです。

次に試合に対してですが、私はオリンピックラウンドが好きではありません。理由はシングルラウンドと違って一対一で射たなければいけないので緊張してしまうということと、射

つ順番が回ってくるのが早い為、ウォークマンを聴いたり人と話をしたりすることが出来ないからです。『緊張してしまうから…というのはともかく、ウォークマンが聴けないからというのはちょっと…』と思う方もいると思いますが、これは私にとっては大切なことなのです。何故かというと、私は弓が好きだからこそ楽しく試合をしたいと思うからです。せっかく好きな事をしているのに点数をだすことだけに躍起になっていたら、気分が悪くなってしまって楽しむところではないと思います。ですが、ウォークマンで自分の好きな歌を聴いたり友達とおしゃべりしていれば弓も楽しく射てると思います。ですからそれの出来ないオリンピックラウンドは好きではないのですが、最近は少し慣れたと思います。

次に、3年間で経験した試合の中で特に覚えている試合の事を書きたいと思います。それは第11回全国選抜大会と第25回全国高校選手権大会と第2回世界ジュニア選手権です。全国選抜の時は点数がほとんど気にならず、自分のやりたい事をしながら弓も楽しく射てたのでそれが良かったのだと思います。それに比べてインターハイの方は、点数や順位が気になり弓を射つのが恐くなったりしましたが、途中から友達が応援に来て色々と声をかけてくれたおかげでどうにか優勝することが出来ました。第2回世界ジュニアの場合1日目は点数などあまり気にならずに射てたのですが、2日目は点数や順位を気にしてしまった為気分的にも落ちつかなくなり、余計に当たらなくなるという感じになってしまいましたが、ジュニアに一緒に行った友達やコーチの五百蔵先生の冗談まじりの会話があったので最後まで思いきり射つことが出来ました。

最後に、3年間アーチェリーをしてきて忘れてはいけないと思った事が幾つかあります。その1つ目は一番最初に射った時の楽しさや、アーチェリーをやってて良かったという気持ちです。2つ目は仲間を思いやる気持ちです。個人の場合は違いますが団体になるとよく分かります。団体の場合『どうせあの子が頑張ってくれるでしょう』などの誰か一人のいいかげんな気持ちでも勝敗は決まってしまいます。ですが一人一人が相手を思いやりながら射っていれば、誰か一人に負担がかかることはないと思うからです。そして3つ目は今までアーチェリーを続けてこれたのは、自分一人の力ではないということです。私の場合、本当に沢山の方に助けていただいていると思います。ただアーチェリーをすると言っても弓が必要ですし、一言で弓を買うと言っても私のおこずかいで買えるような安い物ではありません。ですから母に買ってもらっていなければ、私は今頃アーチェリーをしていなかったと思います。そして部活をするのでもコーチや先輩方に教えていただかなかったら、ここまで上達できなかったと思いますし、遠征に行くのでも先生に目標地までの行き方や電車の時間を調べていただいたり、乗車券や宿泊の手配をしていただかなかったら私は遠征に行っていなかったと思います。

また、私が今まで楽しくアーチェリーをすることが出来たのは友達のおかげだと思います。私が緊張して射てなかった時応援してくれたのも、嬉しかった時一緒に笑ってくれたのも友達だったからです。他にも沢山の方に支えられていると思います。

ですから、私はその方達に心から感謝したいと思います。

終りにあたり、本校アーチェリー部の成果が徐々にではあるが実って来ました。先般、全日本アーチェリー連盟強化部から以下の連絡があり学園をあげて喜びにひたっています。

1994年　ナショナルチーム

女子選手、松阪裕美(日本体育大学)横浜学園高校卒業

第12回アジア競技大会選考会

参加資格者、
松阪裕美(日本体育大学)横浜学園高校卒業
山岡麗子(横浜学園高校在学中)

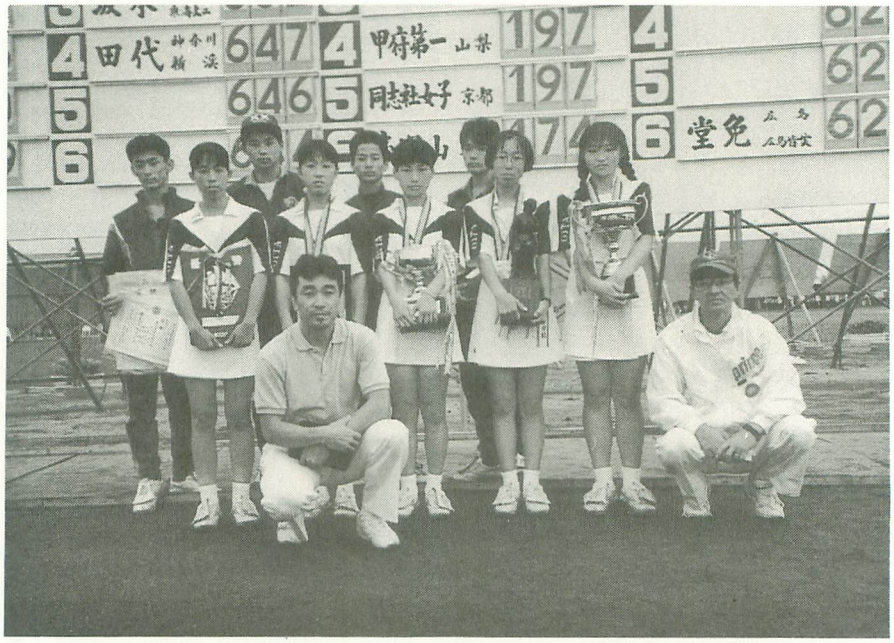
日本を代表して世界にはばたける選手が育って来ました。今後も努力していきますので宜敷く御指導をお願いします。

1993全国選手権大会優勝校(女子)

『多くの方々に支えられて』

大分東明高等学校　アーチェリー部
顧問　藤岡晋三

本校アーチェリー部の創部は、昭和63年の４月学校の活性化を目的に大分県アーチェリー協会の力添えを頂きながらスタート致しました。私は創部４年目の時期に顧問となり、素人監督で何かと不安ばかりでしたが、創部当時より熱心な技術指導をして頂いている志柿コーチや、前顧問の先生のご努力でチームとしての基礎ができており思ったよりスムーズにこの競技に入っていくことができました。それからの３年間を私の思うままに綴ってみました。



[敗退スタートからの目標]

私の出発は全国大会県予選の敗退から始まりました。その日、１年生を集め「今の気持ちを忘れるな、２年後には全国で戦えるチームを皆でつくっていこう」と生徒と共に決意しました。

[課題は内面的強化]

顧問となって１年目の冬、ナショナルチームの山本博先生が来県され本校の生徒を指導して頂きました。その時先生から「技術面では全国に引けを取らない。違うのは内面的なもの」と言われました。それからは練習時はもちろん、私生活にも厳しさを求め内面的な強化を図っていきました。

[師に恵まれて貴重な経験]

～感動の連続・そして意欲～

初めての県外遠征を折尾高校でさせて頂きました。そこで岡部先生よりたくさんのことを

教えて頂きました。「スポーツは楽しくなくちゃ」という言葉にスポーツの神髄を教わり、「素人の方が案外いいかもよ」という言葉には勇気を与えて頂きました。そして、その他にもアーチェリーと苦楽を共にされた、先生方が快く胸をかして下さり、貴重な経験談をされた上に、暖かいご指導をして頂きました。先生方の寛容な心は本当に有り難く思いました。また生徒達も全国トップレベルのプレーを見て、一緒にプレーをし、そして感動し、自分達も強くなりたいと意欲を持ちました。

［目標　全国大会入賞！］

九州地区新人戦で団体優勝し、全国選抜で個人５位入賞を果たし、チームの目標を具体化し改めました。『全国大会入賞』。

［皆に支えられて］

保護者に支えられ、学校に支えられ、チームの皆に支えられ（試合前は男女や学年を越えての心遣い）、たくさんの方々に支えられ試合に臨むことができました。５月30日のインターハイリハーサル大会（栃木）で優勝することができ、順調な仕上がり状態で、全国大会県予選を迎え、全国の切符を手にすることができました。そして前哨戦となる全九州大会では日本高校記録にあと10点と迫る大会記録で優勝することができました。

［いざ本番　５番目選手のナイスショット］

～沈滞ムードを一掃したキャプテンの言葉～

いよいよ全国大会、万全を期して臨んだつもりが、やはり、本番でのプレッシャーから初日の50メートルではまさかの出来で目標点を大きく下回りました。その日のミーティングでは暗いムードが漂っていました。私やコーチの言葉にもあまり反応がなく重傷でした。その雰囲気を一掃したのが、校内の最終予選で２年生にわずかな差で破れ、以後マネージャー業に徹してきたキャプテンの言葉でありました。選手たちの「緊張して自分の力が出せなかった」「まわりが気になりうまくリズムにのれなかった」などの反省に「あなた達に負けた私が言うのもおかしいけれど、私はここで射ちたくても射てないの！」「学校にはここへ来たくても来れない者もたくさんいるの！」「甘えたこと言わないで！」と今まで影の力となり、優しいイメージであったキャプテンからの目の覚める一喝が暗い雰囲気を一掃しました。この言葉に涙する者もありましたが、その後、皆で『明日は決勝ラウンドにつながる射をしよう』と誓い合い、その日のミーティングを終えました。翌日の30メートルでは、距離賞を目指した者、一本一本自分の射を確認した者、さまざまでありましたが昨日とは異なり、気持ちの逃げもなく一つの目標に向かって進んでいました。

［目標達成・栃木の地に生徒達が輝いた日］

決勝ラウンド当日、準決勝戦では強豪のひしめく中を、素晴らしい集中力で勝ち進み、決勝戦ではシュートオフの末、２点差をつけて悲願の初優勝を達成することができました。表彰台の一番高い所に立つ生徒達を見て、今までの３年間が思い出され、部員１人１人の顔と、お世話になった先生方の顔が交錯し感慨深いものがありました。生徒達が最高に輝いた１日でありました。

［私が生徒に望むもの］

私が生徒達に望んでいるものが、ミーティングでのキャプテンの言葉にあったように思います。あの平常心を失いかけ、やや逃げ腰になりかけた時に、私たちは多くの人達から支えられてこの場にいる。ここで射てることに『感謝の心をもとう』結果の方が気になって思うように自分の射ができないときに『結果を恐れず今（経過）を大切にしよう』など日頃の練習の中で言ってきたことを、この大事な場面で言ってくれたことを嬉しく思いました。目標に向かっ

て進み続ける中、ただ、技術的進歩を得るだけでは無く、この様な心の成長と、一生懸命取り組むことの素晴らしさをこれからも忘れないでほしいと思います。

［三年生からの手紙］

卒業を前にした三年生から手紙をもらいました。目標に向かってただひたすらに進み続けた私に、「憎たらしくて嫌になり、怒られた日には皆で悪口を言って帰ったこともありました」と始まり「自分で自分が成長したと思います。こんなに変われるなんて、自分でもびっくりしています。本当に皆さんに感謝しています」とあり、最後には「先生が他人ではなく親のような気がしています」と書かれていました。

［３年間を振り返って・そしてこれから］

素晴らしい生徒達に出会い、素晴らしいコーチと先生方に指導を頂き、そして多くの方々に支えられ今回の優勝という素晴らしい経験をさせて頂きました。皆様には心から感謝の気持ちで一杯です。これからもこの優勝に奢ること無く、新たなチャレンジャーとして生徒と共に、心と、技術の充実を目指して努力していきたいと思っています。今後とも宜しくご指導の程お願い致します。

〔学校紹介〕

羽翔け　雄々しく

大阪高校アーチェリー部
顧問　澤野元男

プロローグ

いきなり恥ずかしい話だけれど、夏合宿の夜、男子校特有の気安さもあってＯＢを囲んでタバコを吸う部員たちを発見。「なんじゃこれは」と合宿活動を中断しミーティング、試合の出場を辞めさせ、活動を一ヶ月停止させた。ランニング中心の練習を始める。その間に張本人たちはクラブから去っていった。残された一年生は、ひたすら走るだけの練習に耐え、クラブを存続させた。当時写真部の顧問として忙しい日々を送っていた私も、これは何とかしなければと思いつつ、その当時の部員たちとクラブを再建に乗り出したのは12年前だった。

起　「問題があればすぐに話し合う」「生徒の力で、クラブに自治（自分たちでクラブを再建）を」さまざまな問題がいつも起こった。いじめ、さぼり、おしゃべり続きの練習など到底クラブなどとよべない規律のない遊び仲間たちだった。再建に乗りだした部員たちは成果が上がらなかったけれど、大学でもアーチェリーを続けていく者がいたりして頑張った連中が多かった。合宿も、小豆島、信州と探し、外でやり始めた。しかし素人指導の故か、明るい仲間たちは育ったけれど、試合ではいつも予選落ちに終わる始末であった。

冬はＯＦＦ．試合の付き添いは年四回、試合はいつもドン欠。とにかく顧問にはありがたいクラブだった。生徒にとって都合の良い自主管理が行き届いていた。「試合前は打ったらあかんからと練習は無し」「撃ち方知らん顧問のアドバイスはいらん」だから無視！試合で負けても和気あいあい「くそこいつら悔しないんか。」「負けてもへらへらして、おしゃべりしながら練習かい」と思った頃。アーチェリーに本気で打ち込む生徒がいて欲しかった。

承　「クラブらしいクラブにしよう」「良い仲間ができれば、上昇指向しだす」新一年生に活きのいい元気な６人が集まった。二、三年を無視して、一年生だけの意識革命を考えた。まず「クラス活動でも行事でもいつも先頭に立て！クラブをさぼるな」「いつも練習について話し合え。」「試合や練習に集中して、礼儀をきちんとしろ」と言いつづけた。そして全国大会を見せに行った。この一年生が明らかに眼の色が変わったのを覚えている。このメンバーから生徒会長、会計、初入賞、個人優勝、全国出場選手がでた。この一年生から父母懇談会も年



夏　合　宿

一回持つようになった。ビデオを使い、社会人の試合にも出場させ、試合のチャンスを増やし、とにかくよくアーチェリーの話は出るし、貪欲に良いものは吸収できる生徒等だった。エースが生まれ、その技術を大切にしながら、射型を作ることを念頭に、とにかくよく練習するようになった。このころ部員たちは「うまくなりたいのなら、練習だ」と遅くまで本当に良く頑張ってくれた。合宿も変わりはじめ、合宿地でいろんなチームと練習させてもらえるまでになった。大阪での位置も入賞から、近畿大会と活躍する舞台が大きくなってきた。そしてクラブの中に本当に「前向きで明るい活動」が芽生えてきた。負け犬でなく、胸を張り出した選手たちにクラブの雰囲気は変わっていった。

転　もっと強くなりたいという思いもあって、北大津高校の立入先生の所にお世話になった。日曜日の一日、一緒に練習に参加させてもらった。もちろん当時の日本一のメンバーと一緒に合同練習。そのことが生徒に本当にいい刺激になった。「何とか自信を掴ませたい」「井の中の蛙になるな」と出向いた練習会。厳しい中にも工夫された練習、撃つこと以外のトレーニング。そして高い目標のもと練習し、練習後の自己反省と指導。その体験をしたことで練習内容も雰囲気も一変した。顧問も部員と一緒になってトレーニングや練習の工夫に入った。その頃の選手が後日、大阪個人優勝四回、団体優勝と全国大会入賞を果たしてくれた。「ひとりが強くなるのでなく、チームで強くなろう」「みんなでインターハイ」が口癖だった。

過日、今度は京都の同志社高校に行った。生徒が自主的に練習、合同試合を運営していた。生徒だけの力で良いクラブが作れると実感して帰ってきた。そのころ今のクラブの良い伝統が出来たのではと思っている。また、全国大会では強い選手・チームのやっていることを盗もうと考えた。いいところはどんどん見習おうと考えた。(素人の哲学？)

そのころから今考え、最近、生徒と取り組んでいることは、

「良い先輩になろう、まず上級生が動くこと」……例えば、的出し、片づけは一定期間先輩が、試合などではつまらない雑用で下級生を使わない。一番チームで強い選手が一番練習する。後輩をきちんと育てる。

「広い世界、いろんな舞台で」……広い舞台でこそ選手は伸びる。そしてへんなコンプレックスは捨てさせたい。出来るかぎり行くことの出来る所へは練習に赴く。そして去年と同じ、以前はこうしたというだけの「伝統」をなくし、自分たちで考え、もっと上達するためにはどうするか。練習をする舞台、緊張感の持てるものを考える。

「勝てる練習を」……毎日の練習が自分を飛躍させる。毎日が試合の緊張感を持った練習をする。そして射の課題を常に持って練習する。改善しようという意識のない練習は何も身に着かない。この際、スコアーカードは宝物になる。

「射を支配するのは、道具でなく人間だ」……まず人間らしく発達してほしい。人間関係を大切に考え、仲間のなかで自分を磨くこと。キャプテンを中心に良く話し合え。いろんな高校との練習の中で、技術を盗み、学びあうことで、いつも「うまくなりたい」気持ちを支えあうクラブをつくろう。

結　結びは今年卒業の生徒の声。

大阪高校洋弓部の良いところ

「先輩がいつも熱心に指導してくれた。先輩が良い目標になる。先輩を見ていてあーなりたいと思った。また自分たちの時に弱くなるのは嫌だったからよく練習をした。」

石坪孝之

「冬の練習が、的を射つだけでなく、クラブ員全員でランニング、筋力トレーニングに力を入れていること。週一回、自分たちの試合をすること。目標を持って練習し、クラブにいつもライバ

ルがいる。合同練習は結構刺激になった。」

湯脇英夫

「大高杯というクラブ内の試合が燃える。緊張感やリズムが掴めるし、一人が強くなるとみんなが、そいつを抜くぞという状態が常にある。そしてそういう緊張が、朝射つ奴を生み、昼休み射つ奴が出てきて、どんどんやる気になる。遠征や試合もいい刺激になった。」

末口広宣

今、部員23名が次の舞台をつくろうと遅くまで練習に励んでいる。……



練　習　風　景

本校クラブを土台とする 私自身の歩むべき道

兵庫県　滝川学園　滝川高等学校
顧問　小黒　顕

昨年、創部20周年を迎え、我が滝川高校アーチェリー部はインターハイ男子団体３位を手中に収めるという記念すべき年になった。兵庫県男子団体では初の上位入賞である。

本校クラブの初代主将は、現甲南女子高校顧問の五百蔵正雄氏であり、ここ10年程の間氏の監督する甲南女子高校は全国大会や国体で活躍をし、同校を中心とする兵庫県少年女子は全国において「強い！」と認められる存在となった。実際に、昨年度の国体における、成年女子優勝・少年女子準優勝はたいしたものである。（しかし、同氏の尽力は言うまでもないが、それ以上に特筆しておきたいのは兵庫県下各学校のアーチェリー部顧問の一致協力した組織・運営である。私はその組織の一員として、その運営力に誇りと自信を持っている。）

そうした中でのインターハイ３位は、本県の男子高校生アーチャーにとって、新たな一歩を踏み出す原動力となりつつある。またその基礎である、平成４年度全国高校アーチェリー大会男子個人３位・同年度第11回選抜大会男子３位になった本校の永尾嘉教（現、立命館大）の存在は、県下の男子高校生に大きな刺激を与え、成績上位者のスコアを引っ張り上げるという作用を及ぼした。我々はこれを「永尾効果」と呼んでいる。

本校クラブ創設から３年程の間は、距離としてはほんの３メートル、畳を積んだ高さは２メートルほどの、フィールドの射ち下ろしのような感覚での練習しかできなかったと記憶する。距離練習については、市内にあった民間の同好クラブの練習場で、草引きをする代償として練習させて頂いていたのである。３年目からは校舎の横に30メートルの射場が出来上がったので、そこでの練習の毎日となっている。現在もそのままであって、どうしても50メートルの練習量が不足してしまう。（近いうちに校舎建て直しの計画がありそうなので、その際にはアーチェリー場新設を目指して理事長・校長に「おそれながら……」と直訴状でも持参するつもりでいるが……。）

さて、ここでこの場をお借りして私自信の悩みを吐露し、でき得ればどなたかにご教授願いたいと思うのである。

ひとつのクラブを運営する際に一番手早いのは、指導者が「神様」になってしまうことだと考える。船頭が多くては舟は進まない。前述のように、本県の高校生指導体制が整っていると、逆に指導者によって基本的理論に差があるため、合同強化合宿の際など、誰の意見に沿うべきか生徒は迷ってしまう。私としても、他校の生徒に教えを乞われても表面的なことしか言ってあげられないのがかわいそうな時もある。指導者相互の共通理念が統一されなければならない時期に来ていると考える。だがしかし、現状を見る上では、やはり顧問なりコーチなりが「神様」・「教祖様」にならざるを得ないのであろう。

私の悩みとしては、我が高校を取り巻く環境が、神戸の副都心ということでもあり、生徒にとって楽しいことが多すぎると言うことである。ゲームセンター・カラオケなどの誘惑に弱い者には、所用を口実にクラブを休んでその方面に走ってしまう者が少なからず存在する。そういう生徒に限っては、クラブ・学業ともにたいした成績を残さない。問題なのは、クラブを熱心にやったあとで、そちらに行ってしまう子供たちなのである。指導者は、後からその事実に接するため、問題が起きてからでは全くもって遅すぎる。常に牽制と注意と警告を繰り返すのみである。いくら「神様」・「教祖様」になったところで、そこまで監督できないのは事実であ

ろう。どうしたものか……。

男子校であるがゆえのメリット(女の子の前で格好をつけるような練習をしなくてもよい・男同士で何でも話ができる)・デメリット(試合会場での女の子の存在が気になる・こちらのものの言い方が少々荒っぽくなってしまう・部室の整理清掃など細かい点に気を使わない)などいろいろあるが、客観的に見るととても楽しいことの方が多い。試合で勝つとより楽しいのであるが、まずは生徒といるのがうれしいし、生徒が苦しみながら射っているのを見るのも面白い。またそれとは別に、私のアーチェリーの楽しみ方に、全国大会や全日本選手権に生徒を引率(本当は、連れていってもらっているのだが)、または自分が出場して多くの選手・指導者と接し、情報を仕入れたり雑談をするというのがある。

教師(顧問)となって12年目。履歴書の「弓道初段」によって顧問となったのだろうが、自分にとって良い体験がいっぱいできたし、さまざまな人たちと出会うことができたことに感謝している。(31才でOBの仲人までしてしまった。)最近では、昔なじみの顔を見掛けなくなったことに寂しさを感じ、新しい顔を見ることに新鮮な喜びを感じている。

今春の全国選抜大会において、男子の上位入賞者や指定強化選手の多くが関東勢であるということは、私(と気持ちを同じくする人)にとって、その結果自体がやむを得ないことではありながら、憎々しいことでもある。大会での強化指定を受けよう、また、入賞を目指そうと思うならば、男女共に高校2年生の段階で最低でも1220点をクリアしなければならない。今後早急に、関東勢の強さの秘密を研究・吸収する必要を感じる。

あと5年後には高校生でも1300点を超える者が出てくるだろう。上には上がいる。道は遥かに遠い。まだまだやるべきことは多い。

横須賀市立横須賀高校
顧問　川村栄一

本校は関東の海水浴場として有名な三浦半島の高台の新興住宅地のなかに、昭和47年に市立第一高校と市立第二高校が統合して創立された高校です。

穏やかな校風の中でクラブ活動も活発で、運動部16部活、文化部16部活が現在活動を続けています。中でも陸上部はインターハイに何度も選手を送り、平成３年度に110mハードルで東アジアジュニア陸上大会・国体・高校総体に優勝しています。

さて、我がクラブの歴史は市立横須賀高校として新たな道を歩み始めたときにさかのぼることができます。当時顧問(現・横須賀市アーチェリー協会顧問)の斉田哲夫先生と数人の生徒が校内庭園建設予定地でアーチェリー同好会を創部して練習が始められました。

私と本校アーチェリー部の関係も長く、第５期の部長として、斉田先生にアーチェリーの手解きを受けた生徒の一人でした。

当時は、まだ学校施設に未完成の部分も多く残り、建設予定地を練習場として利用することができたことは幸いでした。しかし、新しい施設ができる毎に新しい練習場を整地し、防矢施設を作り上げることが運命づけられ、私も入部当時は弓を持つ時間よりもスコップや鋸をもった時間が多かった思い出があります。

昭和55年に現在の場所に落ち着き、射場の幅は最大で４的と鰻の寝床のような細長い形ではあるものの、アルミの網に囲まれた90mまで練習可能(高ポンドであれば)な立派な射場が完成しました。その後、昭和63年に併設で12mまで練習のできる４的分の近射場を作り、新入生の練習や調整練習に利用することもできるように改良を加え現在に至っています。

大学時代は下宿代と食費に追われ弓から離れていた私にとって、赴任するまでの空白期間におこった弓具の進歩や指導法の変化は驚くべきものがありました。さしあたって、まず自分で射って感覚をつかむことから練習が始まりました。

ほとんど浦島太郎のような状態であった私が何とか顧問として生徒と共に歩んでこれたのは、神奈川の充実した強化制度のお陰であるとおもいます。県アーチェリー協会が年間４回から６回程度実施する強化合宿では、「先生のための合宿のようだ」と云われるほど多くのことを学ばせていただきました。



的前にて

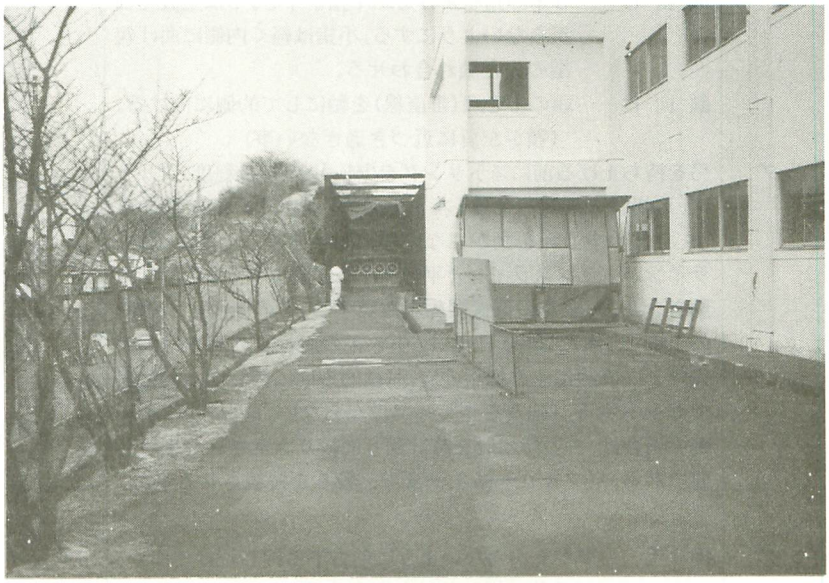
また、高校専門部が年間１２回程度実施する強化練習会では、他の先生から練習の苦労話やこぼれ話をうかがい参考にさせていただきました。さらに、優秀な選手達の射形をつぶさに観察する機会に恵まれたことは今の自分にとって何よりの励みとなっていると思います。

県内でも有数の学校施設と強化制度に恵まれたおかげで、インターハイ、全国選抜、国体、関東選抜へと部員達は活躍の場を拡げていってくれています。しかし、残念なことにそのほとんどが個人での出場であり団体での入賞は関東選抜どまりとなっています。

インターハイへの団体出場の夢は毎年先送りとなり、神奈川県の選手層の厚さと顧問の指導力の弱さを痛感しています。

現在の部員数は引退した３年生を除き、女子11名、男子５名と最盛期に比べ部員数が急減してしまいましたが、アーチェリーを楽しむこと、そして、自ら目標を設定し練習を継続する気持ちを養うことをテーマに今後も活動を続けていきたいと考えています。

何処かの試合会場で紺の地に白抜き文字で「ＹＯＫＯＳＵＫＡ ＭＵＮＩＣＩＰＡＬ ＨＩＧＨ ＳＣＨＯＯＬ」と書かれたユニフォームを見かけたら気軽に声をかけてください。



練 習 場 風 景

〔特別寄稿〕

「基本射形の考え方と注意点」

㈳全日本アーチェリー連盟強化部　広瀬　明

	十字射形＝正面＋側面からの身体の垂直性	呼吸	
1．スタンス	ストレートスタンス。(両足の爪先を結ぶ線が自分の的の中心を通る。) 重心は両足の真中に感じる。足の開き方（肩幅程度)、爪先の開き方に注意が必要。毎回同じにスタンスをする事が大切（スタンスマーカーを使用する事も考慮)	深く大きな呼吸を行ない多くの酸素を体内に取入れる様にする。	
2．セット	グリップ……親指と人指し指の付け根でピボットポイントを押す。親指は的方向に伸ばし甲が45度になる。 取掛け……３本の指を掛けるが中指が中心。甲は垂直で曲がらないようにする。小指は軽く内側に曲げ親指の先と触れ合わせる。 顔向け……頭の中心線(垂直線)を軸にして的側に向ける。(顎が左肩に近づき過ぎない事)		
3．セットアップ	弓を持ち上げる前にストリングを少し引き(10cm程度)グリップ、取掛けの確認をする。ストリングを少し引いた状態のまま、身体の中心軸を動かさない様に両手を持ち上げ、両肩のラインがスタンスラインと平行になる位置まで上体を回して動きを止め、全身の位置関係を確認する。この時サイトは的の上部（白または黒）に付け、引き手の肘は目の高さで矢の先端と一直線にする押手の肩、肘は的方向に押し切った位置でセットする。(弛みをつくってはならない。) いわゆるサル腕の場合は、この時に肘を時計回りに絞り固定させる事が必要である。（フォロースルーまで、絞りを持続させる事。）	①弓を持ち上げながら息を吸い込み、両手をセットする時点で息を吐き、重心を下げてやる。	②弓を持ち上げながら息を吸い込む。
4．ドローイング	押手……肩が上がらないように前方下に押し続けてゆく。(手首で押してはならない。) 引き手……矢の延長線上に肘を引いてくる。手の甲の向きが変わらない様に又指先に力が加わらない様に注意。(小指側を少し内側に回す様な意識が必要。)	ドローイングに合わせて息を吸う(深呼吸の半分ぐらいでアンカーの前までに)	ドローイングに合わせて1/3～1/2の量を吐いてゆきアンカーで止める。
5．アンカーリング	顔はセットアップから動かさない様に注意する。顎の骨の下に引き手をしっかりと入れ、顎の先端とストリングと人指し指との交点を常に一定の位置に固定する。(顎の中央にアンカーをセットする。) ストリングと鼻は微かに触れ合う程度	アンカーからリリース終了までは呼吸を止めておく。但し力を入れて息をつめるのではな	

	で無理に付ける必要は無い。アンカーで引きを止めずにそのまま最後まで引き続ける。押手の肩はドローイング時の力の入れ方を引き続き保持する。弦サイトを合わせる。(ストリングがハンドル上部左端に合う様に顔向けを調節する。)この時上下の歯が軽く噛み合う程度の状態で口の開きをコントロールし、奥歯を強く噛締める必要はない。	く自然に呼吸を止めた状態。従って鼻からは若干の息がもれているのが良く決して吸ってはならない。
6．エイミング (伸び合い)	右目で的に焦点を合わせ、視野の中でサイトピンをゴールドに合わせる。両肩を動かさない(身体を回転させない)様にして、引き手の肘を締め背中の方へ回す様に伸びクリッカーを切る。(矢筋に沿って、時間を掛けない。)基本的には両目を開けておくが、左目の像が強すぎる場合はつぶると良い。	
7．リリース	押手の肩の力と引き手の力が抜けない様に注意しながら、取り掛けの指先の力のみを瞬間に抜く。(初めの内はパーを出す又は親指と小指をパッと開くように指先を伸ばす方がやりやすいが、徐々に切り替えてゆく事が必要。)引き手の肘は自然に背中側に回転し、人指し指は首筋に触れたまま、甲の向きも変わらない。身体の中心線、両肩の線、押し手、顔向けは決して動かさない。	
8．フォロースルー	リリース終了時の形を2～3秒保持してから終わる。(押手、引き手の力を保持)正しいリリースが出来なかった場合でもフォロースルーは正しくとって射を終わる様に努力する。	

アーチェリー部練習計画表（1）

時　期	達成目標	強化内容	練習内容と留意点		備　考
			技　術　面	体　力　面	
第1学年	技術の正確性は体力に左右される。		正しい技術を正確に行う事	数値で管理し目的意識を持たせる	
4月上 中 下 5月上 中 下 6月上 中 下 7月上 中 下	練習弓が正しく引ける（20#）	上半身3 下半身7 上半身3 下半身5 射形　2 上半身3 下半身2 射形　5	基本射形の理解。シャドーとゴム引きによって形をマスターし背中で引くイメージを付けてゆく。 トレーニングに合わせ徐々に射形に重点。特にドローイング時に右肩甲骨を寄せ背中で引く事をイメージさせリリースに結び付ける。	基礎体力UP　ランニング中心に心肺機能と脚力の向上を主眼とする腹筋、背筋、腕立て、スクワット等 基礎トレに三角筋、二頭筋、三頭筋の強化を加えてゆく。 バーベル、ダンベル等を使用して上半身全体を強化してゆく。 （背面を特に意識）	心電図の結果が出るまでは軽いトレーニング。結果が出た後にランニングを中心とする。 ストレッチバンドを背中を通して引き手の肘にかけて形を作る。ゴム引きはゴムを握って引かせる。 練習中に指導者が1本づつ「背中で引けたか」を聞き常に意識させる。
8月上 中 下 9月上 中 下 10月上 中 下 11月上 中 下	自分の弓が正しく引ける（10%ダウン）	上半身3 下半身2 射　形5	練習弓が引きこなせたら自分の弓で近射に入る。5mから距離を射たせ330点以上出たら5m づつ伸ばしてゆく。 20m＝325点以上で30mへ 30m＝300点以上で50mへ フォロースルーの大切さを教えしっかりとる事を体に覚えさす。エイミングで一定の長さを延びてリリース出来る様になればクリッカーを使わせる。	腹筋、背筋、腕立て、スクワットジャンプを各50回以上。 倒立歩行が出来る。 懸垂（正面、背面共）10回以上 自分の実質ポンドと同じ負荷での両手カール。 実質ポンド＊2の負荷でベンチ サーキットトレーニング等を取り入れ筋持久力の向上。	ストリングをただ離すのではなくフォロースルーに向かってシュートさせる。クリッカーを切る為の伸びの方向性をイメージさせる。自分の注意点をメモさせ1本毎に確認させる。 50mで220点以下の者は再度30mからやらせる。
12月上 中 下 1月上 中 下 2月上 中 下 3月上 中 下	自分の弓が正しく引ける（5%ダウン）	上半身3 下半身3 射　形4	近射を中心に射形を1からチェックさせ、丁寧に射たせる。 ゴールドへの矢の集中をイメージの中に植え付ける為に15mから1週に1m づつ距離を延ばす。 寒くなるとどうしても取り掛けに力が入り過ぎるのでリラックスと保温に注意する。	1日おきにシューティング主体とトレーニング主体をはっきりと分け、メリハリのある練習とする。 シーズン中は金曜日が主として移動日となるので、この時期から休みとする。 器具のないところはストレッチバンドで代用すると良い。	来シーズンの目標の明確化によるモチベーションの向上

アーチェリー部練習計画表(2)

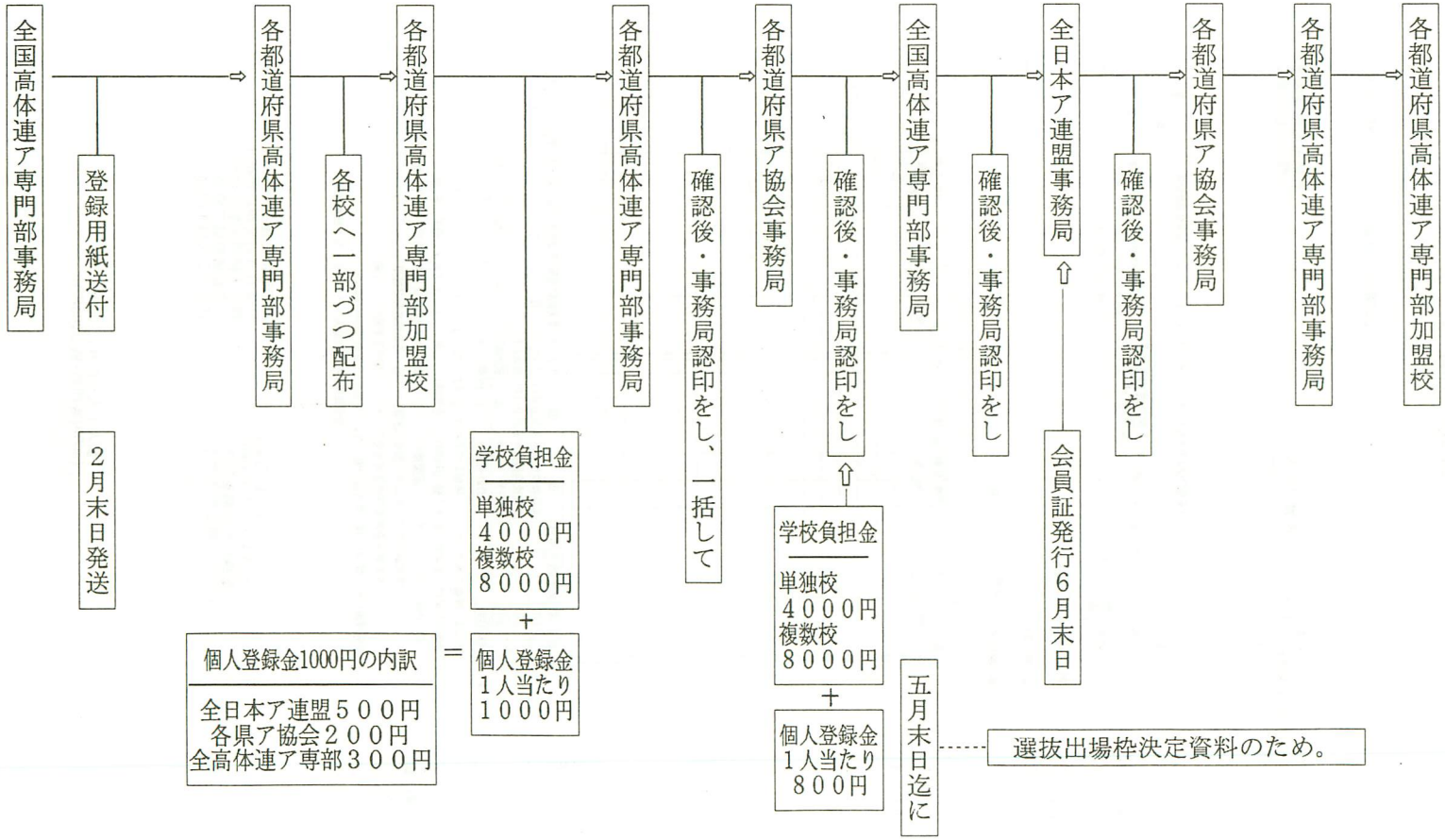
時　期	達成目標	強化内容	練習内容と留意点		備　考
			技　術　面	体　力　面	
第2学年	全日本選手権出場	オールラウンドな強化	自分のシューティングの理解と確立	シングルラウンドが負担に感じないレベルの体力と気力の養成	
4月上 中 下 5月上 中 下 6月上 中 下 7月上 中 下	連休頃から長距離を練習 70 60 } +50mで 600点目標 マッチプレーでのメンタルコントロール	週2回程度長距離主体の射込み マッチプレーでのプレッシャーへの対処	長距離に於ける肩の位置が短距離と同様である事の意識 距離毎の違和感をなくし、各距離毎のグルーピングの大きさをイメージとして持たせる。 架空の敵を想定しマッチプレーに於けるメンタルリハーサル	練習後弓を使ったトレーニング(段引き、肩入れ)を必ず行う。 全身運動能力の向上(ランニングとウェイトトレーニング)は年間を通して行ってゆく。 自分の弓を1分間はホールディング出来るようにする。	距離練習の前後に必ず近射を行い正しいフォームのイメージを確認させる。 体調や身体のリズムによる得点変動をチェック
8月上 中 下 9月上 中 下 10月上 中 下 11月上 中 下	インターハイ 国　体 全日本	シングルラウンドの強化	各距離の違和感を無くすためにグランドラウンドで点数付け(全ての距離を同じ感覚で射てるように) 自分のシューティングの確立(イメージをまず確立させる。)	雨や風等の悪条件のもとでも自分の射のリズムを守れるだけの体力レベル	カーボンアローの使用とフルボンドへの移行時期?
12月上 中 下 1月上 中 下 2月上 中 下 3月上 中 下	全国選抜大会		1学年と同じ内容(密度は当然濃くなる。) シューティングの自動化が更に精度良く出来るように、距離と近射を組合わせて行う。		

アーチェリー部練習計画表(3)

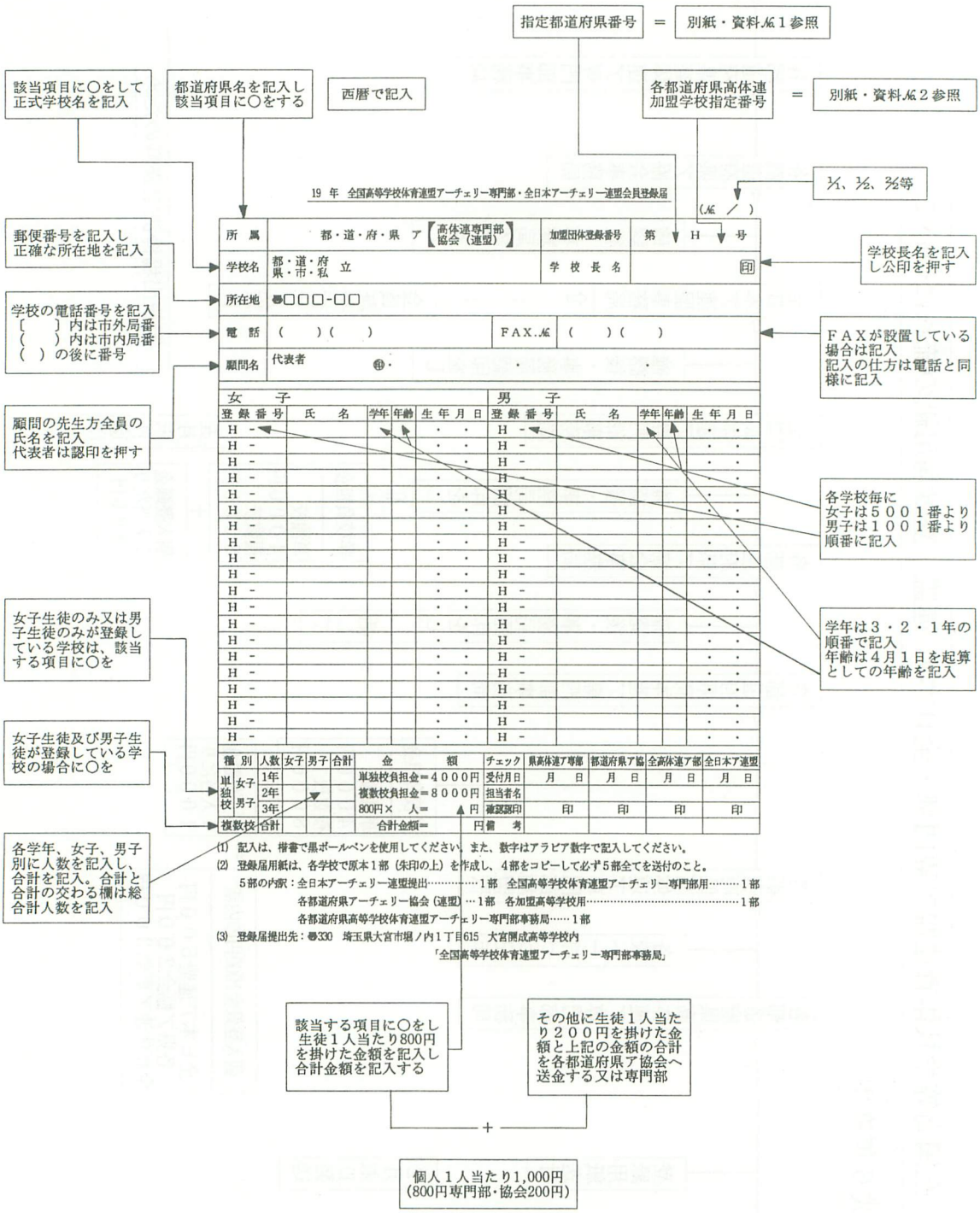
時　期	達成目標	強化内容	練習内容と留意点		備　考
			技　術　面	体　力　面	
第3学年	全日本選手権出場 2500点	技術と体力のバランス+メンタル	基本に裏付けられた安定したフォームの確立	4日間の試合(海外を含む)に耐えうる体力と気力の養成	海外試合に対する準備(言葉と食事)
4月上 中 下 5月上 中 下 6月上 中 下 7月上 中 下	Jr代表予選 Jr代表予選	全体をバランス良く強化することが大切 (欠けた部分を補ってゆく)	本人の自覚に基づいて、より高いレベルへ意識を向上させ、細部にわたるフォームのチェックと矯正 色々な場面を想定し、その中で常に自分のベストを発揮出来る為のフォームづくりとメンタル強化(シングル、ダブル、グランド、オリンピック、インドア等)	練習(実射、トレーニング)を通じて身につけるメンタルタフネス。	
8月上 中 下 9月上 中 下 10月上 中 下 11月上 中 下	インターハイ (世界Jr大会) 国　体 全日本				
12月上 中 下 1月上 中 下 2月上 中 下 3月上 中 下					

全国高等学校体育連盟ア専門部・全日本ア 連盟　登録届用紙の流れについて

平成６年度用



登録届記入方法



所属	都・道・府・県 ア【高体連専門部 協会（連盟）】	加盟団体登録番号	第 H 号
学校名	都・道・府 県・市・私 立	学校長名	印
所在地	〒□□□-□□		
電話	( )( )	FAX.№	( )( )
顧問名	代表者 ㊞・ ・ ・		

女子 登録番号	氏名	学年	年齢	生年月日	男子 登録番号	氏名	学年	年齢	生年月日
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・

種別		人数	女子	男子	合計	金額	チェック	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単独校	女子	1年				単独校負担金＝４０００円	受付月日	月 日	月 日	月 日	月 日
	男子	2年				複数校負担金＝８０００円	担当者名				
		3年				800円× 人＝ 円	確認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額＝ 円	備考				

(1) 記入は、楷書で黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。
(2) 登録届用紙は、各学校で原本１部（朱印の上）を作成し、４部をコピーして必ず５部全てを送付のこと。
5部の内訳：全日本アーチェリー連盟提出……１部　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部用……１部
各都道府県アーチェリー協会（連盟）…１部　各加盟高等学校用……１部
各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局……１部
(3) 登録届提出先：〒330　埼玉県大宮市堀ノ内１丁目615　大宮開成高等学校内
「全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局」

指定都道府県番号表

指定都道府県番号	都道府県名		指定都道府県番号	都道府県名		指定都道府県番号	都道府県名
1	北海道		17	長　野		33	岡　山
2	青　森		18	富　山		34	広　島
3	岩　手		19	石　川		35	山　口
4	宮　城		20	福　井		36	香　川
5	秋　田		21	静　岡		37	徳　島
6	山　形		22	愛　知		38	愛　媛
7	福　島		23	三　重		39	高　知
8	茨　城		24	岐　阜		40	福　岡
9	栃　木		25	滋　賀		41	佐　賀
10	群　馬		26	京　都		42	長　崎
11	埼　玉		27	大　阪		43	熊　本
12	千　葉		28	兵　庫		44	大　分
13	東　京		29	奈　良		45	宮　崎
14	神奈川		30	和歌山		46	鹿児島
15	山　梨		31	鳥　取		47	沖　縄
16	新　潟		32	島　根			

★個人登録番号の付記について

1）指定都道府県番号はHの前に　　例：東京都の場合 [１３] Ｈ－

2）指定学校番号はHに続いて　　例：東京都の玉川学園高校の場合　１３Ｈ－[０６]

3）個人登録番号をーの後に男子は1001・女子は5001より各学校で付記

例：東京都の玉川学園高校の場合　１３Ｈ－０６－１００１（男子の場合）
１３Ｈ－０６－５００１（女子の場合）

19　年　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟会員登録届

（№　／　）

所　属	都・道・府・県　ア（高体連専門部／協会（連盟））	加盟団体登録番号	第　H　号
学校名	都・道・府 県・市・私　立	学　校　長　名	㊞
所在地	〒□□□-□□		
電　話	〔　　〕（　　）	FAX.№	〔　　〕（　　）
顧問名	代表者 ㊞・　　・　　・		

女　子

登録番号	氏　名	学年	年齢	生年月日
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・

男　子

登録番号	氏　名	学年	年齢	生年月日
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・
H -				・　・

種別		人数	女子	男子	合計	金額	チェック	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単独校	女子	1年				単独校負担金＝４０００円	受付月日	月　日	月　日	月　日	月　日
	男子	2年				複数校負担金＝８０００円	担当者名				
		3年				800円×　人＝　円	確認認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額＝　円	備　考				

★(1)　記入は、楷書で黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。

(2)　登録届用紙は、各学校で原本１部（朱印の上）を作成し、４部をコピーして必ず５部全てを送付のこと。

５部の内訳：全日本アーチェリー連盟提出……１部　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部用……１部

各都道府県アーチェリー協会（連盟）…１部　各加盟高等学校用……１部

各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局……１部

(3)　登録届提出先：〒330　埼玉県大宮市堀ノ内１丁目615　大宮開成高等学校内　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局　宛

略称（全国高体連アーチェリー専門部事務局　宛）

選手権大会　栄光の歩み

（第１～19回：１日制、第20回～：男女別２日制で実施）

回数	男・女	団体の部	個人の部
第１回大会		（68’８．10．大阪府・東大阪グランド）	
	男子	浜松興誠高（静岡）1639.	稲川篤郎（浜松興誠高）577.
	女子	同志社高（京都）1419.	布浦裕子（同志社高）503.
第２回大会		（69’８．10．静岡県・県営草薙運動場）	
	男子	岸和田産業高（大阪）1689.	下向辰法（岸和田産高）573.
	女子	同志社高（京都）1470.	布浦裕子（同志社高）529.
第３回大会		（70’８．９．東京都・駒沢第一球技場）	
	男子	岸和田産業高（大阪）1606.	伊藤寿彦（岸和田産高）601.
	女子	同志社高（京都）1505.	熊谷登美（同志社高）527.
第４回大会		（71’８．１．京都府・府立大グランド）	
	男子	浜松工業高（静岡）1622.	亀井　孝（同志社高）600.
	女子	甲南女子高（兵庫）1493.	井上典子（同志社高）534.
第５回大会		（72’８．４．神奈川県・三ッ沢球技場）	
	男子	横浜高（神奈川）1702.	角井和夫（広島工業高）583.
	女子	浜松北高（静岡）1601.	辻　紀子（甲南女子高）552.
第６回大会		（73’８．５．東京都・駒沢第一球技場）	
	男子	愛知高（愛知）1764.	鈴木　優（静岡三ケ日高）621.
	女子	同志社女子高（京都）1553.	辻　紀子（甲南女子高）558.
第７回大会		（74’８．３．滋賀県・県営彦根総合運動場）	
	男子	同志社高（京都）1707.	河内敏雄（同志社高）600.
	女子	同志社女子高（京都）1644.	後藤有理子（同志社女高）573.
第８回大会		（75’８．３．愛知県・愛知学院大グランド）	
	男子	大阪工業大高（大阪）1753.	梅内秀和（八戸工大第二）646.
	女子	同志社高（京都）1586.	小里頼子（札幌啓成高）551.
第９回大会		（76’８．１．北海道・札幌真駒内アイスアリーナ）	
	男子	三本木農業高（青森）1810.	市川松治（三本木農高）633.
	女子	富士見高（静岡）1686.	佐野敦子（富士見高）592.
第10回大会		（77’７．31．宮城県・秋保森林スポーツ公園）	
	男子	慶応義塾高（神奈川）1817.	神野　浩（慶応義塾高）627.
	女子	浜松商業高（静岡）1724.	松永弘子（富士見高）607.
第11回大会		（78’７．27．青森県・十和田市陸上競技場）	
	男子	愛知高（愛知）1785.	山本　博（横浜高）639.
	女子	三本木農業高（青森）1641.	山内京子（浜松商業高）570.
第12回大会		（79’７．29．広島県・県営総合グランド）	
	男子	浜松工業高（静岡）1836.	山本　博（横浜高）630.
	女子	山陽女子高（広島）1641.	大道理枝（山陽女子高）582.
第13回大会		（80’８．３．滋賀県・秦荘町民スポーツセンター）	
	男子	横浜高（神奈川）1925.	山本　博（横浜高）670.
	女子	千葉英和高（千葉）1739.	大道理枝（山陽女子高）618.
第14回大会		（81’８．２．東京都・駒沢第二球技場）	
	男子	名古屋電気高（愛知）1888.	岐部恭史（大阪工大高）640.
	女子	大津商業高（滋賀）1794.	名倉裕子（浜松工業高）621.
第15回大会		（82’８．１．群馬県・川場中学校グランド）	
	男子	丹南高（福井）1817.	薄井雅美（馬頭高）625.
	女子	富士見高（静岡）1682.	平田さゆみ（札幌月寒高）598.

第16回大会	(83'８．７.奈良県・三宅健民運動場) ㊟雷雨の為、団体・個人共に63射迄の記録	
男　子	馬　頭　高（栃　木）1650.	池　田　辰　弥（慶応義塾高）571.
女　子	大津商業高（滋　賀）1587.	岩　波　ひろみ（大津商業高）543.
第17回大会	(84'８．５.鳥取県・東郷湖羽合臨海公園スポーツ広場)	
男　子	米　子　北　高（鳥　取）1904.	松　田　武　文（米子北高）643.
女　子	札幌啓北商業高（北海道）1816.	山　本　和　美（札幌啓北商高）620.
第18回大会	(85'８.11.山梨県・敷島総合公園運動場)	
男　子	米　子　北　高（鳥　取）1889.	室　伏　優一郎（横　浜　高）650.
女　子	大津商業高（滋　賀）1789.	児　玉　晶　子（米子北高）648.
第19回大会	(86'７.27.沖縄県・宜野湾市海浜公園多目的広場)	
男　子	横　浜　高（神奈川）1787.	蓮　田　秋　二（東京学園高）629.
女　子	札幌啓北商業高（北海道）1753.	中　込　恵　子（甲府第一高）612.
第20回大会	(87'７.25～26.京都府・日吉胡麻総合運動広場)	
男　子	三本木農業高（青　森）1876.	鎌　田　芳　彰（幕　別　高）643.
女　子	折　尾　高（福　岡）1775.	大　城　春　野（宜野湾高）611.
第21回大会	(88'７.26～27.北海道・旭川市)	
男　子	北大津高（滋　賀）1883.	吉　田　　賢（甲府第一高）657.
女　子	折　尾　高（福　岡）1881.	岩　山　美　保（折　尾　高）635.
第22回大会	(89'７.26.～27.福岡県・北九州市)	
男　子	柏　陵　高（福　岡）1685.	山　本　　敦（永　谷　高）603.
女　子	旭　川　北　高（北海道）1802.	鈴　木　知　子（桜　丘　高）634.
第23回大会	(90'７.27.～28.石川県・柳田村)	
男　子	柏　陵　高（福　岡）1917.	宮　永　雅　史（柏　陵　高）657.
女　子	折　尾　高（福　岡）1796.	森　本　淳　子（同志社高）626.
第24回大会	(91'７.27.～28.山形県・鶴岡市)	
男　子	同志社高（京　都）1813.	藤　原　　悟（広島工業高）630.
女　子	折　尾　高（福　岡）1681.	岡　野　善　恵（甲南女子高）578.
第25回大会	(92'７.26.～28.香川県・財田.仲南町)	
男　子	横浜高校（神奈川）1880.	木　村　正　純（横浜高校）650.
女　子	横浜学園（神奈川）1828.	川　上　祐佳里（柏　陵）639.
平成５年度	全国高等学校総合体育大会　第26回大会(93'８．１～４.栃木県・馬頭町)	
男　子	横　浜（神奈川）234.	木　村　正　純（横　浜）656.
女　子	大分東明高（大　分）205.	山　岡　麗　子（横浜学園）629.

選　手　権　大　会　記　録

[団体の部]

《男子》横　浜　高（神奈川）1925
- 山本　博　670（323.347）
- 臼井　肇　628（294.334）
- 足立　朋美　627（299.328）

・第13回大会

《女子》折　尾　高（福　岡）1881
- 岩山　美保　635（299.336）
- 坂田美穂子　624（291.333）
- 岡部　由布　622（290.332）

・第21回大会

[個人の部]

《男　子》

ハーフ・R	山本	博	670（323.347）	神奈川・横浜高・第13回大会
５０　M	山本	博	323	神奈川・横浜高・第13回大会
３０　M	山本	博	347	神奈川・横浜高・第13回大会

《女　子》

ハーフ・R	児玉	晶子	648（310.338）	鳥　取・米子北高・第18回大会
５０　M	児玉	晶子	310	鳥　取・米子北高・第18回大会
３０　M	鈴木	知子	341	愛　知・桜ヶ丘高・第22回大会

選抜大会　栄光の歩み

【男　子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	90m 70m 50m 30m	期日	開催地
1	河合徳之	浜松工	1199	246. 309. 306. 338.	'83. 3 .25-27	愛知・森林公園
2	角田信一	馬頭	1154	259. 277. 294. 324.	'84. 3 .25-27	静岡・富士市
3	松田武文	米子北	1131	208. 288. 301. 334.	'85. 3 .25-27	滋賀・秦荘町
4	田中喜美男	横浜	1198	265. 300. 294. 339.	'86. 3 .25-27	福井・芦原町
5	和田和則	馬頭	1174	234. 269. 307. 317.	'87. 3 .25-27	東京・駒沢公園
6	荒金利剛	米子北	1164	237. 282. 318. 327.	'88. 3 .25-27	大阪・久米田高
7	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3 .25-27	神奈川・横浜高
8	赤井雅宏	北大津	1200	252. 307. 306. 335.	'90. 3 .25-27	兵庫・神戸市
9	田中勝美	横浜	1214	277. 321. 291. 322.	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
10	厚海善栄	田村	1216	259. 316. 307. 334	'92. 3 .25-27	京都・山城総合
11	木村正純	横浜	1232	249. 312. 326. 345	'93. 3 .25-27	静岡・草薙
12	園田孝史	横浜	1282	292. 322. 322. 346	'94. 3 .27-28	滋賀・長浜市

【大会記録】

TOTAL	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
90m	田中勝美	横浜	277	第9回選抜大会	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
70m	田中勝美	横浜	321	第9回選抜大会	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
50m	木村正純	横浜	326	第11回選抜大会	'93. 3 .25-27	静岡・草薙
30m	木村正純	横浜	345	第11回選抜大会	'93. 3 .26-27	静岡・草薙

【女　子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	70m 60m 50m 30m	期日	開催地
1	上鹿渡由美	北海道清水	1183	285. 303. 270. 325.	'83. 3 .25-27	愛知・森林公園
2	田中志律	千葉英和	1124	257. 268. 274. 325.	'84. 3 .25-27	静岡・富士市
3	藤本正美	大津商業	1195	265. 299. 296. 335.	'85. 3 .25-27	滋賀・秦荘町
4	大城春野	宜野湾	1153	276. 286. 272. 319.	'86. 3 .25-27	福井・芦原町
5	松宮真由美	丹南	1207	283. 299. 306. 319.	'87. 3 .25-27	東京・駒沢公園
6	近藤真弓	信愛学園	1216	287. 312. 292. 325.	'88. 3 .25-27	大阪・久米田高
7	小山美代子	兎道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3 .25-27	神奈川・横浜高
8	高木祐子	富士見	1177	263. 289. 305. 320.	'90. 3 .25-27	兵庫・神戸市
9	谷口和子	折尾	1214	288. 316. 280. 330.	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
10	大内愛	山陽女子	1215	294. 304. 293 324	'92. 3 .25-27	京都・山城総合
11	山岡麗子	横浜学園	1235	293. 313. 295 334	'93. 3 .25-27	静岡・草薙
12	今福織江	大分東明	1297	315. 321. 318 343	'94. 3 .27-28	滋賀・長浜市

【大会記録】

TOTAL	小山美代子	兎道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
70m	長見みどり	山陽女子	296	第7回選抜大会	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
60m	池田敦美	天真学園	316	第7回選抜大会	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
50m	松宮真由美	丹南	306	第5回選抜大会	'87. 3 .26-28	東京・駒沢公園
30m	後藤和美	大宮開成	339	第11回選抜大会	'89. 3 .26-27	静岡・草薙

日本高校記録（ＦＩＴＡ　ＲＯＵＮＤ）

参考記録（室内）

平成６年３月28日現在
全国高体連アーチェリー専門部

〈男　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	園田孝史	横　浜・神奈川	１２８２	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜DOME
９０Ｍ	相津文明	三ヶ日・静　岡	２９３	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜DOME
７０Ｍ	園田孝史	横　浜・神奈川	３２２	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜DOME
５０Ｍ	板倉幹郎	三浦学園・神奈川	３２４	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜DOME
３０Ｍ	園田孝史	横浜・神奈川	３４６	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜DOME

〈女　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	今福織江	大分東明・大分	１２９７	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜DOME
７０Ｍ	今福織江	大分東明・大分	３１５	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜DOME
６０Ｍ	今福織江	大分東明・大分	３２１	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜DOME
	横田知子	大分東明・大分	３２１	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜DOME
５０Ｍ	今福織江	大分東明・大分	３１８	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜DOME
３０Ｍ	熊谷　愛	柏　陵・福岡	３４４	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜DOME

日本高校記録
(FITA ROUND)

平成５年10月現在
全国高体連アーチェリー専門部

〈男　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	大橋　亨	東京工業高・東京	1289 (296 323 320 350)	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
９０M	三浦　一己	野津田高・東京	299	91年東京新聞杯大会	91.6.2	東京・世田谷区
７０M	坂本　隆輝	東京第二・熊本	329	93年熊本県公認記録会	93.9.12	熊本・荒尾市
５０M	藤原　悟	広島工業高・広島	330	91年中国地区選手権	91.9.22	広島・千代田町
３０M	若杉徳之	柏　陵・福岡	351	92年福岡県秋季大会	92.9.20	福岡・福岡市
50･30M	山本　博	横浜高・神奈川	670 (323 347)	第13回全国高校選手権	80.8.3	滋賀・秦荘町
５０M	鎌田芳彰	幕別高・北海道	325	第41回「かいじ」国体	86.10.14	山梨・敷島町
３０M	田島光浩	愛知高・愛知	350	第41回国体地区予選	86.8.30	岐阜・関市
TEAM	光田　健 西川清一 宮永雅史	柏　陵・福岡	1955 663 (321.342) 646 (302.344) 646 (311.335)	90年福岡県高校総体	90.6.3	福岡・福岡市
ダブル (参考)	松田武文	米子北高・鳥取	2450 1226 1224	第27回全日本選手権	85.11.9～10	山梨・敷島町

〈女　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	大内　愛	山陽女子高・広島	1291 (315 322 314 340)	第34回全日本選手権	92.11.6	静岡・掛川市
７０M	大内　愛	山陽女子高・広島	319	92年広島県夏季大会	92.8.9	広島・瀬野川町
６０M	西又　良美	柳田農業高・石川	326	91年県月例競技会	91.6.23	石川・金沢市
５０M	村上　千夏	折尾高・福岡	319	91年全九州選手県	91.9.1	福岡・小国町
３０M	井上鹿代子	富士見高・静岡	348	89年地区大会	89.6.11	静岡・田方郡
50･30M	井上鹿代子	富士見高・静岡	653 (316 337)	89年静岡県高校総体	89.6.4	静岡・天竜市
５０M	宮岸かおり	札幌啓北高・北海道	320	第44回国体地区予選	89.8.4	北海道・旭川市
３０M	岩波ひろみ	大津商高・滋賀	343	第38回国体地区予選	83.8.21	奈良・奈良市
TEAM	堂免　美香 片山　奈美 脇田　礼子	広島県選抜	1902 639 (301.338) 636 (296.340) 627 (303.324)	第48回「東四国国体」	93.10.26	香川・仲南町
ダブル (参考)	児玉晶子	米子北高・鳥取	2537 (1275 1262)	第27回全日本選手権	85.11.9～10	山梨・敷島町

ＦＩＴＡ世界記録・日本記録

1994年３月現在

男子総合	1352　Ｖ・エシェエイエフ（ソ連） 1990．ソ連陸海軍選手権　タシュケント	1338　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1993
90m	330　Ｖ・エシェエイエフ（ソ連） 1990	325　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1989
70m	344　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1990．５/13　第23回全日本社会人選手権	344　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1990．５/13　第23回全日本社会人選手権
50m	345　Ｒ・マッキニー（アメリカ） 1982．５/23　スポーツフェスティバル	342　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1991．９/23　中国地区アーチェリー大会
30m	358　アントニオ・バスケス（スペイン） 1992．	357　松下　和幹（三菱電機鎌倉） 1986．７/２　天津国際競技大会
女子総合	1375　チョー・ユンジョン（韓国） 1992．バルセロナ・オリンピック	1318　児玉　晶子（神奈川県） 321-332-325-340 1986．11/３　第28回全日本選手権大会
70m	338　チョー・ユンジョン（韓国） 1992．バルセロナ・オリンピック	326　中川さつき（日本体育大学） 1989．８/25　関東学生アーチェリー個人選手権大会本選
60m	347　キム・スーニュン（韓国） 1989．７/５　第35回世界大会	335　大内　　愛（ダイイチ） 1993
50m	338　チョー・ユンジョン（韓国） 1992．バルセロナ・オリンピック	334　中込　恵子（日本体育大学） 1990．８/５　第106回全米選手権大会
30m	357　Ｊ・エデンス（イギリス） 1990．ヨーロッパ選手権・バルセロナ	350　中川さつき（広島） 1992

＊（　）内の所属は記録樹立時のものです。（提供・ＦＩＴＡ、㈳全日本アーチェリー連盟）

記 録 収 集 に つ い て

競技委員会

記録収集の意義につきましては組織の歴史であり、同時に将来的な発展の最も大きな源動力となるべきものであります。競技力の向上、組織の活性化、競技の普及拡大、すべてこの記録無しには考えられません。つきましては記録送付及び記入要領は下記の要領でお願いします。

【1】送付記録は原則としてコンピュータデータの形式とする。

【2】種別、種目、項目は従来通りとする。

【3】各都道府県で【2】の2種別、6種目について競技者のランキングを作成し、そのデータを送付する。

【4】送付用フロッピーディクスは競技委員会記録部より配布するので、その中に入力する。

【5】記録送付競技会

(1) 都道府県高等学校体育連盟主催の競技会

(2) 全ア連主催あるいは各県公認競技会・予選会

データ入力上の注意

【1】各項目のセル幅について

(1) セルを移動すると画面左上にセル番地と共に数字が出ますが、これは設定されたセル幅です。出ないのは標準のセル幅（半角10）です。

(2) セル幅の変更はしないで下さい。

【2】各項目への入力について

(1) 順位

各県単位の順位はつけても良いが、送付用は消去して下さい。

(2) 氏名

全角左詰めとします。(全角6文字)

例　氏2文字　名2文字　□□□□

氏2文字　名1文字　□□　□

氏1文字　名2文字　□　□□

氏3文字　名3文字　□□□□□□

氏3文字　名1文字　□□□　□

(3) 所属県名

全角左詰め文字入力とします。(全角3文字)

都・府・県の文字はいりません。

(4) 登録番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角９文字）

例　25H015005

　　42H021001

(5) 学校番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角５文字）

例　40H01

　　11H04

(6) 学校名

全角左詰めとします。ハーフ・シングル（半角10）、団体（半角11）５文字内で入力します。学校名の後に高校・高の文字は５文字以内ならば、つけて下さい。

(7) 学年

半角、数値入力とします。

(8) 合計

各種目の距離別小計は数値入力とします。

種目の合計欄には計算式が書き込まれている筈ですから、各距離得点へ入力して下さい。

団体は必ずチームの１位・２位・３位の順に左から入力して下さい。

（団体順位のソートは団体合計・１位得点・２位得点の順に実行します）

(9) 日時

日時は半角数字（文字）入力します。年は不要です。

例　08/03

　　11/03

　　10/10

(10) 競技会名

全角５文字位で入力して下さい。

例　長崎県民体育大会……長崎県体又は県体

(11) 会場名

全角入力とします。（全角６文字）

セル幅は全角６文字に設定しています。これを越えても入力はできますが、長過ぎると製本時に切れることがあります。

開催された県名／会場地名を入力します。（／を間に入れて下さい）

例　埼玉／上尾橘

　　大分／狭間町

グラウンド等はGで省略して下さい。

例　田布施高校グラウンド……田布施高校G

【3】得点記録集計のディスクについて

(1) LOTUS－123　R2.1JまたはR2.2Jで作成されたデータとする。

(2) ディスクは原則として3.5”(2DD.HD)を使用するが、5”(2HD)でも良い。

(3) ディスクは必ずコピーディスクにラベルをつけ、県名・入力責任者名・住所を記入して送付する。

【4】送付先及び締切期日

送付先　〒856　長崎県大村市森園町1079-3

長崎県立大村工業高等学校

機械科　大塚　敬輔　宛

ＴＥＬ　0957 52-3772・3773　内線45

ＦＡＸ　0957 52-3773

締切期日　当該年度の12月20日（必着）

遅れると製本期日の都合上記載されない場合があります。

問合わせ　質問・問合わせは上記住所・電話番号へお願いします。

高校公認記録規程

第１条　全日本アーチェリー連盟（以下「全ア連」という。）規約第11章第136～143条にもとづき、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「本専門部」という。）規約第８章第11条第３項により競技記録公認規定をこれにより定める。

第２条　本専門部の加盟・登録者が、この規定の定めるところにより、その加盟学校および登録構成員が、以下にかかげる諸条項のもとに行われた競技会において作られた記録に限り公認申請することができる。

第３条　日本高校記録は、全ア連競技規則第137条の外、次の条件を満たすこと。

１）当該年の４月１日現在18歳未満の高校生の記録であること。ただし、定時制生徒は19歳未満とする。

２）⑴全ア連が公認した競技会における記録。

⑵各都道府県単位または地域高校競技会の記録。

ただし、印刷したプログラムがあり、競技委員長・審判長・射場長は公認審判員であること。

⑶ハーフラウンド及びハーフラウンド団体の記録は、ハーフラウンドの競技会の記録であること。

第４条　前条にかかげる競技会には、次に定める諸条件が具備されていなければならない。

１）各都道府県高体連に学校加盟し、本専門部に加盟・登録していること。

２）団体の記録は同一学校、同一課程の編成であること。

３）インター・ハイ本大会に準じた、相互得点記録方法であること。

第５条　個人の距離別の記録公認については、第３条に規定された競技会において樹立されたものを申請することができる。

第６条　前条に定める競技会の記録公認申請は、競技の日より原則として１カ月以内に主催または主管団体長が前条の確認をなし、全ア連所定の記録承認申請書（本専門部様式－６）に必要事項を記載し、全ア連事務局に提出するものとする。

第７条　全ア連理事会で審査の結果、新記録として承認されたときは、その旨を本専門部においても発表し、高等学校記録証を交付する。

第８条　毎年12月10日付をもって、各都道府県高体連ア専門部または各都道府県ア協会は

第３条に定めた競技会にる当該都道府県の高等学校最高記録を保管し、その写しを毎年12月20日までに本専門部事務局まで送付しなければならない。

第９条　本規定は、本専門部委員会において改廃する。

第10条　本規定は昭和57年５月９日より施行する。

昭和60年４月１日一部改正

昭和63年２月11日一部改正

申請書送付先

〒150　東京都渋谷区神南１－１－１

岸記念体育会館内　全日本アーチェリー連盟　宛

平成　　年　　月　　日

全日本アーチェリー連盟

会　長　　殿

主催者名

主管団体名

会　長　名　　㊞

新記録の樹立承認申請書の送付について

（申　　請）

標記のことについて、下記の通り新しい記録が樹立されましたので、ここに関係書類を添えて申請いたします。

なお、関係書類の到着のうえは、書類内容の点検をいただくとともに念のため受領確認書を送付くださるようお願いします。

記

1．内容記録：記録申請

2．送付書類：ア）記録承認申請書……1　部

イ）スコアーシート（写）…1　部

ウ）競技会プログラム……1　部

エ）競技会成績表……1　部

以　上

受領確認	全日ア連	受付月日：　　月　　日
		確認者： 氏　名：　　㊞

（上記記入のうえ、複写書類を返送下さい）

（様式－６ア）　　平成　　年　　月　　日

全日本アーチェリー連盟会長殿

主管団体名
会　長　名　　㊞

記録承認申請書

下記の通り新記録が樹立されましたので、ここに承認申請をいたします。

申請内容		日本記録		日本高校記録		日本国際記録		
競技会名	第　　回							
期日	平成　　年　　月　　日～　　月　　日.（　　日間）							
会場								
区分・種別		団体		個人		男子		女子
種目・距離		ハーフ・R		シングル・R		ダブル・R		グランド・R
		個人TOTAL		個人距離	90. 70. 60. 50. 30.m			
競技者名	（学校・所属名） ＿＿＿＿＿＿	①氏　名：		登録番号　H　－				
		②氏　名：		登録番号　H　－				
		③氏　名：		登録番号　H　－				
記録内容	団体記録	合　計：＿＿＿点 ①＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点） ②＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点） ③＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点）						
	個人記録	点（　　，　　，　　，　　点）						
	距離記録	m：　　点（　　点・　　点）						
		m：　　点（　　点・　　点）						
競技会責任者	競技委員長または審判長の署名・捺印　　㊞							
備考	1．申請書は、新記録が樹立された種目毎に１枚あて提出すること。 2．添付種類は、①スコアーシートーの写し（コピー可）. ②競技会プログラム. ③競技会成績一覧表.　を提出すること。 3．未登録の場合、記録樹立後の競技者登録および承認申請書の提出は、いかなる理由があっても認められない。							

大会開催地・開催順（予定）

和　暦	西暦	ＩＨ・選手権	選抜大会	国体
平成６年	1994	富山県・宇奈月町		愛知県・岡崎市
平成７年	1995	広島県・		福島県・三春町
平成８年	1996	山梨県・		広島県・
平成９年	1997	京都府（予）		大阪府・
平成10年	1998	香　川（予）		神奈川県
平成11年	1999	岩　手（予）		熊本県
平成12年	2000	岐　阜（予）		富山県
平成13年	2001			

ＩＨは、東　地区・・・北海道・東北・関東地区（15都道府県）
　　中　地区・・・北信越・東海・近畿地区（15府県）
　　西　地区・・・中国・四国・九州地区（17県）
　　のローテイションで９年（中・西）に１回の開催。

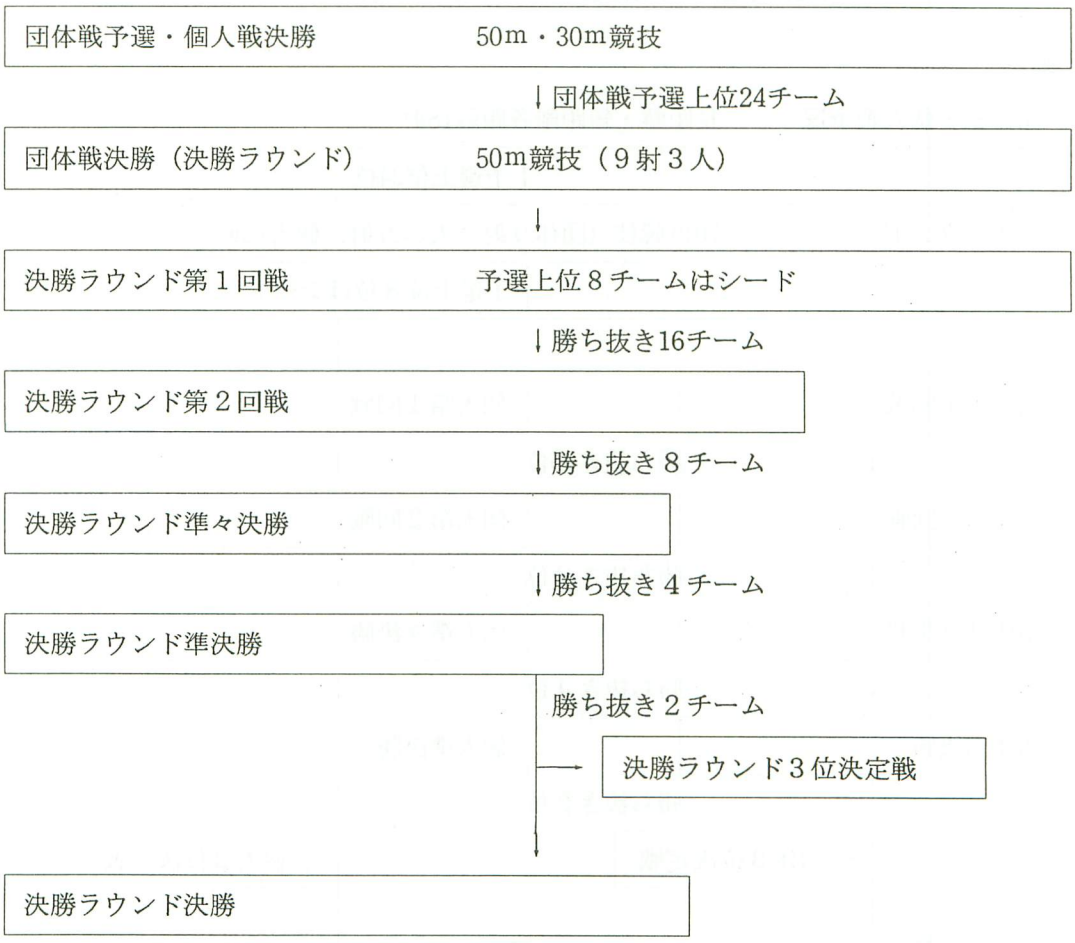
平成７年度以降の全国高等学校アーチェリー選手権大会について

― 変わる全国大会 ―

１．平成７年の広島県で実施される全国大会は試合形式が変更になります。

最終的には平成８年度の山梨県で実施される大会の形式になります。競技の距離は50ｍと30ｍで従来ハーフラウンドと呼んでいたものですが、この競技で個人戦の決勝戦と団体戦の予選を実施します。団体戦の予選通過は男女とも上位24チームです。団体競技の決勝ラウンドは男女とも１チーム３名の50ｍ各３射３回の９本で合計27射の合計得点で順位を決定し１回戦から決勝まで勝ち上がっていきます。ただし、予選の順位により１回戦のみ上位８チームをシードとします。その他、新設の点は決勝ラウンド１回戦開始前にフリータイムとして10分間自由行射練習があります。大会の流れを図示しますと第１図のようになります。同点はシュートオフにて順位、勝敗を決定します。

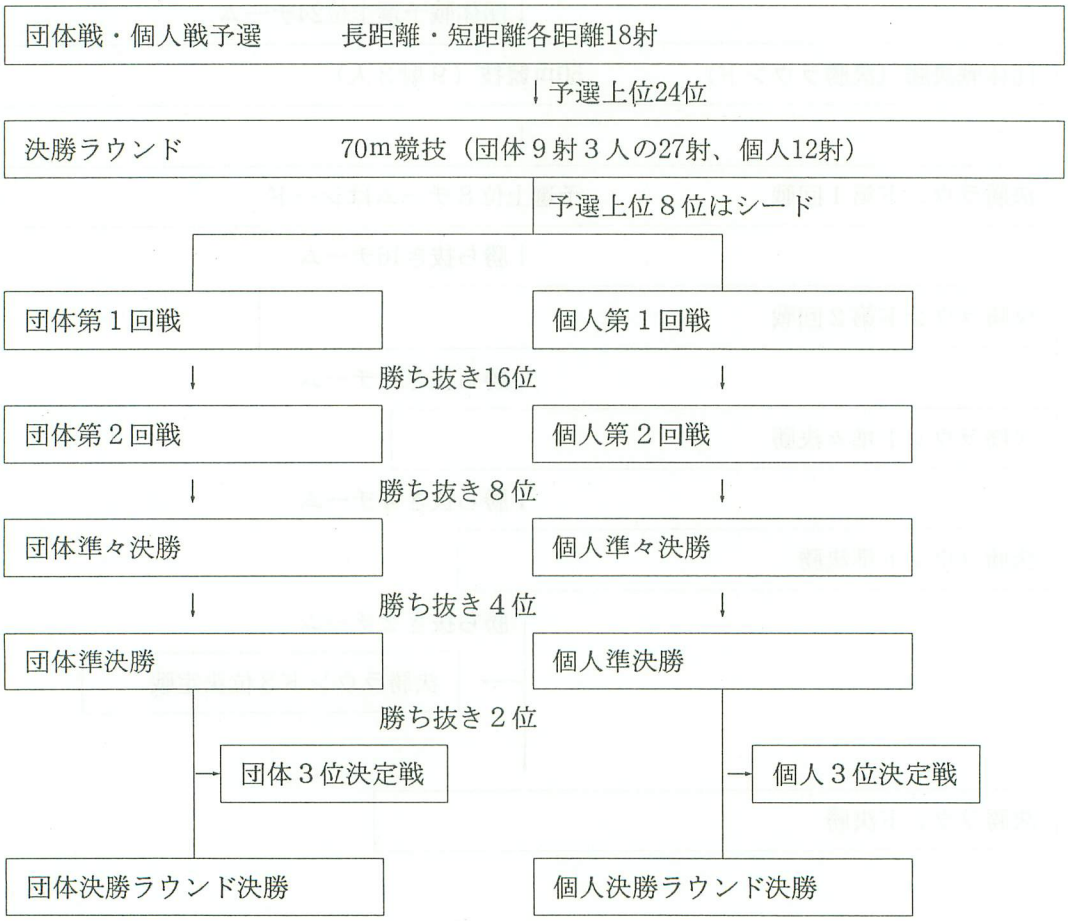
図１



2．平成８年度の山梨県の大会より、念願であったシングルハーフラウンドになります。現在の案では、団体競技・個人競技とも男子90m、70m、50m、30m、女子70m、60m、50m、30m各18射のいわゆるハーフラウンドです。これは長距離（90m、70m）１エンド４分６射、短距離（50m、30m）１エンド２分３射です。そして、これが、団体、個人の予選となり上位24位までが予選通過となります。予選通過順位８位までは団体・個人ともシードとなります。決勝ラウンドは70mの１種類の距離のみで、団体戦は１回戦と２回戦、準々決勝が各チームとも３分以内に１名３射で３名合計９本射ちこれを３エンド繰り返し計27射で勝敗を決定します。射つ順序は自由です。個人戦は全ての対戦は４分６射の２エンドの12射で勝敗を決定します。団体戦の準決勝、３位決定戦および優勝決定戦は両チームの１名づつがシューティングラインに立ち２分３射のチーム合計27射で勝敗を決定します。同点はシュートオフにて順位、勝敗を決定します。大会の流れは図２のようになります。

※尚、平成７年度の広島大会においては団体予選、個人決勝は従来通りで（団体）決勝ラウンドが予選通過24位までのチームで50m３人９射計27射の合計得点で競技します。決勝ラウンド１回戦は予選の結果によりシードされます。

図２



服　装　規　定

競技部　競技委員会　細則
昭和６２年２月１１日改定
平成　５年３月２６日改定

服装規定が本年度の全国大会より改定されます。昨年度とは大きく変更になるところがありますので、よく読んで下さい。

大会参加者における競技用の服装は、チーム内で統一されていること。統一の範囲は、上衣、下衣、帽子、靴、靴下とする。

１、上　衣

学校名は背面もしくは前面に、県名は右腕の袖口に、それぞれ１ヶ所明示しなければならない。なお、いずれも弓具装着時に視認できる位置に表示する。

その他の名称等は表示しないものとする。(その他の名称等には学校名、クラブ等の愛称も含む)

長袖、短袖は同一デザインならば、混在し着用できる。

２、下　衣

競技するのに適した形態で、全体が、白色のクラックスまたはスカートとする。(ジーパン、綿パン、ジャージ等は競技用として認めない。)

３、帽子、靴、靴下

白地のものとする。靴は運動シューズとする。(カジュアル、ダンス、タウン等の競技に適さないと認められるものは使用できない。)

４、その他

(1)　チームとは登録選手、マネージャーとする。

(2)　監督が競技場内に立ち入るときは、下衣は白色スラックス、もしくはスカートとし靴は白地の運動シューズとする。

(3)　使用頻度、経年による上衣等の退色等は認める。

(4)　大会の場にふさわしくない服装は認めない。

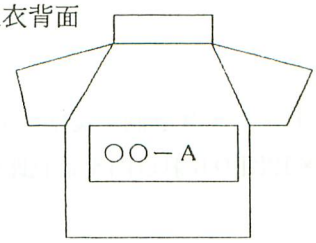
(5)　視認できる部分の商標の大きさ基準は縦、横５cm×５cmとする。

上記の規定外の服装に関しては、審判長および大会実施責任者の裁定に委ねる。

＊備考

【競技用ゼッケンの着装位置】

上衣背面



左図のように上衣両脇を結んだ線を上端とする位置に装着する。ただし、このゼッケンにより学校名等の視認が妨げられないようにすること。

主催者側で用意するゼッケンは縦１５cm、横２５cmです。

尚、本規定は平成５年４月１日より実施するものとする。

大会実施要項に記載すべき内容（各都道府県内大会）

1．大 会 名……ア．平成○○年度、第○○回
　　イ．大 会 名（兼.第１次予選、第２次予選、最終予選）
2．期　　日……ア．平成○○年○月○○日（　）～○月○○日（　）
　　イ．平成○○年○月○○日（　）開始　　時　　分～
3．場　　所……ア．○○高等学校グランド.（ＴＥＬ　　―　　―　　）
4．主　　催……ア．○○県教育委員会、○○市教育委員会
　　イ．○○県高等学校体育連盟
5．主　　管……ア．○○県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
　　イ．○○県高等学校アーチェリー連盟
6．日　　程……ア．開会式、競技開始、競技終了、表彰式（時間明示）
7．参加資格……１）全日本アーチェリー連盟ならびに全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部に生徒会員登録する高等学校生であること。
　　２）学校長の出場許可があり、当該高等学校教員が引率してくること。
　　３）年齢は、４月２日を起算日とし19才未満の生徒とする。
　　４）チーム編成において、全日制課程、定時制課程、通信制課程の生徒による混成は認めない。
8．参加制限……１）参加制限内容の明示
　　２）　　〃
　　３）参加申込み後のメンバー変更は認めない。
9．競技規定……平成○○年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適応する。
　　１）競技種目
　　ａ．ＦＩＴＡ○○○○ラウンド競技とし、学校対抗・個人戦を実施する。
　　ｂ．学校対抗（団体の部）は、各校上位３名の得点を合計し成績決定する。
　　ｃ．学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。
　　２）競技方法
　　ａ．各距離とも１標的１名で、Ａ・Ｂ・Ｃの３立制で実施する。
　　ｂ．試射は、ＡＢＣ．ＡＢＣの３射×12回の６射以内を最長距離で実施する。
　　ｃ．行射はＡＢＣ／ＣＡＢ／ＢＣＡの順で、３射毎に得点記録・矢

取りを繰り返す。

3）得点記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱いとし得点を認ない。

a．的中する矢の得点判読と記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称し、同標的を使用する他の競技者がシートに記録を記入する。

b．同標的を使用する全競技者が、相互にローテーションして的中得点の呼称とシート記入の確認者となって、得点記録を実施する。

c．得点判読・誤記入等で疑義がある場合には、審判員の判断をあおぎその判定を最終のものとする。

10. 服装規定…… 開・閉会式および競技中の服装は、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の通りとする。

11. 表　　彰

12. 参加費用

13. 連絡事項

14.そ の 他

プログラム作成の基準について

Ⅰ．目　　的

各県が作成するプログラムの記載内容を統一するとともに、相互の連携を以て組織の充実と地域編成を推し進めるため、この基準を定める。

Ⅱ．対　　象

加盟各都道府県の高等学校生徒を対象とする競技会プログラムとし、出来るかぎり速やかに対応すること。

Ⅲ．作成基準（次の通りとする。）

1．内　　容

県内における高等学校アーチェリー競技会に相応しい掲載内容とする。

（広告は努めて掲載しないことが望ましい。）

2．規 格 等

ア）規　格　Ｂ－５判サイズ、紙質：中質紙

イ）様　式　横書き（縦左とじ：右山折り返し）

ウ）書　式　手書き・タイプ印刷等

Ⅳ．掲載内容等（次のとおりとする。）

①［おもて　表紙］

1）大会名

2）期日・会場名

3）主催・主管

4）参加校数

5）大会・競技役目

②［表紙みかえし］＝（表紙裏）

1）競技日程

2）式典次第

3）参加校顧問名・出場選手数一覧表（男女別）

③［掲載内容等の順］

1）栄光のあゆみ（過去の成績）……Ｐ．１

2）大会記録・県高校記録

3）参加資格・制限……Ｐ．２

4）競技規定

ア．競技種目

イ．競技方法

ウ．得点記録の方法

④立順組合せ一覧表（男女別）……Ｐ．３～

⑤成績表……Ｐ．３最終頁

（作成にあたっては、以下を参照のこと。）

①［表　　紙］

大　会　名

平成　　年度
○○県高等学校□□アーチェリー競技会
（兼．全国高等学校選手権△△予選会）

□□…春季・秋季・県民
△△…１次・２次・最終

期　　日　　平成○○年○月○○日（　）～○月○○日（　）
会 場 名　　○○高等学校グラウンド（○○市民アーチェリー射場）
主　　催　　○○県教育委員会　○○県高等学校体育連盟
後　　援　　上部団体（県教委・県高体連の指導に従うこと）
主　　管　　○○県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
参加校数　　男　　子　　○○校　　○○○名
　　女　　子　　○○校　　○○○名

大　会　役　員

大 会 会 長（高体連会長ｏｒ協会会長）
大会副会長（高体連副会長ｏｒ協会副会長）
大会委員長（専門部部長ｏｒ協会理事長）
大会委員（専門部副部長ｏｒ協会副理事長）

競　技　役　員

競技委員会（専門委員長）
競技副委員会（専門副委員長）
総　　務・式典表彰・広　報　係・救　護　係
審　判　長・審　判　員
射　場　長・計　時　係・計　測　係・会　場　係
本部記録・記　録　係
・記録通報（本連盟へ競技会記録を報告する責任者）

②［表紙みかえし］

競技日程　　○月○○日（　）
開　会　式　　○○時○○分～
競技開始　　○○時○○分～（学校対抗）（個人戦）
競技終了　　○○時○○分
閉　会　式　　○○時○○分～

式典次第

[開　会　式]	[閉　会　式]
選手集合・整列	選手集合・整列
1．開　会　宣　言	1．開　式　通　告
2．優　勝　杯　返　還	2．成　績　発　表
3．大会会長挨拶	3．表　　彰
4．審　判　長　注　意	4．審　判　長　講　評
5．選　手　宣　誓	5．大会会長挨拶
6．閉　式　通　告	6．閉　式　通　告
選手退場・解散	選手退場・解散

参加校の顧問名・出場選手数一覧表（男・女別計）…参考様式

学　校　名	男　子		女　子		合　計		顧　問　名
	団体	個人	団体	個人	団体	個人	

③［過去の成績］（各年度・回数別に）参考様式

男女別　団体　優勝校名・記録［得点合計（上位３人の得点内訳）］

〃　　個人　優勝者名・記録［得点合計（50m・30mの得点内訳）］

年	回	性	団　　体	個　　人
**	1	男	○　○　高1930（660.640.630）	○○○○（＊＊高）650（610.640）
		女	◇　◇商高1870（630.630.610）	◇◇◇◇（＋＋高）640（610.630）
++	2	男		
		女		
++	3	男		
		女		

④［大会記録］

［団体男子］

○　○　　高　1930（第○○回大会）

- ◇◇　◇◇660（320．340）
- □□　□□640（310．330）
- △△　△△630（315．315）

［団体女子］

○　○　　高　1870（第○○回大会）

- ◇◇　◇◇635（310．325）
- □□　□□620（300．320）
- △△　△△615（300．315）

［個人男子］
△△　△△（□□高）　６４５（３１０．３３５）
（第○○回大会）
［個人女子］
△△　△△（□□高）　６３５（３１０．３２５）
（第○○回大会）

県高校記録
［団体男子］

◇◇	高　１９３１	◇◇	◇◇６５１（３２０．３３１）
		□□	□□６４５（３１５．３３０）
（第○○回大会）		△△	△△６３５（３１５．３２０）

［団体女子］

◇◇	高　１８８０	◇◇	◇◇６３０（３１０．３２０）
		□□	□□６３５（３１０．３２５）
（第○○回大会）		△△	△△６１５（３０５．３１０

［個人男子］
○○　○○（◇◇高）６８０（３３０．３５０）
（第○○回大会）
［個人女子］
○○　○○（◇◇高）６５０（３１０．３４０）
（第○○回大会）

⑤［参加資格］
１）高等学校に在籍する生徒で、平成　年度「全日本アーチェリー連盟」に生徒競技者登録を完了したものであること。
２）年令は４月２日を起算し、18才未満の生徒とする。ただし、同一学年での出場は１回限りとする。

参加制限

⑥［競技規定］
平成○○年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適用する。

１．競技種目
１）ＦＩＴＡハーフ・ラウンド競技とし、学校対抗・個人の部を実施する。
２）学校対抗（団体）の部は、各校上位３名の得点を合計し成績決定する。
３）学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。

２．競技方法
１）各距離とも１標的１名で、Ａ・Ｂ・Ｃの３立制で実施する。
２）試射は、ＡＢＣ．ＡＢＣの３射×２回の６射以内を最長距離で実施する。

3）行射の順序は、各距離ともＡＢＣ矢取り、ＣＡＢ矢取り、ＢＣＡ矢取りの順とし３射毎に得点記録、矢取りを繰り返し行う。

4）立ち遅れ、立ち残りは指導警告とし、度重なる警告は失格処置とする。

3．記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱としこの得点を認めない。

＊　大会実施時の要領（参考表記）

① 的中する矢の得点帯の判読と記録記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称（判読）し、同標的を使用する他の競技者が高得点が高得点から順に、スコアーシートに記録を記入する。

（例：ゼッケンＡの選手は、ゼッケンＢの選手の的中矢の得点を判読し、ゼッケンＣの選手が、スコアーシートへ記録記入を行う。）

② 同標的を使用する全競技者が相互にローテーションし、的中得点の呼称とスコアーシートの記入と確認を行って得点記録を実施する。

③ 標的の的中孔×又はL印は、使用する選手側で記入を実施すること。

4．服装規定

開・閉会式および競技会ともに、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の範囲とする。

⑦［立順組合せ］一覧表（男女別）…参考様式

（男子の部）

校名	ゼッケンNO	選手名	学年	得点 50m	得点 30m	個人 合計	個人 位	団体合計（順位）
○○○高校	1－A							（順　位）
	2－A							
	3－A							
	4－A							
△△工高校	1－B							（順　位）
	2－B							
	3－B							
	4－B							

⑧［成績表］

第○○回　高等学校□□アーチェリー競技会

成　績　表

92．．．

［団体男子］　　於：◇◇高校

順位	学校名	得点	得点内訳			
			選手名	50m	30m	TOTAL
1						
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
3						

［個人男子］

順位	選手名	学年	学校名	得点内訳		
				50m	30m	TOTAL
1						
2						
3						

その他事項

1）既に加盟する高体連が、プログラムの作成を規定する場合には、その規定を優先し指示事項に従うものとする。ただし、上記に規定する項目・内容等を順不同であっても網羅記載すること。

2）未だプログラムの作成基準を定めないその他の都道府県においては、上記に記載する項目・内容順にプログラムを編集作成すること。

注意事項

1）大会の主催・後援等の共催申請は、早目に関係機関・団体に申請し、編集製作時には共催名義の了解を得ておくこと。

2）大会役目・競技役員の委嘱は早目に作成し、各役員の所属する勤務先の直属上司宛に、２週間前までには発送し依頼しておくこと。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約

第 1 章　名　　称

第１条　本専門部は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部と称する。

第２条　本専門部の事務局は部長指定の学校に置く。

第 2 章　目　　的

第３条　本専門部は全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」と称する）規約第３条に基づき、高等学校におけるアーチェリー競技の健全な育成発展を図ることを目的とする。

第 3 章　事　　業

第４条　本専門部は第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）　全国大会開催に関する事項の審議並びに執行。

（２）　アーチェリーの普及並びに競技力の向上に関する事項。

（３）　アーチェリーの講習及び調査研究。

（４）　関係団体との連絡。

（５）　その他目的達成に必要な事項。

第 4 章　組　　織

第５条　本専門部は全国高体連規約第６条に基づき、各都道府県アーチェリー専門部をもって組織する。

第 5 章　役　　員

第６条　本専門部は次の役員を置く。

（１）　役員

１．部長　１名　　２．副部長　若干名　　３．委員長　１名

４．副委員長　若干名　　５．常任委員（ブロック代表９名＋若干名）

６．委員（各都道府県より１名）　７．監事　２名　８．事務局長　１名

（２）　本専門部は顧問を置くことができる。

第７条　役員の任期は２ヶ年とする。但し、再任は防げない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。

第８条　本専門部の役員は校長、教諭より選出する。但し、顧問を除く。

（１）　部長及び副部長は委員の推薦により、全国高体連理事会の承認を得て、部長をこれを委嘱する。

（２）　常任委員は全国９ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州）において選出された１名と若干名の推薦者を部長これを委嘱する。

（３）　委員は各都道府県高体連アーチェリー専門部より１名を選出する。

（４）　委員長及び副委員長並びに事務局長は常任委員会にて選出し、全国専門委員長会（以下委員会と称する）にて承認する。

（５）　監事は委員会で選出する。

（６）　顧問は委員会で推挙することができる。

第９条　役員の任務及び構成は次のとおりとする。

（１）　部長は本専門部を代表し、会務を統轄し全国高体連理事会に出席する。副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。

（２）　三役は三役会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長）を構成し代表者会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、競技委員長、強化委員長、審判委員長、総務委員長）とともに本専門部の企画、立案する。

（３）　常任委員は、常任委員会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、常任委員）を構成し、本専門部の企画立案するとともに委員会の承認をえてその執行にあたる。

（４）　委員は委員会（各都道府県代表、部長、副部長、委員長、副委員長、常任委員、監事、顧問）を構成し、本専門部の重要事項を審議決定する。

（５）　監事は本専門部の会計を監査し、その結果を委員会に報告する。

（６）　顧問は本専門部の組織運営について委員会並びに常任委員会の諮問に応ずる。

第　６　章　　会　　議

第10条　委員会は年１回部長が召集し、次の事項を審議する。但し、部長が必要と認めた場合または委員の⅓以上から会議の目的事項を示して請求があった場合は、速やかに委員会を召集しなければならない。

（１）　会議では次の事項を審議する。

ア．事業報告並びに計画　　イ．決算並びに予算

ウ．役員の選出　　エ．規約の改正　　オ．その他の重要事項

第11条　常任委員は必要に応じ、部長がこれを召集する。常任委員は常任委員会の開催を要請できる。

第12条　委員会及びに常任委員会は総会の½以上の（委任状を含む）の出席がなければ開くことができない。すべての会議は部長が議長となる。

第　7　章　　専門委員会

第13条　本専門部の事業遂行のため、各種の専門委員会を設けることができる。

（1）　専門委員会の名称・目的及び委員は委員会の決議を経て部長が定める。

（2）　専門委員会の規定は別にこれを定める。

第　8　章　　事　務　局

第14条　本専門部に事務局をおく。事務局の規定は別にこれを定める。

第　9　章　　規約の変更

第15条　本専門部の規約は委員会において、委員の⅔以上の同意を得て変更することができる。

第　10　章　　会　　計

第16条　本専門部の経費は補助金・助成金その他の収入によってこれをあてる。

第　11　章　　付　　則

第17条　規約の施行については必要な事項は委員会の議決を経て部長が定める。

附則　この規約は平成元年２月11日より施行する。

平成５年８月１日一部改正

総務委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき総務委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第４条の事業に必要な資金を調達すること。

２．優秀選手の表彰に関すること。

３．関係功労者の表彰に関すること。

４．規約改正に関すること。

５．機関誌の発行に関すること。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。

１．本委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

昭和60年８月10日一部改正

平成元年７月27日一部改正

平成５年８月１日一部改正

競技委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき競技委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．競技会に関する基本方針を確立すること。

２．全国高等学校アーチェリー選手権大会および選抜大会の実施方法その他の重要事項を審議すること。

３．本専門部関係の競技会の調整をはかること。

４．各競技会の記録整理および認定保存をはかること。

５．その他競技に関する必要事項。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。

１．本委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

昭和60年８月10日一部改正

平成元年７月27日一部改正

平成５年８月１日一部改正

審判委員会規　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき審判委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．競技会への審判員派遣に関する基本方針を確立すること。

２．審判員養成および研修事業に関すること。

３．審判資格修得および更新に関すること。

４．その他、競技規則および審判に関する必要な事項。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。

１．全国９地区（ブロック）の審判委員会委員長および専門部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

２．委員会で推薦された若干名の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は平成元年７月27日より施行する。

平成５年８月１日一部改正

強化委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき強化委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．強化ならびに普及活動に関する計画立案と、その推薦および指導に関すること。

２．国際競技等に代表選手を派遣すること。

３．指導者の養成および活動に関すること。

４．その他、強化、普及に関する必要な事項。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。

１．本委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

平成元年７月27日一部改正

平成５年８月１日一部改正

事　務　局　規　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第14条に基づき事務局に関わる規定を定める。

第２条　事務局は次の事業を処理する。

１．全国高等学校体育連盟との連絡等に関すること。

２．各大会における関係機関への連絡等に関すること。

３．全日本アーチェリー連盟と各都道府県アーチェリー協会（連盟）との連絡等に関すること。

４．各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部との連絡に関すること。

５．会員登録に関すること。

６．その他部長が指定する事項を処理する。

第３条　事務局には次の職員を置く。

事務局長　１名　　事務員　若干名

第４条　事務局長は、事務局を統轄し、事務局員を指導監督する。

第５条　事務局員の数並びにその任命は常任委員会の承認を得て事務局長が行う。

第６条　事務局員は事務局長の命を受け、本専門部会の事務を処理する。

第７条　事務局長の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

附則　この規程は平成元年７月27日より施行する。

平成５年８月１日一部改正

アーチェリー専門部表彰　規　　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下専門部と称する）では、表彰に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し表彰する。

第２条　この規程は全国高等学校体育連盟アーチェリー競技の普及振興に功績があった者等に対し表彰を行うとともに、全国高等学校体育連盟表彰規程の被表彰者の推薦母体に資することを目的とする。

第３条　前条に定める被候補は、次の各号から推薦するものとする。

１．本専門部長・専門委員長・専門部役員。

２．各都道府県専門部長・専門委員長。

３．その他。

第４条　表彰者の選考は部長・副部長・委員長・副委員長・事務局長があたり、常任委員会の承認を受けるものとする。

第５条　表彰は、常任委員会または全国高等学校アーチェリー選手権大会において行う。

第６条　本規程表彰者推薦のための基準は次の通りとし、重複表彰はしない。

１．本専門部長・専門委員長・専門部役員。

１）専門部役員については、３期（６年）以上とする。

２．各都道府県専門部長・専門委員長。

１）専門委員長については６年以上とする。

３．その他、特に功績のあった者。

第７条　推薦手続きは毎年４月中旬・10月中旬までに本専門部事務局宛に提出する。

第８条　経費は本専門部一般会計より支出する。

附則　この規程は昭和58年８月１日より施行する。

平成元年７月27日一部改正。

平成３年７月25日一部改正。

アーチェリー専門部慶弔　規　　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「専門部」と称する）では、慶弔に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し敬意を表わすことができる。

第２条　その基準と範囲は次のとおりとする。

１）　慶事に関して

ア）功績者および関係役員等が、他からの栄誉を称えられた場合。

２）　弔事に関して

ア）功績者および関係役員等に不幸が生じた場合。

３）　範囲

ア）記念品または弔慰金等およびこれらの電文とする。

第３条　その他、この規程に定めない特別の場合については、常任委員会の承認を得て敬意を表すことができる。

ただし、緊急の場合は部長がこれを支出し、常任委員会に報告・承認を得るものとする。

第４条　経費は本専門部一般会計より支出する。

附則　この規程は、平成２年４月１日より施行する。

連絡先および口座番号

1．事 務 局

〈登録担当〉

〒153　埼玉県大宮市堀ノ内1-615　大宮開成高校内

ＴＥＬ０４８－６４１－７１６１

ＦＡＸ０４８－６４７－８８８１

2．競 技 部

〈記録登録〉

○大　塚　敬　輔　〒856　長崎県大村市森園町1079-3

県立大村工業高校機械科内

ＴＥＬ０９５７－５２－３７７３　内線４５

ＦＡＸ０９５７－５２－３７７３

3．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局の口座

（銀行名）　あさひ銀行大宮支店（店番369）

（預金種目・口座番号）　普通預金　２５４７０７９

（口座・代表者名）　全国高体連ア専事務局　宮崎　利帳

4．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部総務の口座

（銀行名）　東海銀行覚王山支店　（店　番）２６４

（預金種目・口座番号）　普　通：１６１－２１５

（口座・代表者名）　全国高校アーチェリー　田　中　康　彦

5．斡旋物資申し込み先

〒４６２　名古屋市北区鳩岡２丁目18番１号

ミズノ株式会社　名古屋支社

第一事業部
マネージャー　中　島　康　善

ＴＥＬ　０５２－９１７－４５１１

ＦＡＸ　０５２－９１７－４５１９

あ と が き

昨年度は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部にとっては大きな一歩を記した年であったと思います。それは全国高校総体（インターハイ）に参加できたことです。今まで、同じようにスポーツをする高校生として日頃切磋琢磨に勤めていながら、インターハイ種目ではないがため、残念な思いをしてきました。しかし、本年は新聞紙面にもインターハイ種目の一つとして、全国にその試合の経過や成績が報道されました。これは、郷里で選手の成績を固唾をのんで見守っているクラブの仲間、ご父兄にとって何物にも代え難い物であったと思います。そして、それは来年に続く後輩たちにとってもこのうえない励みになったことでしょう。しかし、ここで一つ気にかかることがあります。この喜びも、何年か経つと当たり前の事となってしまうと言うことです。今の私達には、その喜びや意味するところは決して小さくありません。しかしながら、何年か先にアーチェリーをしている生徒や自分にとっては、それが当たり前のことになってしまい、その価値は色褪せた物となってしまうことでしょう。そのこと自体は、仕方のないことだと思いますが、今私たちの回りにも、同じようにかつての輝きに気づかず見過ごしていることが沢山あると思います。是非今一度自分の回りにある「時間という塵に埋もれた過去」を見つけてください。そして、現在の自分には当たり前になっている事、たとえばクラブの練習環境、伝統などの一つ一つが長い時間と、先人の努力の積み重ねであるという事を知っていただきたいと思います。そういう物の一つがこの会報の中にもあると思います。そして過去の重みを知ったとき、きっと私たちには新しい何かが見えてくると思います。

最後に会報第８号を発刊するに当たって、多くの方にご協力を頂きましたことを、紙面をお借りしてお礼申し上げます。次号ではさらに充実した会報にしたいと思いますので、広く皆様方のご意見、ご投稿をお待ちしております。（佐幸）

発行日　平成６年４月

編　集　総務委員会

発行所　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

事務局　〒330 埼玉県大宮市堀ノ内１丁目６１５
大宮開成高校内（TEL048-641-7161）
（FAX048-647-8881）

印刷所　㈱シバタプロセス印刷
〒526 長浜市神照町499-1
TEL（0749）63－６８６０㈹

あとがき

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS



確実なグリップを生む本格派。

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR

〈ランバード〉アーチェリーシューズ
36KA-8250 ¥10,000

- 甲/人工皮革(クラリーノエフ) ●底/VCRラバーソール
- 製法/セメント式 ●サイズ/22.0～28.0

芝のグラウンドでもグリップ性、ストップ性を発揮するVCR配合ラバーソールを採用。
アッパーにはソフトで足あたりが良く、耐久性・耐水性にすぐれた人工皮革(クラリーノエフ)を採用。

ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は「ミズノお客さま商品相談センターMUSIC」●東京TEL.(03)233-7110●大阪TEL.(06)454-5001